

愛知学院大学

教養部紀要

第67巻 第3号

論文

藤田 淳 志：演劇が持つことばの力
——ブロードウェイとブッシュ、オバマ、トランプ——……………（1）

菅 原 研 州：洞門における「説戒」について
——附録『丘宗潭老師「説戒」』翻刻資料——……………（72）

南部忠明・河野敏宏：来迎院如来蔵所蔵の『相好集』について……………（30）

研究業績（2019年1月～12月）……………（73）

第67巻総目次……………（83）

2020

愛知学院大学教養部

演劇が持つことばの力

——ブロードウェイとブッシュ、オバマ、トランプ——

藤 田 淳 志

2016年末のアメリカ大統領選挙の結果は世界を驚かせた。ドナルド・トランプが第45代アメリカ合衆国大統領に就任してしばらく経つ現在、アメリカ国内だけでなく世界がその影響下にある。

アメリカ演劇は社会と密接に結びついている。その時代の政治や文化に大きな影響を受け、時には影響を与える。本稿ではトランプを含めた近年3代の大統領とそれぞれの政権下の政治や社会の状況を、ブロードウェイやオフ・ブロードウェイの演劇作品を概観しながら分析する。特にアメリカ社会を語るのに重要な、人種とセクシュアリティに注目し複数の作品やテーマを俯瞰することで、アメリカがいかにして現在の状況に至ったのか、また今後どのような方向に進んでいくのかを考えるための一つの視点を提供したい。

1. 人種

1-1. 『アベニューQ』 (Avenue Q)

2003年にブロードウェイで公演を始めたこの作品は、子供向け教育番組『セサミストリート』を思わせるパペットが登場するミュージカルである。大きな違いは、こちらが性や人種などへの痛烈な風刺の効いたコメディであることだ。公開が始まった2003年は、2001年の9.11同時多発テロを受けて支持率が急上昇したジョージ・W・ブッシュ政権下で、のちに間違いだったと判明する大量破壊兵器の存在を根拠にイラク戦争が始まった年だ。

本作は大方の予想を超えるヒットとなり、現在も公演を続けるメガヒット作『ウィキッド』(Wicked) に勝って同年のトニー賞最優秀ミュージカル作品賞を受賞した。「インターネットは

ポルノのためにある」(“The Internet Is for Porn”)や「自分でいることがサイテー」(“It Sucks To Be Me”)、「英米文学の学士号が何の役に立つのか」(“What Do You Do with a B.A. in English?”)など、タイトルだけでも笑いを誘う曲が並ぶ。人種をテーマとしたい本稿では「誰もが少しは人種差別主義者」(“Everyone’s a Little Bit Racist”)に焦点を当てたい。

この曲は人形師が操る人間のプリンストンと、モンスターであるケイト・モンスターの会話から始まる。

プリンストン：ケイト、質問があるんだけど。

ケイト・モンスター：いいわよ。

プリンストン：上に住んでるトレッキー・モンスターのことだけど。

ケイト・モンスター：ええ。

プリンストン：彼はトレッキー・モンスターで君はケイト・モンスターだろ。

ケイト・モンスター：そうよ。

プリンストン：二人ともモンスターだよね。

ケイト・モンスター：そう。

プリンストン：二人は親戚なの？

ケイト・モンスター：なんですって、プリンストン！ 驚いたわ！ それって人種差別よ。

プリンストン：ただ聞いていただけなんだ。ごめん。

ケイト・モンスター：繊細な問題なのよ。モンスターなら全部親戚なんて間違ってる。何が
いいたいの？ 私たちはみんな一緒に見えるって？

プリンストン：そんなことないよ。ごめん。確かにちょっと人種差別的だったね。

ケイト・モンスター：そうね。繊細な人種の問題を話す時にはもっと気をつけないとね。

(25-26)¹⁾

自身の人種差別（ここではモンスター差別）を指摘されたプリンストンはケイト・モンスターが開くのが夢だと話すモンスター特別学校に、自分のような人間が通うことができないことも差別だと指摘する。そして二人はどちらも少し人種差別主義者であるという合意に至る。

プリンストン：ほらね。君はちょっと人種差別主義者だね。

ケイト・モンスター：あなたも少し、そうよね。

プリンストン：僕ら二人とも、少し、人種差別主義者だね。

ケイト・モンスター：認めるのは簡単じゃないけど。

プリンストン：本当のことだね。

ケイト・モンスター：内緒だけど。(27)

まずは人形たちが演じる人間とモンスターの間での差別意識が描写されることで、観客はデリケートな話題にも笑いながら反応することができる。同じ曲の中で、差別の話題は人間同士へと移る。曲の終盤では日系人クリスマス・イブの白人の夫ブライアンが、自分は人種差別主義者ではないと主張する。

ブライアン：自分は違う。君たちには何人のオリエンタルの奥さんがいる？

クリスマス・イブ：なんですって、ブライアン!?

プリンストン：ブライアン、これまでどこにいたんだい？ アジア系アメリカ人って呼ばないといけないんだよ！

クリスマス・イブ：そういうつもりじゃないのはわかるけど、私をオリエンタルって呼ぶのは、侮辱なのよ。(33)

ブライアンは妻がアジア系であることで自分には人種的偏見がないと思い込んでいる。しかし、彼もアジア系に対して差別的な含意があるとされる「オリエンタル」という言葉が無意識に使うことが示すように、誰の心にも人種に関する偏見が潜んでいる。観客は笑いながら、自身の偏見を認識させられることになる。

人種の問題は初の黒人大統領の誕生後も、なくなるどころかますます顕在化している。2012年にはコンビニ帰りの17歳の黒人少年トレイボーン・マーティンが近所の見回りをしていたジョージ・ジーマーマンに射殺された。ジーマーマンが無罪になった裁判を受け、オバマ大統領は予告なくホワイトハウス記者会見室に現れ、「トレイボーン・マーティンは35年前の私だったかもしれない」と語った。この国でデパートで買い物をしていて、後をつけられた経験のないアフリカ系アメリカ人男性はあまりいないだろうなどと、アメリカで黒人であることの自身の体験を訴えた。その後も丸腰の黒人男性が警察官に殺される事件が多発し、「ブラック・ライブス・マター」（黒人の命は大切だ）運動が起った。

1-2. 『ディスグレイسد（恥辱）』（Disgraced）：凍りつく観客

本作はマンハッタンのアッパーウエストサイドエリア、リンカーンセンターにあるオフの劇場で2012年に公開され、反響が大きく2014年にブロードウェイに上がった。パキスタン系アメリカ人のアヤド・アフタルによる作品である。主人公アミールは成功した企業弁護士でパキ

スタン系アメリカ人、白人の妻エミリーはイスラムアートの画家である。アミールは職場では面倒を避けるためイスラム系ではなくインド系だと偽っていたが、テロの嫌疑をかけられたイスラム教指導者を助けたことが新聞に掲載され、確実だと思っていたパートナーへの昇進は同僚の黒人女性ジョリーのものになってしまう。エミリーの作品が美術館に展示されることを祝ってユダヤ人のキュレーター、アイザックとジョリーを招いて自宅でパーティーが開かれる。ユダヤ系のアイザックとムスリムのアミールの議論が白熱する。

アイザック：9.11にプライドを感じた？

アミール：正直に言えば、そうだ。

エミリー：アミール、本気で言ってるわけじゃないわよね。

アミール：ぞっとしたよ。本当にぞっとした。

ジョリー：何にプライドを感じたの？ ビルが崩壊したこと？ 人々が殺されたこと？

アミール：我々がついに勝利してるってことにだ。(54-55)

執筆者はオフとオンの両方で公演を鑑賞したが、特に初めてオフの劇場で観たときの衝撃は忘れられない。ニューヨークの地で「9.11にプライドを感じた」というアミールの発言は観客を凍りつかせるのに十分だ。白人女性でありながらイスラムアート作家である妻、その不倫相手でユダヤ人のアイザック、アミールから結果的に出世を奪った黒人女性ジョリーという人種とジェンダーのバランスも、単にイスラムフォビアにとどまらない問題の深刻さを強調する。

トランプは選挙キャンペーン中から、ツインタワーが崩壊した時対岸のニュージャージー州でイスラム教徒のアメリカ人たちが歓声をあげていたと嘘を繰り返し、イスラム圏からの入国禁止「ムスリム・バン」を主張した。当選後一旦は頓挫したが修正して、2017年6月最高裁がこれを容認している。

1-3. 『忠誠』(Allegiance)

選挙中に主張した「ムスリム・バン」への批判を受けたトランプは、2015年12月、ABCテレビのインタビューで、ルーズベルト大統領も同じことをして高く評価されていると第二次世界大戦中の日系アメリカ人の強制収容キャンプを引き合いに出した。

テレビドラマシリーズ『スタートレック』のスルー役で知られる日系アメリカ人俳優、ジョージ・タケイは自身の日系人強制収容所での体験からトランプの政策を強く非難した。彼が制作から深く関わって出演もしたのが『忠誠』である。2012年にサンディエゴで公演を始め、2015年にブロードウェイで公開された。真珠湾攻撃の後、強制収容所に入れられた日系

アメリカ人家族が描かれる。アジア系アメリカ人の視点から描かれ、主要キャストのほとんどがアジア系ということもブロードウェイでは画期的な作品である。

1-4. 『ハミルトン』(Hamilton)

建国の父の1人、初代財務長官アレクサンダー・ハミルトンの生涯を描いたミュージカルで、プエルトリコ系のリン＝マニュエル・ミランダが作・主演を務める。歴史上白人であった主要登場人物は、英国王ジョージ3世以外全て非白人俳優が演じる。このミュージカルは空前のヒットとなり、変更が検討されていたハミルトンは20ドル紙幣に残留することとなった。またミランダが演じたハミルトン役の交替を控えた公演のチケットは、一時2万ドルで取引されたとも言われる。

2009年ホワイトハウスのイベントで、ミランダはオバマ大統領の前でまだ製作中だった本作の一部をパフォーマンスした。そして2016年11月18日、次期副大統領に決まったマイク・ペンスがブロードウェイで本作を観劇した。カーテンコールでは早めに劇場を出ようとしていたペンスにキャストが以下のように語りかけた。

私たちは多様なアメリカです。私たちはあなたの新しい政権が私たち、私たちの地球、私たちの子供たち、両親を守ってくれないのではないかと、私たちを擁護し我々の奪うことのできない権利を支持してくれないのではないかと恐れ、不安に思っています。私たちは本当に、このミュージカルがアメリカの価値を支持するよう、私たちすべてのために働いてくれるように、あなたにインスピレーションを与えたことを望んでいます。(Taylor)

これに対して、次期大統領トランプはツイッターで以下のように反論した。

わたしたちの素晴らしい未来の副大統領マイク・ペンスが劇場でハミルトンのキャストに嫌がらせを受けた。(中略)

こんなことが起きるべきではない。

劇場は常に安全で特別な場所ではない。

ハミルトンのキャストはとても善良な人間であるマイク・ペンスに対して、昨晚大変失礼だった。

謝罪を！(Taylor)

上記のカーテンコールで示された懸念は悪夢のように実現することとなった。ミランダは家族

の故郷であるプエルトリコを襲ったハリケーン・マリアへの対応についてなど政権を激しく非難している。

2. セクシュアリティ

2016年の最高裁判断によって全米で同性同士の結婚が可能となった。同性愛者の権利獲得への闘いの歴史は長いが、ここでは近年のみを振り返り、ブロードウェイの2作品と絡めて論じたい。

ジョージ・W・ブッシュ大統領の再選を狙う選挙キャンペーンで、カール・ローブ次席補佐官はキリスト教福音派の保守票の掘り起こしを狙う戦略として、2004年の大統領選挙と同日に11州で同性婚を禁じる憲法改正案を住民投票にかけた。前年には全米で初めてマサチューセッツ州で同性婚が可能になっており、保守層の危機感を煽る作戦は功を奏して11州全てでこの改正案は可決された。

オバマが初の黒人大統領となった選挙と同時に行われた2008年のカリフォルニア州の住民投票では「提案第8号」が僅差で可決され、すでに同州では認められていた同性婚が否定されることになった。オバマは当選後も、同性婚については慎重な姿勢を崩さず、「結婚は男性と女性の間の神聖な結びつき」であると答え、また自身の同性婚に対する考えが「進化中」であると言い続けた。その一方で2011年にはクリントン大統領時代から続いていた「聞くな、答えるな」(Don't Ask Don't Tell) 政策を廃止し、同性愛者が性的指向を隠さないで従軍できるようになった。

2012年2期目の選挙戦をにらんだ時期に、オバマはテレビのインタビューでついに同性婚への支持を表明した。当選後の就任演説では、アフリカ系アメリカ人による公民権運動の象徴的な地名であるセルマと、女性運動のセネカフォールズに並べて、同性愛者のストーンウォールを挙げ、同性愛者による権利獲得運動をアメリカ史の中に位置付けた。そして2016年、全米で結婚の平等が実現した。

2-1. 『ファン・ホーム』(Fun Home)

2013年にオフ・ブロードウェイで公開され、2015年にブロードウェイに上がった『ファン・ホーム』はアリソン・ベクデルの自伝漫画小説が原作のミュージカルである。葬儀屋を舞台にベクデルとその家族の半生が描かれる。ベクデルは大学生の時レズビアンであることを両親にカミングアウトしたが、母はベクデルに父がゲイだと告げる。それからしばらくして父が自殺した。主人公は観客に「あなたのとは全く違う、そしてあなたのとそっくりな、家族について

のミュージカルへようこそ」と語りかける。このセリフが表しているように、『ファン・ホーム』は特異な状況の家族の普遍的な家族愛を描いた。男性同性愛者に比べても注目されることの少ない女性同性愛者を主人公にし、自殺も含めた重いテーマを真摯に描いたミュージカルでありながら、ブロードウェイで商業的にも成功したことは注目すべきだ。オバマ政権のLGBT問題への国際的な取り組みを象徴するように、2016年には米国連大使が17カ国の大使とともにこの作品を観劇し、その中には反LGBT政策で知られるロシア大使も含まれていた²⁾。その後、国連ではLGBTに関する初の首脳級会合が開かれ、ジョー・バイデン副大統領も参加した。

続く2016年の大統領選挙戦で、ヒラリー・クリントン候補は出馬表明ビデオに2組の同性愛者カップルを登場させている。対抗するトランプ候補は副大統領候補に強硬な反LGBTの立場で知られるマイク・ペンスを指名し、当選後もトランスジェンダーの従軍禁止などオバマ大統領時代の進展を一つずつ潰すような政策を取り続けている。

2-2. 『エンジェルズ・イン・アメリカ』(Angels in America)

2018年にブロードウェイで上演された『エンジェルズ・イン・アメリカ』は初演から25年後のリバイバル公演で、イギリスのナショナルシアターによるプロダクションである。トニー・クシュナーによるこの作品はアメリカ演劇史においても少なくともここ四半世紀の最高傑作であり、1990年ごろのエイズ危機にあったアメリカを描いている³⁾。二部からなり、合わせて上演時間7時間を超える大作だが、その中で唯一、歴史上実在した人物として登場するのがロイ・コーンである。1950年代のマッカーシズムでジョセフ・マッカーシー上院議員の右腕として知られたコーンは、マッカーシー失脚後もニューヨークで数多くの有名人やマフィアらの弁護士として、また政界のフィクサーとしても暗躍した。そしてコーンの顧客の一人がドナルド・トランプだったことは、このリバイバル公演をさらに興味深いものにした。単なる顧客と弁護士の関係ではなく、コーンは大物とのつながりを模索していた若きトランプの師匠となり、公私ともに深いつながりを持った⁴⁾。

作者のクシュナーは25年以上前の本作品の執筆時には、現在のトランプ政権の状況を予想する術もなかった。「作品を執筆していた頃の自分に何か言うとしたら」という質問に次のように答えている。

レーガン再選の後でこれら全てに取り組んでいて、とても暗く感じました。あの頃60歳になって29歳の頃見ていたのと同じ、いまいまいしい戦いのいくつかを見るだろうと知らなくてよかったと思います。何も、どんな権利も永遠ではありません、今は暗い、本当に

暗い日々です。しかし私は私たちの民主主義の回復力を信じていますし、このひどい人間と彼の憎しみに満ちた手下たちを克服して、生き残ることができると思っています。(Butler No. 8709-8712)

クシュナーも実際に路上に出て参加したエイズ危機におけるアクティヴィズムの成果もあり、エイズはもはや死の病ではなくなり、同性愛者を取り巻く環境も大きく変化した⁵⁾。しかし、彼が“same fucking fights”と呼ぶレーガン政権下のエイズ危機の闘いと現在のトランプ政権下での闘いは、奇しくもロイ・コーンという登場人物を通して『エンジェルズ』が繋ぐことになった。

次の劇中のコーンのセリフは現大統領に通じるところがある。コーンが担当し世界的な批判を浴びたエセル・ローゼンバーグの裁判について語る場面である。

どうしてかって？ 裏切り者が大っ嫌いだからさ。共産主義者が大っ嫌いだからさ。それが合法だったかって？ 合法なんてクソ喰らえだ。自分がいい人間かって？ 「いい」なんてクソ喰らえだ。いい人になりたいか、影響力のある人間になりたいのか。法を作りたいか、それに従いたいのか。どちらか選ぶんだ。(113)

トランプはロシア疑惑に際して、「自分のロイ・コーンはどこだ」と語ったとされる (Schmidt)。影響力を手にしたトランプに必要なのはロイ・コーンのように憲法や法律を都合のいいように解釈してくれる弁護士だ。何があってもトランプを守るといいながら、訴追されたのちに立場を変えた顧問弁護士マイケル・コーエン (Michael Cohen) や元ニューヨーク市長で、トランプにスキャンダルが生じるたびにテレビに駆り出され、のちに触れるが“Truth isn't truth.”などと常軌を逸したかのような発言でメディアを攪乱するルディ・ジュリアーニ (Rudy Giuliani) の役割も同じである。

初演から25年が経過して、幸いにも作品で描かれたエイズ危機は過去のものとなった。しかし、クシュナー自身が語るように政治状況は驚くほど重なっている。作品のエピローグのシーンでエイズを発症しながら生き延びている主人公プライアーは観客に語りかける。

僕たちはもう隠れて死んだりしない。世界はぐるぐる回りながら進んで行く。僕らは市民になる。その時が来たんだ。(290)

2016年には全米で同性婚も認められた。世界は確かに前進するしかない。ただそれは一直線

ではなく、スピンしながら、繰り返しながらである。またエイズ危機でLGBTを中心とした人々が命がけで政治や社会と闘わなければならなかったように、繰り返す歴史がそれでも少しずつ前進するためには、常に闘い続けることが必須である。

3. ジャーナリズムと「ことばの力」

ここまで演劇における比喩的なことばの力を見てきたが、最後に同時代のジャーナリズムの、より直接的なことばの力について概観したい。

全米発行部数一位のUSAトゥデイはこれまで特定の大統領候補を支持したことがなかった。その慣例を破って、「大統領にふさわしくない」トランプ候補を支持しないことを社説で表明した(Editorial Board “Trump is unfit”)。また同紙編集部は、トランプ大統領就任から一年が経とうとする2017年末に「トランプの低い水準には底があるのか」という社説を発行し、以下のように述べている。

クリステン・ジルブランド上院議員を売春婦とほめかすような大統領はバラク・オバマ大統領図書館のトイレ掃除にも、あるいはジョージ・W・ブッシュの靴磨きにもふさわしくない。(Editorial Board “Will Trump’s lows”)

またトランプ大統領がフェイクニュースとしてしばしば敵視するニューヨークタイムズ紙やワシントンポスト紙はファクトチェックの報道を続けている。2017年6月にタイムズ紙は、インターネット版では全てリンク付きの就任以来のトランプの嘘をまとめた記事を発表した。その導入が以下である。

多くのアメリカ人がトランプ大統領の嘘に慣れてきてしまった。しかし、それがいかに定期的になろうとも、国はそれらに無感覚になることを許してはならない。よって私たちは彼が就任の宣誓をして以降、公の場でついたほぼ全てのはっきりした嘘をカタログ化した。(Leonhardt)

ワシントンポスト紙も同様の報道を続けているが、本稿執筆時で最新の2019年12月の記事には就任1055日で15413の間違った、あるいは誤解を招く主張をしたことがまとめられている(Kessler)。

このように文字通り「ことばの力」を使って戦う姿勢を貫くメディアがあるのに対して、こ

とばはどのように利用されるかによっては全く逆の力も持ち得る。2017年1月、大統領顧問のケリーアン・コンウェイはテレビのインタビューで、「もう一つの真実」(alternative facts)というフレーズを使用した。報道官のショーン・スパイサーが大統領就任式の参加者数について明らかな嘘を発表したことに対して、コンウェイはそれを「もう一つの真実だ」と言っていた。また2018年8月、トランプの私的な弁護士である元ニューヨーク市長のルディ・ジュリアーニはロシア疑惑に関するテレビインタビューで「真実は真実ではない」(Truth isn't truth.)と発言した。

大統領自身による多くの嘘や、彼の周りの「ことばの力」を軽んじようとするこれらの試みと、それに抵抗する真摯なメディアの報道の闘いは、民主主義そのものの存続に関わる。

ジャーナリズムが持つ「ことばの力」の使命はトランプ時代にますます認識されている。それと同時に、二極化の枠組みを脱する視点を提供するのは難しく、両極の溝は深まるばかりである。そのことばの限界を補う力はこれまでも芸術に求められてきたし、本稿で論じたような演劇作品はその代表である。

(本稿は2018年度愛知学院大学公開講座「ことばの力」の講演内容を加筆修正したものである。)

注

- 1) 引用の日本語訳はすべて本稿の執筆者による。
- 2) “US promotes” を参照。
- 3) Brantley を参照。
- 4) コーンとトランプの師弟関係については Kranish に詳しい。
- 5) Butler にはプラカードを持ってアクトアップのデモに参加するクシュナーの写真も掲載されている。(No. 772)

引用文献

- Akhtar, Ayad. *Disgraced*. London: Bloomsbury, 2013.
- Brantley, Ben and Jesse Green. “The Great Work Continues: The 25 Best American Plays Since ‘Angels in America.’” *New York Times*. May 31, 2018.
<https://www.nytimes.com/interactive/2018/05/31/theater/best-25-plays.html> (accessed Sep. 30, 2019)
- Butler, Isaac. *The World Only Spins Forward: The Ascent of Angels in America*. New York: Bloomsbury Publishing, 2018. Kindle ebook file.
- Editorial Board. “Trump is unfit for the presidency” *USA TODAY* Sep. 29, 2016. (accessed Sep. 30, 2019)
<https://www.usatoday.com/story/opinion/2016/09/29/dont-vote-for-donald-trump-editorial-board-editorials-debates/91295020/>

- . “Will Trump’s lows ever hit rock bottom?” *USA TODAY* Dec. 12, 2017. (accessed Sep. 30, 2019)
<https://www.usatoday.com/story/opinion/2017/12/12/trump-lows-ever-hit-rock-bottom-editorials-debates/945947001/>
- Kessler, Glenn, et al. “President Trump has made 15,413 false or misleading claims over 1,055 days.” *Washington Post* Dec. 16, 2019.
<https://www.washingtonpost.com/politics/2019/12/16/president-trump-has-made-false-or-misleading-claims-over-days/>
- Kushner, Tony. *Angels in America*. London. Nick Hern Books, 2017.
- Leonhardt, David and Stuart A. Thompson. “Trump’s Lies” *New York Times* Jun. 23, 2017. (accessed Sep. 30, 2019)
<https://www.nytimes.com/interactive/2017/06/23/opinion/trumps-lies.html>
- Lopez, Robert, et al. *Avenue Q: The Musical*. New York: Applause Theatre & Cinema Books, 2010.
- Schmidt, Michael S. “Obstruction Inquiry Shows Trump’s Struggle to Keep Grip on Russia Investigation.” *New York Times* Jan. 4, 2018.
<https://www.nytimes.com/2018/01/04/us/politics/trump-sessions-russia-mcgnah.html> (accessed Sep. 30, 2019)
- Taylor, Jessica. “‘Hamilton’ To Pence: ‘We Are The Diverse America Who Are Alarmed’” *NPR* Nov. 19, 2016. (accessed Sep. 30, 2019)
<https://www.npr.org/2016/11/19/502687591/hamilton-to-pence-we-are-the-diverse-america-who-are-alarmed>
- “US promotes gay rights at United Nations with Broadway musical visit” *Guardian* Mar. 2, 2016. (accessed Sep. 30, 2019)
<https://www.theguardian.com/world/2016/mar/02/us-promotes-gay-rights-united-nations-broadway-musical-fun-home>

来迎院如来蔵所蔵の『相好集』について

南部忠明・河野敏宏

目次

- 一、はじめに（本稿の目的）
- 二、『相好集』の特徴
- 三、『相好文字抄』と『相好集』との関係
- 四、『相好文字抄』と『相好集』の撰述背景
- 五、結語

一、はじめに（本稿の目的）

前稿において来迎院如来蔵所蔵の『相好文字抄』がいかなる典籍であるかについて述べた^{〔1〕}。ところで来迎院には『相好文字抄』と類似した名称をもつ『相好集上』（以下、『相好集』と略称する。ちなみに「下」は所蔵されていない。）という典籍が存在する。その名称の類似性からすれば、両書には何らかの関係がある可能性もある。本稿においては、『相好集』の内容に言及し、『相好文字抄』と本書との関係について述べる。

来迎院如来蔵所蔵の『相好集』について

なお、今回の研究にあたり、来迎院御住職、齋藤孝圓氏のご厚意によって、筆写および調査を行うことができた。記して深く感謝申し上げる。

二、『相好集』の特徴

まず『相好集』の概略を紹介する^{〔2〕}。

『相好集』の奥書には、

相好集上 一交了 願以此功德。普及於一切。我等与衆生。
往生安樂國。面見阿弥陀佛相好莊嚴身。及十方諸佛妙色身。
皆聞正法亦見功德身。妙法身。佛子運覺 大治四年九月十日
午剋書了 執筆 暹胤 一交了 三郎丸（注：三郎丸は別筆）

とある。これによれば大治四年（一二二九年）の書写であることが分かる。願主は佛子運覺であり書写者は暹胤ではないかと思われる。ただし、撰者が佛子運覺であるとは、現時点では、確定できない^{〔3〕}。

『相好集』の冒頭は次のような記述ではじまっている。（出典注は【】で示した。）

【智度論第廿九云】如般舟三昧中説。菩薩入是三昧。即見阿弥陀佛。便問其佛何業因縁。故得生彼國。佛即答言。善男子。以常脩念佛三昧憶念不廢故得生我國。問曰。何者是念佛三昧得生彼國。答曰念佛者。念佛三十二相八十随形好金色身。々出光明遍滿十方。如融閻浮壇金其色明淨。又如須弥山

王在大海中。日光照時其色發明。∴以下略∴

『智度論』とは『大品般若經』の注釈書である『大智度論』を指す。この条文においては、念仏について「念仏とは、仏の三十二相八十随形好の金色身を念ずることであり、仏の身より出た光明は遍ねく十方に満ち、閻浮壇金をとかしたようで其の色は明淨である」等と述べており、阿弥陀仏の三十二相八十随形好を念仏することによって功德が得られることが説かれている。このような記述を冒頭に掲げている点から、『相好集』は「阿弥陀仏をはじめとする諸仏の相好すなわち三十二相と八十随好を念じる」ことの重要性を認識し、その上になつて撰述された典籍であることが分かる。

このことは『相好集』という書名や前述の奥書部分にもあらわれている。奥書にみえる「相好莊嚴身」とは「業報仏と同じで、業報として三十二相・八十随好をもつて現れる仏のこと」である。⁽⁴⁾

本書の特徴をさらに説明するため、前掲の「智度論第廿九」から引用された部分に続く本書冒頭部分を出典ことに改行して例示する。《》は割り注。《》は小文字。

【大般若經第三百八十一云】善現。云何如来應正等三十二大士相。善現。世尊足下有平滿相。妙善安住猶如奩底。地雖高下隨足所蹈皆悉坦然无不等觸。是為第一。《栖復》云問下第六十八好其足去地四指量如何名等觸。答只去地四指

量而有印文。亦名等觸下。八十好初佛本相。合去地四指。今此初示相教化衆生說實語者地色。》

【无上依經下卷云】足下平滿。所履踐地悉皆平夷。稱菩薩脚无有坑陷《相》

【瑜伽論第四十九云】一者足善安住等案地相。《相》

【大乘百相莊嚴相經云】廿七者兩足掌下皆悉平滿相。《相》

【觀佛三昧經第一云】如来足下平滿不容一毛。

【智度論第五云】一者足下安平立相。足下一相。着地間无所受不容一針。《相》《此卷中引迦旃延子說太子時相也。自下餘相皆唯知之。》

【十住毘婆沙論第六云】足安住不動。名足安立相。《相》

……………（中略）……………

【尼乾子經偈云】瞿曇胸相滿亦如師子坐《好》

このような本文を有する本書の特徴をあらかじめまとめて述べれば以下の三点である。

(一) 仏の身体的特徴を諸經典から引用して各々の特徴毎に分類した典籍である。

(二) 文末に《相》《好》の注記がなされていることが多い。

(三) 三十二相と八十随好の身体的特徴がすべて採録されているわけではない。

これらの点について以下詳述する。

(一) については、以下のようである。

右に示した例では、『大般若経』、『无上依経』、『瑜伽論』、『大乘百福相莊嚴相經』、『觀佛三昧経』、『智度論』、『十住毘婆沙論』などから、例えば「足善安住等案地相。（世尊の足の下が平坦であり善く安住すること（瑜伽論））などのような「仏の足」に関わる特徴を引用し、これらが一つにまとめて記載されている。

（二）については、以下のようなものである。

各条文の末尾には〈相〉あるいは〈好〉という注記がある。

〈相〉は三十二相、〈好〉は八十随好を指しており、当該注が三十二相のものであるか八十随好のものであるかが明確に分かる。

（三）については、以下のようなものである。

実は、三十二相と八十随好の引用に際しては、その引用方針が『相好集』の本文末尾に以下のように示されている。

已上三十二相八十随好竟。三十二相盡大般若経第三百八十一、瑜伽論第四十九之所説。八十随好、但盡大般若之所説、其餘経論所説。相好並撮要耳。（同書三百七十九行目〜三百八十一行目）

この記述によれば、『相好集』においては、三十二相は『大般若経』卷第三百八十一や『瑜伽論』第四十九から採録し、八十随好は『大般若経』や他の経典から引用していることが知られる。ただし「撮要」とあることから分かるように、必ずしも三十二相八十随好の特徴のすべてを引用しているわけではない。

例えば、「手足柔軟相」「手過膝相」なども三十二相の一つであるが、このような相好を『相好集』は記載していない。つまり、

来迎院如来蔵所蔵の『相好集』について

相好の全ては記載されておらず、取捨選択が行われているということである。

以上をまとめると、『相好集』とは、阿弥陀仏をはじめとする諸仏の相好に関する記述を諸経典から集めて分類して列挙した、一種の「アンソロジー」とでもいうべきものであると考えられる。

三、『相好文字抄』と『相好集』との関係

ところで、前稿で述べたように、来迎院には『相好文字抄』なる典籍が所蔵されている。

同書は、『相好集』と同様「相好」を扱いながらも、各種小学的な注を加えた「仏典辞書（特に相好語辞書）」的性格を有しており、その性格は本書とは大きく異なっている。しかし、両書の包紙や奥書きを比較すると、次のように、両者には何らかの繋がりがあろうな点が見出される。

（一）『相好集上』、『相好文字抄下』とあるように、書名のよく似た両書が相補的に上・下と記されている。

（二）ともに大治四年書写であって、しかも書写の終了月日が一日違いである。⁽⁵⁾

では、両書の相好語やその掲載順序にも何らかの関係がみられるのであろうか。

次に掲げる〈表A〉は、『相好文字抄』に記載されている相好語が『相好集』ではどのように記載されているのか、さらに、当

該の相好語が『相好集』においてどのような順序で出現するのか、を調査してまとめたものである。

『相好文字抄』の「序数」「引用經典名」「相好語」の項目については、前稿の〈表一〉を参照。『相好集』の「序数」は、相好について述べた引用文の出典ごとの序数である。ひとつの序数の出典からの引用文の中に複数の相好語が含まれる場合もある。例えば、『相好集』74番「大般若經云」の引用文の中には、「喉脈」「延縮」「癰曲」「呑咽」「津液」「身心適」の六種の相好語が含まれており、これらの相好語は『相好文字抄』の48番～53番の相好語と一致している。ちなみに、これらすべてを合わせたものが

「第二十五相」である（是二十五）。序数に付した*については後述する。「引用經典名」の項目には各種相好語を含む引用文の出典名を記した。「同經云」のように固有名を挙げていない出典注については、例えば、「同經（觀佛經）云」のように具体的な經典名を補った。「相好語」の項目にはその經典から引用された引用文を示し、当該相好語には太線を付した。また、『相好文字抄』記載の相好語に該当する相好語が『相好集』に記載されていない場合には×を付した。

〈表A〉

相好文字抄			相好集		
序数	引用經典名	相好語	序数	引用經典名	相好語
1	大般若音訓云	相好	×	×	×
2	大般若經云	有白毫相	184*	大般若經云	世尊眉間有白毫相。右旋柔軟如觀羅綿。鮮白光淨逾珂雪等。是三十一。
3	大般若經云	如觀羅綿			
4	大般若經云	逾珂雪等			
5	无上依經云	右旋上靡			
6	六波羅蜜經云	婉轉右旋	×	×	×
7	六波羅蜜經云	頗胝迦宝	×	×	×
8	大般若云	光潔晃曜	×	×	×

24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9
十住論云	伽論（瑜伽論）云	同經（大般若）云	大般若云	伽論（瑜伽論）云	同經（觀佛經）云	觀佛經云	觀佛經云	大般若云	大般若云	尼乾子經云	百福莊嚴相經云	十住論云	瑜伽論云	同經（大般若）云	同經（大般若）云
七肘	僂曲	洪滿	容儀	項脊	脇肋	跽腋	摩尼珠	充實	膊腋	高峻	缺減	兩掖	及項	頸及雙肩	金臺
×		261*	×	264*	×	×	51*	×	×	×	×	×	×	×	×
×		最勝王經溜洲疏第三云	×	最勝疏略頌曰（此隨好頌依瑜伽論）	×	×	觀佛經第三云	×	×	×	×	×	×	×	×
×	齒無隙齒鮮白。開二十一頷臆爲二。	今但略明三十二相。大般若經三百八十一說。一世尊足下有安平相《乃至》廿二烏瑟膩沙猶如天蓋。然與瑜伽開合有異。瑜伽開第十八洪滿端直爲身不僂曲。復開二十三爲齒無隙齒鮮白。開二十一頷臆爲二。	×	鼻八 ……脇腋乳爲六腹脚項脊四頰已下六十鬘鬘臂頤六頰目眉	×	×	皆於中現了了分明。於圓光上有金色艷。如摩尼珠嚴顯可愛。……其光赫奕琉璃頗梨。備七寶色從佛足趺。副稱佛身如摩尼珠。亦如前光上至圓光。……一々菩薩。其頂上生摩尼珠光。……	×	×	×	×	×	×	×	×

45	觀佛經云	下斷	63	又(觀佛經)云	如來下斷如優曇鉢華莖色
44	同論(瑜伽論)云	鰓腭	61	又(瑜伽論)云	鰓腭殊妙為一隨好
43	瑜伽論云	上下齒鬘	60	瑜伽論云	上下齒鬘並皆殊妙為二隨好
42	同論(十住論)云	蜜緻	57	十住論第六云	齒白如珂雪如君垣華故名齒白相。……齒蜜緻不疎故名具足齒相。齒上下相當故名相。齒上下相當故名四十齒相。
41	十住論云	君垣華	56	最勝第十云	齒白齋蜜。如拘物頭華。
40	最勝經(最勝王經)云	拘物頭華	52	大般若經云	世尊齒相四十齋平淨蜜根深白逾珂雪。是二十三。
39	大般若云	淨蜜			
38	又(觀佛經)云	副稱			世尊齒相四十齋平淨蜜根深白逾珂雪。是二十三。
37	同經(觀佛經)云	鉤鎖骨槃龍結	51	同經(觀佛經)第三云	一切衆生所希見事。皆於中現了了分明。於圓光上有金色。……如畫如印。隨佛身轉不相障礙。鹿王蹕。鉤鎖骨。槃龍結間。……其光赫奕琉璃頗梨。備七寶色從佛足。副稱佛身如摩尼珠。……
36	觀佛經云	金色艷	48	最勝王經第二云	具三十二相八十種好項背圓光是各應身
35	同經(最勝王經)云	項背	43	最勝經第五讚佛偈云	圓光一尋照無邊赫奕猶如百千日
34	最勝經(最勝王經)云	赫奕	32	大般若經云	世尊常光面各一尋。是二十二。
33	般若經(大般若)云	一尋	29	觀佛經云	如來缺盆骨滿相。於彼相中旋生光臺……
32	觀佛經云	缺盆骨	20	大般若云	世尊身分上半円滿如師子王威嚴無對。是四十六
31	般若經(大般若)云	威嚴	19	十住論第六云	如師子前身廣原得所故名師子上身
30	十住論云	廣厚得所	×	×	×
29	同經(大般若)云	頤臆	×	×	×
28	同經(大般若)云	如諾瞿陀	×	×	×
27	同經(大般若)云	縱廣	×	×	×
26	同經(大般若)云	離翳	×	×	×
25	大般若云	仙王	×	×	×

65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46
又（大般若）云	又（大般若）云	又（大般若）云	又（大般若）云	又（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	大般若云	同經（觀佛經）云	同經（觀佛經）云	觀佛經云	无上依經云	又（大般若）云	又（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	大般若云
眼睫	和悦與言	如頻迦音	婉約	洪震	詞韻和雅	梵音	能覆	咽嚕	適舌根上	流注	咽喉	身心適	津液	吞咽	擁曲	延縮	喉脉	鮮白鋒利	四牙
111	107	95					86	84	77		76	74					64		
大般若經云	大般若云	大般若經云					大般若經云	觀佛經云	觀佛經云		无上依經云	大般若經云					大般若經云		
世尊眼睫猶若牛王紺青齊整不相雜乱是廿八	世尊音聲不高不下隨衆生意和悦與言是七十一	世尊梵音 詞韻和雅隨衆多少无不等聞其聲洪震猶如天鼓發言婉約 如頻迦音是廿七					世尊舌相薄淨廣長能覆面輪至耳髮際是二十六《上坐經大師疏云凡時舌相但覆面輪巫髮等際若作神通或覆大千或更无量》	如来咽嚕相如金翅鳥眼	如来舌者是十波羅蜜十善報得其舌根下及舌兩遍有二寶珠流注甘露適舌根上諸天世人十地菩薩无此舌根		咽喉具足千脉以受美味津液流潤《相》	世尊常得味中上味。喉脉直故能引身中諸支節脉所有上味。風熱瘰癧病不能爲難。由彼不雜脉離沈浮延縮壞損癰曲等過。能正吞咽 津液通流故。身心適悦常得上味。是二十五。					世尊四牙 鮮白鋒利是廿四《瑜伽論合四牙入齒》		

85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66
同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	大般若云	觀佛經云	无上依經云	又（百福經）云	又（百福經）云	百福經云	觀佛經云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	大般若云	十住論云	无上依經云
面門	好巡奮處	常少	頻蹙	熙怡	含笑先言	舒泰	天帝弓	雙眄	眼瞼	含翠	婉麗	紺艷	俱眇	皎潔	紅環	紺青	眼睛	希疏	紺炎
148	146	×	×		143	138	137	136	135	129	128	120	118	117	112				
大般若云	大般若云	×	×		大般若云	大般若經云	觀佛經第二云	无上依經云	說無垢稱經疏……大師釋云	百福莊嚴相經云	觀佛經第二云	大般若經云	大般若云	十住論云	无上依經云				
世尊面門下長不短。不大不小如端嚴。是二十九。	世尊顏容常少不老好巡奮處。是七十九。	×	×		世尊顏貌舒泰光顯。含笑先言唯向不背。是五十八。	世尊面輪其猶滿月眉相淨如天帝弓是第卅	眼雙眄頭旋生二光如青蓮華	眼瞼青好如優鉢羅華《相》	爲喩。觀。含翠明皎。故以爲喩。……周圍絞之。故以青紺蓮花爲喩。	廿一者目色紺艷如青蓮花《好》	億万倍上下俱眇如牛王眼	佛眼青白云者過於白寶百億万倍青者勝青蓮花及紺瑠璃百	世尊眼睛紺青鮮白紅環間飾皎潔分明是廿九	世尊眼睛上下齊整稠密不白是卅八	眼睫紺炎猶如牛王《相》	睫不希疎《好》			

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86
同經（无上依經）云	无上依經云	同經（大般若）云	大般若經云	大般若云	觀佛經云	大般若云	瑜伽云	大般若云	報恩經云	同經（觀佛經）云	觀佛經云	最勝王經云	大般若云	同經（觀佛經）云	觀佛經云	同經（觀佛經）云	同經（觀佛經）云	同經（觀佛經）云	觀佛經云
成髻	涌起	天蓋	烏瑟膩沙	額廣	擾生	綺靡	角鬢	輪埵	頬車	鷹王喙	當于	如載金鋌	且直	蝌斗	髭鬢	如頻婆菓	丹暉	兩吻	師子欠相
187		186		179	178	175	174	171	165	162		159	157	156		151		150	
无上依經云		大般若經云		大般若云	觀佛經第三云	大般若云	瑜伽論云	大般若云	報恩經云	觀佛經第三云		最勝第十云	大般若云	觀佛經第二云		大般若云		觀佛經第三云	
有鬘尼沙頂骨涌起自然成髻《相》		世尊頂上烏瑟膩沙高頸周円猶如天蓋是三十二		世尊額廣円満平正形相殊妙是四十五	色艶紫毛端紺青瑠璃妙光色无与比	如來眉相左右二眉形如月初擾生諸毛希稠得所隨月形轉其相也》世尊雙眉綺靡順次紺瑠璃色是第四十	世尊雙眉長而面白緻而細軟是三十九《栖復云不白者无老角鬢兩耳並皆殊妙為四隨好	世尊耳厚廣大脩長輪埵成就。是四十二	廿五者頬車方如師子《相》	如來鼻高脩而且直當于面門如來鼻端如鷹王喙鼻孔流光		鼻高脩直如截金鋌	世尊鼻高脩而且直其孔不現是三十三	如來髭鬢如蝌斗形流出光明。		世尊脣色光潤丹暉。如頻婆菓上下相稱。是二十八。		出三光。其光金色。	

126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106
同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	同經（大般若）云	大般若云	同經（觀佛經）云	觀佛經云	无上依經云	乾子經（尼乾子經）云	大般若云	无上依經云	同經（大般若）云	大般若云	乾子經（尼乾子經）云	大般若云	无上依經云	同經（觀佛經）云	同經（觀佛經）云	觀佛經云	智論云
庠序	庠審	怯弱	敦肅	諸竅	敦重	如脂	間錯	那羅延	鉤鎖	支節	脈理	盤結	筋脈	繖蓋	末達那	无骸	頂腦	金剛	合拳	如捲
233	232		226	223	220		218	216	215	211	210		209	206	203	202		200		192
又（大般若）云	大般若云		大般若云	大般若云	又（大般若）云		又（觀佛經第二）云	无上依經云	尼乾子經云	大般若云	云上上依經		大般若經云	同經（尼乾子經）偈云	大般若云	无上依經云		觀佛經第一云	同論（智度論）第五云	
世尊行步安平庠序不過不減猶如牛王是為第九	世尊行步直進庠審如龍為王是為第七		尊身容敦肅无畏常不怯弱是第十七	世尊諸竅清淨円好是五十四	世尊身支安定敦重曾不掉動円満无壊是第十九	脂	如來骨色鮮白頗梨雪山不得為譬上有紅光間錯成文凝液如	身鈎鎖骨如那羅延《相》	四十七者沙門瞿曇骨相節連如似鈎鎖	世尊支節漸次円妙善安布是第十二	廿六者脈理深		世尊筋脈盤結堅固深隱不現是為第五	頭円如繖蓋《好》	世尊首相周円妙好如末達那亦猶天蓋是六十三	二者頂骨无頰。《好》	梵相生。時摩耶及佛姨母皆悉不見。	或見厚皮則金剛色。髮際金色。腦頗梨色。《乃至》髮下金色《乃至》是名如來生王宮中頂腦肉髻。惟其頂上五大	世一者頂髻相菩薩有骨髻如拳等在頭上《相》	如來頂骨團円猶如合捲。其色正白。若見薄皮則為紅色。

127	无上依經云	斜戾	236	无上依經云	行步平整无有斜戾《相》
128	同經（无上依經）云	迴如	238	无上依經云	十一者身一時迴如象王
129	瑜伽云	轉側	243	瑜伽論第卅七云	謂佛菩薩常右脇臥如師子王。雖現安處草葉等蓐。一脇而臥曾無動亂。一切如來應正等覺。雖現睡眠而無轉側。大風卒起不動身衣。行如師子步若牛王。先舉右足方移左足。隨所行地高處便下。下處遂高坦然如掌。無諸礫石埤瓦等物。
130	同論（瑜伽論）云	礫石			
131	同論（瑜伽論）云	埤瓦			
132	大般若云	四指量	244	大般若經云	世尊行時其足去地。如四指量而現印文。是六十八。
133	尼乾子經云	炳着	246	尼乾子經云	六十八者沙門瞿曇行不履地輪相炳著。
134	大般若云	隨轉	239*	大般若云	世尊迴顧必皆右旋如龍為王舉身隨轉。是第十一。
135	大般若云	逶迤	247	大般若云	世尊自持不待他衛。身無傾動亦不逶迤。是六十九。
136	无上依經云	剛彊	254	无上依經云	六十九者剛彊衆生見即調善。怖畏衆生便得安樂。
137	大般若云	轉範	255	大般若云	世尊所為先觀後作。軌範具足令識善淨。是七十六。

この〈表A〉から判明した点をあらかじめまとめて述べれば以下の三点である。

(一)『相好文字抄』記載の全百三十七語の相好語の約五分の一に相当する同書冒頭の1番から29番までの相好語は、その多くが『相好集』に記載されていない。しかし、それ以降の相好語はそのほとんどが記載されている。

(二)『相好文字抄』と『相好集』の両方に記載されている相好語の、『相好集』における配列順序は、それらの相好語が

来迎院如来蔵所蔵の『相好集』について

多様な典籍から引用されているにも関わらず、その大部分が『相好文字抄』の配列順序と一致する。

(三)『相好文字抄』と『相好集』の両方に記載されている相好語の依拠した仏典も、そのほとんどが一致する。これらの点について以下詳述する。

(一)については、以下のようである。

『相好文字抄』に記載されている百三十七語の相好語で『相好集』にも記載されている相好語は百十三語あり、その割合は全体

の約八十二％である。逆にいえば、約十八％の相好語は、『相好文字抄』には記載されているが『相好集』には記載されていないものである。これらの記載されていない相好語は『相好文字抄』冒頭の1番から29番のゾーンに集中している。特に、『相好文字抄』の5番「右旋上靡」から16番「充實」にいたる相好語ならびに24番「七肘」から29番「頤臆」にいたる相好語は、ひとまとまりになった状態で『相好集』には記載されていない。ちなみに『相好文字抄』の1番から29番までの相好語で、『相好集』にも記載されている相好語は七語（2番「有白毫相」、3番「如觀羅綿」、4番「逾珂雪等」、17番「摩尼珠」、20番「項脊」、22番「洪滿」、23番「偃曲」）にすぎない。これに対して『相好文字抄』の30番以降の相好語は、百八語中二語（81番「熙怡」と82番「顰蹙」）の例外を除くと『相好集』には全て記載されている。

(二) については以下のである。

例えば、『相好文字抄』の107番から112番までの相好語に該当する『相好集』の本文においては、

【觀佛經第一云】如來頂骨團圓猶如107合捲其色正白若見薄皮則為紅色或見厚皮則108金剛色髮際金色腦頰梨色《乃至》髮下金色《乃至》是名如來生王宮中109頂腦肉髻惟其頂上五大梵相生時摩耶及佛姨母皆悉不見【大般若云】世尊頂骨堅實圓滿是七十八【无上依經云】二者頂骨110无頰。《好》【大般若云】世尊首相周圓妙好如來111末達那亦猶天蓋是六十三【智論第八十九云】四十七者頭如摩陀那菓【尼乾子經云】一者

沙門瞿曇頭相端嚴上下相稱二者沙門瞿曇頭相美滿如摩陀羅樹菓《好》【同經（尼乾子經）偈云】頭圓如112繖蓋《好》

のように、多様な典籍を引用して相好語を列挙しているにも関わらず、それらの相好語は、『相好文字抄』記載順序に沿った昇順で記載されている。このように、『相好集』中の相好語の出現する順序は、一部を除いて『相好文字抄』の順序に沿って昇順で並んでおり、その一致する割合は約九十五％である。特に『相好文字抄』の30番以降の相好語に限れば、その順序は、わずか一例（134番「隨轉」）を除いて『相好集』の相好語の記載順序と極めてよく一致する。

それに対して、『相好文字抄』冒頭の29番までの相好語に該当する『相好集』の引用部分はほとんどなく、あったとしてもその記載順序が不規則であるため、このゾーンにおける両書の関係には、30番以降のゾーンとは別の状況が存在した可能性が高い。例えば、『相好文字抄』の17番「摩尼珠」という相好語は、『相好集』の51番の引用文である【觀佛經第三云】……皆於中現了了分明。於圓光上有金色艷。如摩尼珠嚴顯可愛。……其光赫奕琉璃頗梨。備七寶色從佛足趺。副稱佛身如摩尼珠。亦如前光上至圓光。……一々菩薩。其頂上生摩尼珠光。……の中に三箇所記載されているため、一見、この「觀佛經第三」の箇所から引用されたように見える。しかしながら、この17番「摩尼珠」は、実際には、『觀佛經』の中の、『相好集』には引用されていない他の箇所から『相好文字抄』に引用されたと推測される。なぜならば、

『相好文字抄』の17番「摩尼珠」、18番「跏趺」、19番「脇肋」の一続きの相好語が、これと同じ順序で列挙してある箇所が『觀佛經』の他の箇所には存在するからである。その箇所とは同經卷第一である。

『觀佛經』卷第一の中には「……自有衆生樂觀如來腋下滿相。

於其相中懸生五珠。如摩尼珠上跏趺佛腋者。自有衆生樂觀如來臂纖圓如象王鼻者。……自有衆生樂觀如來脇肋。大小正等……」とある。『相好集』が仮にこの部分を引用していたならば、『相好文字抄』の17番「摩尼珠」だけではなく、18番「跏趺」、19番「脇肋」ともよく一致したはずである。

このような点から、『相好文字抄』の29番までの相好語に該当するゾーンにおける両書の関係は、30番以降のゾーンにおけるそれとは別の状況が存在したと考えられるのである。ただ、残念ながら、それがどのような状況であったかは現時点では不明である。

(三) については、以下のようである。

前稿でもふれたが、三十二相と八十随好は、ある特定の仏典のみに記載されているのではなく、多様な仏典に記載されているので、『相好文字抄』や『相好集』が様々な仏典から相好語を適宜抜粋して列挙する際、『相好文字抄』と『相好集』の相好語の出典が相違しても何ら不思議ではない。にもかかわらず、『相好文字抄』記載の相好語の出典は、両書どちらにも記載された相好語(百十三語)のうち七語(『相好文字抄』の20番「伽論(瑜伽論)云、項脊」、22番「同經(大般若)云、洪滿」、23番「伽論(瑜伽

論)云、偻曲」、74番「又(百福經)云、婉麗」、75番「又(百福經)云、含羖」、88番「同經(觀佛經)云、丹暉」、89番「同經(觀佛經)云、如頻婆菓」を除いた百六語において、『相好集』の出典と一致する。その割合は約九十四%にのぼる。

しかも、例外となる七語のうちの四語(『相好文字抄』の74番、75番、88番、89番)は、実は『相好文字抄』の誤写と思われる例である。例えば、『相好文字抄』の74番「又(百福經)云、婉麗」、75番「又(百福經)云、含羖」の二語は『百福經』本文には記載されておらず、『相好集』に「說無垢稱經疏……大師釋云」とあるとおり、実際には『說無垢稱經疏』の当該部分と一致している。同様に、『相好文字抄』の88番「觀佛經云、丹暉」と89番「觀佛經云、如頻婆菓」の二語は『觀佛經』本文には記載されておらず、『相好集』に「大般若經云」と記載されているとおり『大般若經』卷第三百八十一の第二十八随好と一致している。⁽⁷⁾

なお、残りの三語のうち二語は間接引用であり、事実上一致する例である。

すなわち、『相好文字抄』の20番「項脊」は、『相好集』では264番「最勝疏略頌曰(此随好頌依瑜伽論)……脇腋乳為六腹脚項脊……」と記載されているとおり、形の上では「最勝疏(金光明最勝王經疏)」から引用されているように見えるが、「依瑜伽論」とあることから、実際には「金光明最勝王經疏」を介して『瑜伽論』から間接的に引用されていることになり、事実上、一致する例である。

同様に、『相好文字抄』の23番「偸曲」は、『相好集』では261番「最勝王經溜洲疏第三云……瑜伽開第十八洪滿端直爲身不偸曲……」と記載されているように、「最勝王經溜洲疏」(「溜洲」は「溜州」を指していると思われる。溜州は溜州大師慧沼。『金光明最勝王經疏』の著者 筆者注) 中の「瑜伽開(瑜伽派がいう)」、つまり『瑜伽論』からの間接引用であることがわかる⁽⁸⁾。

ただし、これら二語が収録されているゾーンにおける記載のありかたは、前述のとおり『相好文字抄』30番以降のそれとは大きく異なっているため、それらと同一には扱えない。

以上の検討を加えると、『相好集』における記載のありかたが均質的な『相好文字抄』30番から137番までに該当する相好語の出典の両書の一比率は約九十八% (百八語中、「×」の81番・82番の二語を除く百六語) と極めて高いことがわかる。すなわち、『相好文字抄』記載の相好語の出典である仏典と『相好集』のそれとは、冒頭の一部を除いてほとんど一致しているということである。

これらのことから、『相好文字抄』と『相好集』は、その収録相好語・配列順序・出典において強い一致を見せており、密接な関係を有していることがうかがえる。『相好集』が相好に関わる文章の一種の「アンソロジー」であり、他方、『相好文字抄』が相好語に逐語的な注釈を加えた書(仏典辞書・相好語辞書)であることを考慮すれば、『相好集』が『相好文字抄』に先立って編纂され、『相好文字抄』撰者は、その序数30番以降の相好語を、

『相好集』の当該部分を順に見ながら適宜拾い上げたという状況が推定される。すなわち、『相好文字抄』と『相好集』とは姉妹本の関係にある蓋然性が極めて高いことである。

四、『相好文字抄』と『相好集』の撰述背景

この結論は、両書の撰述背景とも矛盾しない。

『相好文字抄』『相好集』両書を蔵している来迎院は、魚山大原寺ともいい、天台宗に属し、融通念仏の祖であり天台大原魚山声明を中興した人物としても著名な良忍(一〇七二―一一三二)が一一〇九年に再興した寺である。良忍は、この来迎院に阿弥陀仏と釈迦の二尊の像を安置し、経蔵を建立して如来蔵と号した。如来蔵には大蔵経律論がおさめられており、良忍が自ら書写した『法華玄義』や『摩訶止観』などの天台文献の筆写本が残っている。また、この如来蔵には学僧が住んでいて教学につとめていた⁽⁹⁾。当時は、末法思想が広まり、貴族から民衆に至るまで阿弥陀仏信仰が盛んであった。具体的には、阿弥陀仏の相好や極楽浄土の具体的な様相を観想し、仏の功德により罪障を減らすこと⁽¹⁰⁾によって往生を目指すための念仏業が広く行われた。人々は阿弥陀仏をひたすら念ずることで極楽往生を祈願し、その念仏の実践として常行三昧・仏立三昧と呼ばれている修行が行われたのである。

比叡山周辺で発達した浄土教は叡山浄土教ともいわれているが、良忍以前の人物でその叡山浄土教の組織と体系を樹立し大成

した人物として源信（九四二～一〇一七）の存在は重要である。⁽¹¹⁾

横川に隠棲した源信は周知のように天台宗の立場から念仏業を包括して位置付けようとした。源信は、四十四歳の時に著した『往生要集』で念仏往生を説き、また『観心略要集』を著して念仏成仏の道を示した。とりわけ『往生要集』はその後の浄土教に多大の影響を及ぼしている。源信は『往生要集』完成の翌年に「二十五三昧会」なる念仏結社を作り、そこで『往生要集』の念仏理論を實踐した。彼が創建したと伝えられる三千院本堂には、阿弥陀三尊が安置され、本尊の周囲を行道できるような常行堂が作られたともいう。

このように天台の念仏業を受け継ぐ『往生要集』と『相好文字抄』『相好集』とが共通の思想的背景を有していた可能性は高い。⁽¹³⁾つまり、浄土信仰の延長線上にある念仏結社の実践や念仏の教義上の必要性から『相好文字抄』や『相好集』のような相好に関する典籍が作られたと考えられるのである。⁽¹⁴⁾

五、結語

本稿の結論をまとめれば以下のようなものである。

1、来迎院には『相好集上（相好集）』なる典籍が所蔵されており、『相好文字抄』と同様に大治四年書写の識語がある。この典籍は、阿弥陀仏をはじめとする諸仏の相好に関する文章を諸仏典から引用して身体的特徴毎に分類した相好のアンソロジーだと考えられる。ただし、三十二相と八十随好の全ては引用さ

来迎院如来蔵所蔵の『相好集』について

れておらず取捨選択が行われている。

2、『相好文字抄』の相好語と『相好集』の相好語とを比較すると次の事実があることがわかる。

(1)『相好文字抄』に記載された相好語は、『相好集』に記載されたそれと、冒頭部分を除くほとんどが一致する。

(2)『相好文字抄』『相好集』両書に記載されている相好語の、『相好集』における配列順序は、冒頭部分を除くほとんどが『相好文字抄』の配列順序に沿った昇順となっている。

(3)『相好文字抄』『相好集』両書に記載されている相好語の依拠した仏典も、そのほとんどが一致する。

(1)～(3)の事実があることから、『相好文字抄』は『相好集』を参照して成立した典籍である蓋然性が高い。

3、『相好集』『相好文字抄』両書の撰述には、当時の横川周辺の叡山浄土教および阿弥陀仏信仰そしてその実践の一つである念仏業が深く関与していると推定される。それ故両書はそろって「相好」の書名を持つと考えられる。

注

(1) 南部忠明・河野敏宏「来迎院如来蔵所蔵の『相好文字抄』について」(『愛知学院大学教養部紀要』第六七巻、一・二号合併号、二〇二〇年)。

(2) 佐藤哲英『叡山浄土教の研究』(百華苑、一九七九年)には、『相好集』、『相好文字抄』各々の奥書部分の紹介および若干の解説が述べられている。奥書部分以外の解説として「特に、『相好鈔』には西方願生の信仰あふるる奥書は見られるが、その内容は広く仏の相好に關説された百四十種ほどの經論の名をつらねたもので、阿弥陀仏の相好に關する文献ではないことがわかった。」とある。

(3) 識語の解釈については、西原一幸氏を通じて伊井春樹氏の御教示をえた。なお、『相好集』(正確には『相好集上』)という書名は、『来迎院如来藏聖教文書類目録』(文化庁文化財保護部美術工芸課刊)中には記載されていない。しかし『昭和現存 天台書籍総合目録 上 増補版』(昭和五十三年、法蔵館)には、『相好抄上』なる典籍が見える。同目録に収録されている『相好抄上』なる典籍の解説にある奥書と『相好集上』の奥書とを比較すると、撰者の名が異なっている以外は書了の年月日等、どれも同じである。両者の違いを具体的に述べれば、次のようである。『天台書籍総合目録』では「覺運」撰と記載されているのに対し、『相好集上』では「運覺」と記載されている。同目録に記載されている「覺運」は良源に師事して台教を究め、檀那流の祖とされる人物であり、天台宗の僧侶としてはつとに有名である。これに対して、『相好集上』の奥書にある「運覺」なる僧侶は少なくとも天台宗の血脈には記載されていない。しかしながら、同時に醍醐寺に同名の真言宗の僧侶が存在する(『本朝高僧伝巻五十一』、『本朝新修往生伝』)。例えば『本朝新修往生伝』には、「沙門運覺者。醍醐寺之僧侶也。…自書一切經。其後三十年。且書二千卷。又三時行業。多年不怠。康治二年(一一四三年 筆者注) 春二月日。行法如恒。日中時没。……」とある。宇都宮啓吾によると「醍醐寺蔵『伝法灌頂師相承血脈』には蓮覚の名が真言宗小野流の金剛王流の中に確認できる」という(『聖教調査におけるデータの整備を巡る問題

——「念仏宗僧運覺」・書誌情報を中心として——」www.orcand.ac.jp/~usunomiya/syoko/ronbun/data-seiji.pdf。ただし、この人物が『相好集上』の撰者と関連があるかどうかは現時点では特定できない。このように撰者名において疑問点が残るが、その他の内容がすべて一致することから、『天台書籍総合目録』に収録されている『相好抄上』は『相好集上』とみて間違いないさそうである。

(4) 中村元『仏教語大辞典』(東京書籍、一九八一年)。

(5) 『相好文字抄』には「大治四年九月九日未時計書畢」とあり、『相好集』には「大治四年九月十日午刻書了」とある。なお、この日付は書完了日であり、編纂完了日はこれ以前と考えられる。

(6) 『相好文字抄』の2番「有白毫相」、3番「如觀羅綿」、4番「逾珂雪等」、17番「摩尼珠」、20番「項脊」、22番「洪滿」、23番「優曲」、134番「隨轉」の八例。これらの例に該当する『相好集』引用文の序号には*を付した。

(7) [SAT 大正新脩大藏經テキストデータベース2012]の検索結果による。

(8) ちなみに『相好文字抄』には20番、23番も含めると計九例が『瑜伽論』から引用されているが、129番から131番までの一続きの三例は、『相好集』に記載されているとおり『瑜伽論』巻第三十七から引用されている。残りの六例は、前述した『相好集』末尾の「三十二相盡大般若經第三百八十一、瑜伽論第四十九之所説。」の記載のとおり、『瑜伽論』巻第四十九からの引用である([SAT 大正新脩大藏經テキストデータベース2012]の検索結果による)。

(9) 佐藤哲英『叡山浄土教における良忍上人の地位』(『良忍上人の研究』所収、融通念仏宗教学研究所編、百華苑、一九八一年)、横田兼章「大原如来蔵における良忍上人関係資料」(『良忍上人の研究』所収)、築島裕「古代日本語発掘」(学生社、一九七〇年)。

(10) 高田修は観仏および念仏について以下のように述べている。「観佛すなわち観佛三昧とは、佛身について観相する禪相の謂いである。また念仏と同義的にも用いられるが、後世口稱念佛と観念念佛すなわち観佛とが区別されるに至った関係もあり、ふつう観佛といえ、佛の色身、従ってその相好を観想する三昧を指すものと了解される」、「観佛の初歩の階梯として観像（実際に仏像を見ること、筆者注）から入り次いで心眼を以て佛の相好を観想して、次第に次元の高い観佛の段階へ進むのが常法であったのである」（『仏像の起源』、岩波書店、一九九四年）。つまり、観仏の初歩段階では、様々な相好を備えた阿弥陀仏の像を実際に詳見し、その後、その仏の相好をひたすら観想したのである。また、須藤弘敏も見仏や相好業との関係から当時の隆盛をとらえている（『阿弥陀聖衆来迎図』、平凡社、一九九五年）。

(11) 佐藤哲英 前掲論文、中村元・福永光司・田村芳朗・今野達編『岩波仏教辞典』（岩波書店、一九八八年）の「源信」の項、速見侑『人物叢書 源信』（吉川弘文館、一九八八年）など。

(12) 石田瑞磨は『往生要集』の肝心な第四章「正修念仏」にあるが、なかでもこれを五門に分けて説いた第四「觀察門（仏の姿を正しく觀察する実践、筆者注）」がその要であることに疑問の余地はない。さらにここで扱われている問題の中心は「觀察」という阿弥陀仏の觀想にあつて、内容をなす「別相觀（仏の相好の一々を観想すること、筆者注）」「忽想觀（仏の相好を総括的に觀想すること、筆者注）」「雜略觀（特定の相好に限って觀想すること、筆者注）」と総括している以上『往生要集』は、觀想念仏を説こうとする意図のもとに書かれたといつても過言はないだろう」と述べている（『往生要集（下）』文庫解説、岩波書店、一九九二年）。

(13) 例えば、『往生要集』巻中の觀察門の項目には「相好」に関する以下のような記述がある。「……五、額広平正、形相殊妙、六、面輪圓来迎院如来蔵所蔵の『相好集』について

満、光沢熙怡、端正皎潔、猶如秋月、雙眉皎淨、似天帝弓、其色無比、紺瑠璃光、七、眉間白毫、右旋宛轉、柔軟如兜羅綿、鮮白逾珂雪、……」（『大日本仏教全書』第三十一「往生要集」五六頁）。この箇所は「相好文字抄」「相好集」に記載されている相好語と重なる部分もある。

(14) 例えば、小島裕子は仏の三十二相について以下のように述べている。「天承元年（一一三一）の論議の場で、「問ウ、如来三十二相中、鼻舌ノ二根立テルヤ」に対する答えとして、「答ウ、三十二相中鼻舌二根立テズ」という問答があつた事例が見え、仏の三十二相が經典論議の場に於ける教法的問答に上がるテーマになっていたであろうことが当然の如く察せられる。」（『仏「三十二相」の四季——教化することばの世界から——』季刊『文学』8巻4号 一九九七年 岩波書店）。ここでは「相好文字抄」「相好集」が撰述された同時期の經典論議の場において、仏の三十二相が教法的問答として問われていたことが知られる。さらに、小島は「声明『三十二相』は、仏の優れた三十二相が七言の長詩型で唱えられ、この偈文の後、讃仏の功德を説いた回向句によつて結ばれる。讃嘆は仏の頭頂の髻の盛り上がりを表す「烏瑟膩沙無見相」から始まり、……最後に足裏の「足下平等等触相」に至る。……こうした声明曲「三十二相」が唱えられ、続いて如来の妙相を唱える仏名があり、大導師により三十二相の教化が独唱されたのであつた」と、修正会（法会 筆者注）の場において、声明曲「三十二相」が唱えられたことを指摘している。

また、佐藤道子は、修正会における声明曲「三十二相」の重要性について、『小右記』永観三年（九八五年）正月一三日の記述から『三十二相（声明曲 筆者注）』は、悔過会（円融院での修正会 筆者注）において、二時型悔過会の眼目ともいふべき『大導師作法』の構成要素の中で、最も莊嚴性の濃い一段であり、のみならず「悔過作

法』そのものを象徴する意義を担うとさえ想定し得る一段である」(『悔過会と芸能』法蔵館 二〇〇二年)と述べている。さらに、佐藤は同書において「声明としての『三十二相』は、その三二の瑞相を具体的に連ねて三二句で構成し、末尾に四句または八句の回向句を添える長大な一曲であり、現在は拍節的な唱法を用いる例が多い。……『三十二相』を構成要素とする『大導師作法』の伝播は、広範囲かつ多くの宗派におよぶ。しかもその条件の下で長い年月を経ってきたにもかかわらず、諸事例間の詞章の異同はごく少ない。それは、『三十二相』がしかるべき規範に基づいて成立したことを示しており、その典拠もすでに指摘されている。……ただし、三二の相好を具体的に掲げる経典は必ずしも多くはないし、掲げられた相好の表現や順序にも全く統一はみられず、なによりも声明の『三十二相』の詞章と合致する表現を見出すことができない。」と述べている。さらに、『三十二相』の詞章の典拠を経典以外に求めて指摘されてきたのが、天台宗「例時作法(常行三昧)」の一部である「五念門」の第二段(讃嘆門)の詞章である。「五念門」とは、阿弥陀浄土に生まれるための行を五段に分けて述べる偈文であり、(讃嘆門)は仏を念じてほめたたえる一段である。この段では、如来の三十二相を一つひとつ唱え挙げ、最後に回向句八句を添える。その詞章を「大導師作法」の「三十二相」と比べると、末尾の回向句の詞章の一部に異同があるけれども、それ以外は(讃嘆門)の詞章に則しており、「大導師作法」の「三十二相」の典拠が、「例時作法」の「五念門」であることは疑いない」と述べており、声明曲「三十二相」の典拠を「例時作法」の「五念門」としている。

以上の如く、仏の三十二相は、「論議」のみならず「法会」、天台宗「例時作法(常行三昧)」においても重要なテーマとなっているのであり、このような宗教的背景のもとに、相好に特化した『相好文字抄』

『相好集』が編纂されたと考えられる。

なお、『相好文字抄』と『相好集』とが天台大原魚山声明の中興の祖である良忍の存命中に書写されていることから、声明曲「三十二相」と『相好文字抄』、『相好集』との関連も考えられなくもないが、少なくとも声明曲「三十二相」における相好の順序と『相好文字抄』『相好集』の相好の順序は全く一致しない。

(付記) 本稿は一九九六年五月の訓点語学会(於青山学院大学)で発表した草稿に加筆訂正を加えたものである。なお、本稿をなすにあたっては、西原一幸氏から貴重な助言を頂いた。記して深く感謝申し上げます。

洞門における「説戒」について

— 附録『丘宗潭老師「説戒」』翻刻資料 —

菅原 研州

一、はじめに

本論は、曹洞宗の「授戒会」で行われる「説戒」について、その歴史的意義や行法、あるいは思想的内容などについて多角的に検討したものである。なお、筆者の研究領域の関係で、敢えて「洞門における」というタイトルにはしたが、日本仏教の他宗派でも今扱おう行法と近似した「説戒」は行われており、特に天台宗・浄土宗の式法などは参照されるべきものである。

今回の研究を通して、近世以降の洞門で盛んとなった「説戒」の様子について可能な限り、明らかにしておきたい。

それから、新出資料『丘宗潭老師「説戒」』を翻刻して附録した。予め申し上げておくと、時代的な制約や、「説戒」自体に固有の文脈の関係で、現代的視点では多くの人権的問題を含む内容となっている。しかし、人権の問題を有する文脈を批判的に読み

込むことで、再発の防止と、これからの「説戒」のあり方についても提言したいと思っている。

二、「説戒」の歴史的意義

「説戒」という言葉だが、後述するように、中国や日本の中世頃まで用いられていた意味と、それ以降に用いられていた意味は異なっている。そもそも「説戒」とは、「布薩説戒」という言葉がある通り、「布薩」にて行われるものであった。中国の律宗・南山道宣『四分律刪繁補闕行事鈔』では、以下の通りの指摘が見える。

律に云く、布薩法、一処に布薩健度と名づく。即ち説戒(一)なり。

つまり、「布薩」においては和尚（戒師）が大眾のために、戒文を説誦することを「説戒」と呼んでいるのである。この方法は、「布薩」作法を受容した日本の曹洞宗でも導入された。

宝治元年、寛元五年（丁未）正月十五日之布薩の時、開山和尚説戒し給ふば、五色之雲、方丈の正面の障子に立ち移りて、半時斗(二)あり。

道元禪師（一二〇〇～五三）に係る伝記の一つだが、永平寺で行われた「布薩」の時に、開山和尚（道元禪師）が説戒したところ、奇瑞が起きたことを記している。行法は知られないが、おそらくは戒文を説誦したものと思われる。

また、行法的な内容であれば、瑩山紹瑾禪師（一二六四～一三

二五)にも記録が確認される。

唄、畢りて焼香の人、焼香す。維那、槌を鳴らすこと一下し
て、唱えて云く、

戒香定香解脱香 光明雲台遍法界
供養十方無量仏 見聞普薫証菩提

偈畢りて槌を鳴らすこと二下す。維那著座す。

此の時、和尚、説戒す。

説戒畢りて、梵音の人、唱えて云く、

処世界如虚空 如蓮華不著水

心清淨超於彼 稽首礼無上尊⁽³⁾

これは、『瑩山清規』(一二三二四年成立)の江戸延宝年間開版本に収録された「菩薩戒布薩式」であるが、式中に所定の箇所で和尚(住持)が「説戒」する様子が理解出来よう。なお、本式について、江戸延宝年間開版本では、敢えて「菩薩戒布薩式」としてゐるため、『梵網經』下巻の一節を誦したものとして推定される。

最古の写本である「禪林寺本」では、布薩について「作法、別紙に有り⁽⁴⁾」のように示し、その全容は収録されていない。また、現行の洞門においても参照されるべき「布薩説戒」の作法や歴史的意義への見解は、『面山瑞方禪師』(二六八三〜一七六九)による『梵網戒本口訣』(『曹全』「禪戒」所収)がある。

さて、本論で扱いたいのは、右のような布薩時における説戒ではなくて、授戒時における「戒の解説」を含んだ「説戒」である。鎌倉時代であれば、浄土宗の法然上人(一一三三〜一二一

二)に「説戒」があったと伝わる。

上西門院にして、上人、七日説戒し給ひけるに……七日受戒の功力にこたへて(以下略)⁽⁵⁾

これは、一三一二年に成立した『法然上人伝記』中の「於上西門院説戒時地生天事」からの引用だが、あくまでも「受戒」時における「説戒」として理解出来る文脈となっている。他の伝記資料を受けつつ考えても、法然上人の「受戒時の説戒」の実施方法について検証は困難なようだが、少なくとも一四世紀初頭には、実施されていたと認識されていた。

また、やや下つて室町期となるが、曹洞宗の通幻派で丹波永澤寺などに住した菊隠瑞潭禪師(一四四七〜一五二五?)には、「説戒の分」と称する記録があり、内容からは永正元年菊月(一五〇四年旧暦九月)に在家信者へ授戒した時に説戒した可能性がある⁽⁶⁾と推測される(『菊隠和尚下語』、『曹洞宗全書』「語録一」五三一頁下段〜五三二頁上段)。しかし、それ以上のことはよく分からない。

ところで、「説戒」に関連して、洞門では「講戒」との関わりが注目される。

講戒と受戒、其の儀別なり。之を詳にする者少し。何に況んや大僧菩薩の戒相、之を明かす者多からず。今の撰する所のものは、講戒の流なり。而も菩薩戒儀式、伝授の者稀なり。

聊か略作法存す、而も受授の儀を示すなり。⁽⁶⁾

道元禪師が嘉禎三年(一二三七)四月一五日に興聖寺にて記さ

れた『出家略作法』の跋文に、以上のように記し、戒相を明かす「講戒」を示したことが理解出来、また、同作法中に「先受の菩薩戒法師の所に於いて、菩薩清浄大戒を聴受す⁽⁷⁾」とあって、受戒時の講戒（説戒）が行われたことを想起させる。同作法の本文末尾には、『梵網經』を引用して「十重禁戒」の内容を開示するものの、それへの更なる「解説」は行われた様子が見えない。つまり、近世以降のような丁寧な「説戒」であつたかどうかは分からず、また、『仏祖正伝菩薩戒作法』中には、「教授の文有り」とあり、教授師からの戒相の開示が『教授戒文』として残されたが、これも後の「受戒の説戒」といえる程の丁寧さではない。

江戸時代には、学僧である面山師と逆水洞流禪師（一六八四～一七六六）との間で、『出家略作法（得度略作法）』中の「講戒」について議論され、面山師は「これは沙弥に授戒せしむる前に、菩薩戒の訣を説き聞かしむるはずを、直に十重の文を読み聞せて、説戒受戒一度に成ずるなり。これを講戒の流と謂ふ⁽⁸⁾」として、先ほど述べた『出家略作法』中の作法に準拠している。一方で、逆水師は「按ルニ講戒ノ流ヒト、永祖ノ曰玉フハ不用ノ意也。或問ハ専用ノ義トオモヘリ、大ナルチガヒ也⁽⁹⁾」と反論した。これは、面山師の場合は、出家希望者を一度、沙弥にしてから、その後菩薩僧にするという流れで授戒をしているが、逆水師の場合は沙弥を経ずに菩薩僧にするという違いがあるために起きた見解の相違である。残念ながら、「講戒」の本質に触れる内容とはいえない。

洞門における「説戒」について

また、瑩山禪師『洞谷記』には「講戒略式」が収録され、祖師忌などに併修し、場合によっては他山の長老などを拝請して行われたこともあった。更には、『瑩山清規』からは、在家信者の依頼による「臨時設齋」時にも檀那の希望に応じて、「講戒」を行ったこともあったと分かるが、これらはともに、行法面で不明の点を残しているため、これ以上論じることが困難である。

三、「説戒」行法の確立について

改めて、授戒時の「説戒」という行法が確立された意義について、確認しておきたい。

昔は加様に菩薩戒を談ずるを説戒と称せり。しかし唐へは通ぜざるなり。半月の布薩を説戒と云ふ故、其の名にまざる、に依て、且く戒さばきとは申すなり⁽¹⁰⁾。

これは、浄土宗の敬首上人が一七三年に著した『瓔珞和上説戒随聞記』による指摘であり、菩薩戒を談ずることを「説戒」としつつ、中国では「布薩説戒」を指すため、意味が異なることを指摘している。この一節に象徴的なように、江戸時代では洞門も、「説戒」といえば多くは、菩薩戒の授戒に伴う説教・法話を意味した。

さて、以下には行法の確立について見ておきたい。

既に中世室町期の菊隠師に「説戒」があつた可能性を指摘したが、授戒会作法との関連など問題の多くが不明であり、また、現段階では記録的にもこれ以上知見を深めることは困難である。

よって、近世以降を参照すべきだが、洞門の授戒会（禪戒会）は近世に入り、加賀大乘寺二六世・月舟宗胡禪師（一六一八～一六九六）によって再興されたことは、門弟達の多くが主張しており、まずはその通りだったのだろう。なお、月舟師が再興した授戒会作法とは、大乘寺に伝わる作法書（具体的には「仏祖正伝菩薩戒作法」）に従った「登壇授戒」あるいは「授戒を経た『血脈』授与」等を指すようである。そして、本論の課題である説戒については、月舟師自身にも、あるいは法嗣で同寺二七世・叟山道白禪師（一六三六～一七一五）にも、「説戒録」としての記録が残らず、行法面では不明な点を残す（授戒会終了時に戒師が行った「完戒」の説法や法語は記録されている）。

そこで、学僧・指月慧印禪師（一六八九～一七六四）は叟山師の門下である大乘寺三三世・智灯照玄禪師（一六六五～一七三九）に参じたとされているが、指月師には現存最古の授戒会作法書である『開戒会焼香侍者指揮』があり、大乘寺で確立された授戒会差定を伝えていると推定され、「説戒」を以下のように指摘している。

・戒師の開示戸羅法に、方丈外に出るには随従す（もし血脈などや、または山門の儀あるは爾らず）、別して説戒は戒師に稟よ。或は上午か、下午か、又は夜か（傍に出すも転機す）、戒師の尊意によるべし。⁽¹⁾

・午時しばらくあ（り）て説戒を始む。今日は初日なるゆゑ、別して欠くべからず。戒弟にも説戒あることを報じ、大小用

等せさしめ、次に中央を少し避けて椅子を安ず。但し壇上を背にす。前に卓袱を設け、上に華炉燭を備ふ。時到来侍者、戒師に白し、法鼓三下す。これをきいて、戒弟・合山の大家集り、椅子に近前して胡跪す。直壇は大家の集りをを見て、説戒には睡魔を除き、寂靜信心にして、難値の大法を拝聴すべき義と、をよび戒会中の意地等の理致の、よく知れる様に口宣す。⁽²⁾

・戒師上殿するとき、大衆起立す。戒師壇前に焼香三拝か、もし深揖す。次に椅上に跏坐す。侍者等はその前卓を椅子の前に倚す。このとき戒頭すみて揖香し、自位にかへる。直壇の人、このとき手磬を打す。大衆展坐具三拝、具上に跏坐して黙然す。説戒の中は、別して内外寂靜にして、言語往来すべからず。若し放逸昏睡の人あらば、直壇それ親切に警覚すべし。戒師へ茶或は湯を進む。もとも直壇察にて用意す。説戒了て手磬を打す。戒弟徐々として起立し三拝す。この時に当りて、師前の卓を前の方に倚す。戒師位を下て壇前に揖して帰る（総じて戒師の出入のとき、侍者先に門簾等を揚ぐ）。⁽³⁾

上記三節から、まずは「説戒」について、「戒師」から特に承けるべきことと、七日加行の中で、「午時（いわゆる正午）」からしばらくの時間を置いてから行ったことなどが分かる。また、戒師の上殿から説戒中の前後についての作法の詳細も以上から理解出来、また、特に作法の詳細については現行の作法（『曹洞宗行持軌範』『授戒会作法』）に至るまで、ほぼ共有されている。な

お、慣れない加行で疲れていた戒弟（授戒会の参加者）もいたためか、あるいは昼食後であったためか、「睡魔」への注意があることに注目される。しかし、後の作法書でも、説戒時の心の持ちようについては注意する場合が見られるため、戒師からの説戒を、授戒会加行中の一大事として捉えていたのだろう。

然るに今の戒会を察するに、法儀繁多にして、却て戒相を誦し、解説するに暇ま無に似り。受者もまた徒にその法儀のみを習ひて、心開意解の義なきに因て、諸戒の本文を不会もの多し。經の本息はざるべけんや。¹⁴⁾

右は永平寺四〇世・大虚喝玄禪師（？～一七三六）が菩薩戒儀について提唱した『永平丈室夜話菩薩戒儀』『受戒師範』項での指摘だが、授戒会の加行中は特に仏祖への礼拝が非常に多く行われ、更には、大勢の僧侶が荷担して行う授戒会中に、特に依頼して来た施主からの供養なども行われることがあった。その結果、「法儀繁多」となって、戒相を誦し・解説する時間が得られず、受戒の意義などが正しく理解されていないことに苦言を呈していることが分かる。

また、説戒そのものは、聴衆の中に筆録者がいなければ記録されない。『年譜』に一六回の戒師を勤めたと記録される面山師も、四衆を対象とした説戒録は、『若州永福和尚説戒』が残る程度である。また、明治期以降の曹洞宗の両大本山貫首は、多くの機会に戒師を勤められたことが知られるが、説戒録まで残った事例は極めて少ない。二七一回の戒師を勤めたとされる總持寺独住

四世・石川素童禪師（一八四二～一九二〇）にも、説戒録は『仏戒略説』が提唱録である『夜明簾』に収録されて、容易に見られる程度である。無論、まだ世に出ていない説戒録が各地の寺院などに収蔵されている可能性があるため、資料調査が俟たれるところである。

四、「説戒」を行う役職について

既に前項で、指月師『開戒会焼香侍者指揮』から、「説戒」を行ったのは「戒師」であることを確認した。しかしながら、現在の作法では、以下のように指示している。

戒師は説戒を行う（あるいは随行長又は説戒師、これを敷演して説教を行うこともある）。説戒終わって、直壇は戒弟に三拝せしめる。戒師は自ら礼仏を挙唱し、下座、三拝して帰寮。¹⁵⁾

説戒は「戒師」が行うことを基本としつつも、戒師に随行している「随行長」が行うことや、昨今では、右の通り「説戒師」が別に拝請されて実施されることが多いように側聞している。

ところで、近世の記録を見ると、以下のように指摘していることもある。

- ・（第三日）飯後敷仏一座了て、戒師の説戒あり。予め礼仏を止め、受者を少し坐睡せしむべし。説戒の時には、伝戒・受戒の戒頭一人宛、始めに請拝、終て謝拝在て如法なり。
- ・（第四日）飯後説戒、昨日の如し。但し教授師、他山の尊宿

か隠居方ならば、今日ごろ請して説戒あるべし。⁽¹⁶⁾

右は、成立や来歴などに不明な点は残すものの、近世後期頃の授戒会作法と評価出来る『授戒会侍者暨直壇指南』を引用したもののだが、説戒を行う師家は、三日目の場合には戒師であつて基本の通りだが、四日目の場合には教授師が他山の尊宿か隠居をしたような老僧であれば、このような人を請して行うべきだとしている。つまり、特定の「説戒師」のみを拝請して行っているわけではないことになる。

この辺は、「説戒」に必要な知見の有無なども考慮された可能性を指摘しておきたい。

近頃僻陬ノ僧侶動モスレハ戒體戒相ノ如何ヲモ辨セス開遮持犯ノ説教ヲモ解シ得サル輩猥ニ自ラ戒師ト爲リ間々傍嘲ヲ受者有之哉ニ相聞右ハ一宗ノ隆汚ニ關シ不容易儀ニ付今後戒師ハ品行徳望ハ勿論字識兼備宗門傳戒ノ根柢ヲ了スル者ニ非レハ叻ニ戒師ト稱シ授戒法會施行不相成候⁽¹⁷⁾

明治時代の洞門は、近世同様に授戒会が実施されていたが、一方で戒師の能力的な問題が取り沙汰され、右の明治八年（一八七五）の布達では、必要な説戒が出来ない事例が発生しており、宗務当局に問題視されていたことが理解出来る。転ずれば、江戸時代からの引き続きで、現場では様々な問題がある説戒もあったことが想定され、それを回避するために、授戒会を行う当該寺院の周辺で、長老たる人に説戒を依頼した可能性があるということである。

五、「説戒」の内容について

江戸時代に行われた実際の説戒録といえば、『曹全』『続曹全』の「禅戒」巻に複数が収録されているが、中でも実際の戒弟四衆を前に説かれ、更には刊行されることで広く影響力を得た文献としては、以下の二本を挙げるべきであろう。

・面山瑞方禅師『若州永福和尚説戒』

宝暦二年（一七五二）但馬大用寺での説戒録。宝暦九年刊行。この時の戒弟は六〇〇人余。

・雲樞泰禅師『戒会落草談』

享和四年（一八〇四）志摩常安寺での説戒録。明治四二年（二九〇九）に『授戒説教』と改題して高田道見師が刊行。

この時の戒弟は二〇〇〇人とも。

両著ともに、漢字仮名交じり文で書かれており、説戒当日の言葉を収録したものとして評価可能である。

そこで、説戒を行う理由については、以下の一節が参照されるべきであろう。

コノ説戒ノコトハ、梵網經ノ中ニ、新學ノ菩薩ノ爲ニ、一次第二戒法ヲ説キ聞カシメテ、心開意解シタラン上ニテ、戒ヲ授ヨト見ヘタレバ、受戒ノ前ニ、先ヅ説戒シテ聞カシムルガ如法ナリ、梵網經ニモ、戒律ノ因縁ヲ解セズシテ、戒師トナルハ非法ト誡ラレ、亦一切ノ經律モ解セル許現シテ、人ニ戒ヲ受シムルハ非法ト誡メラル、故ニソノ戒師タルモノハ、

先學大乘威儀戒律、廣開解義味トアレドモ、愚僧ノゴトキハ、佛勅ニ叶フ様ニ義味ヲ開解スルコトハ、及ビモナキコト、⁽¹⁸⁾

右は『若州永福和尚説戒』に依ったが、この一節からは、「説戒」の根拠として、『梵網經』「第四十攝化漏失戒」⁽¹⁹⁾などを参照して実施していたことが理解出来るよう。特にこの一節は、戒師となる条件についても、「先學大乘威儀戒律」こそ叶ったとしても、仏勅に叶う解説が出来るわけではないとする。その意味では、洞門ではこの辺を、「室内」の教育に任せていったように思われ、本来は伝戒の場面で用いられるべき『教授戒文』も、説戒に用いられるようになった。

ただし、『仏祖正伝菩薩戒作法』に因む行法を、四衆の授戒会に転用することを批判していた面山師（『若州永福和尚説戒』）は、『教授戒文』を「説戒」に使う様子は見られない。更には、一々の戒の解説についても、説話を多用せず、『梵網經』の本文に沿った丁寧な内容となっている。

その点、雲檀師の『戒会落草談』は、経文に基づいた解説を用いつつも、多数の説話を入れており、その結果、因果論などが詳細に説かれ過ぎて、実体的に捉えられる場合もある。雲檀師自身、自分の話が長いことを自覚していた。

中中七日位ヒノ説戒デ、甚深ノ戒相ガ説キ盡サレルコトデハナケレドモ、先ツアラマシ肝要ノ処バカリヲ拈デハナシマセウ、⁽²⁰⁾

洞門における「説戒」について

しかし、雲檀師は戒師として強い人気があったためか、近畿・東海地域で複数回の戒師を勤め、その度毎に数百から数千人という戒弟を集めた。それは、身近に感じられる説戒であったためとも考えられる。そのため、現代的な観点では、人権の問題として捉えられるべき文脈も複数存在している。説戒に見られる説話の基本は、因果応報譚である。いわゆる善因善果・悪因悪果であるが、これも過度に強調された結果、特に後者が脅迫的言動となってしまう。『戒会落草談』では、漢語の仏典からインド・中国の話題を引用し、更には日本の各地域の説話も採り入れて構成している。ただし、それを戒弟に話す場合には、当時の話し言葉へと変えて用いているが、その際に特定の用語が当時の日本の被差別者に置き換わった場合もある。

分かりやすいということは、それだけ当時の聞き手の人々に通じる差別感情に接近し、差別を助長した可能性もあるのである。

六、附録『丘宗潭老師「説戒」』解題

本論には、近代の授戒会「説戒」の様子を見ていくために、新出資料である『丘宗潭老師「説戒」』を附録した。書誌情報などには以下の通りである。

- 一、冊数 一冊
- 一、料紙 楮紙
- 一、大きさ 縦25 cm×横17・4 cm
- 一、装丁 袋綴

一、題目 外題 戒師 丘宗潭老師 説戒

内題 説戒

一、枚数 題 一丁

本文 五五丁（各紙表側左上に記載された丁数は

五四丁とするが、一部に重複が見られ、実

際には五五丁である）

跋 一丁

一、行字数 毎葉10行 毎行24字

一、書写年 大正三年一〇月三〇日（同年十一月二三日に修

訂）

一、筆記者 澤木興道（蘆垣閑人）

一、所蔵者 菅原研州

本資料は、近代の代表的な宗師家の一人である丘宗潭老師（一八六〇〜一九二二）が、まだ伊豆修禪寺の住持だった頃の大正三年（一九一四）四月一〜七日の日程で、駿河国安倍郡長田村安養寺（現在の地名では静岡県静岡市駿河区小坂に所在）に戒師として拝請された時の説戒録である。本書を翻刻した理由は、今年（令和二年）に百回忌を迎える丘師への讃仰を目的としたためである。なお、本書跋文では、戒弟の数は七〇〇人であったと記録されている。この時に同寺では結制安居も行われ、丘師は西堂も勤められた。

また、筆記者は、この前年から丘師に従うようになったとされる澤木興道老師（一八八〇〜一九六五）であり、本資料はその直

筆記録である。澤木師は同法要において、西侍（西堂侍者）と戒侍（戒師侍者）を兼任している。本文冒頭に「戒侍興道筆記」と署名され、丘師の門下で興道といえば澤木師のことであるから、その通り拝受していたのだが、本文末尾に「蘆垣閑人」とあったため、澤木師本人であると確定した。この結制安居の後、澤木師は丘師の下を離れ、奈良県法隆寺に近い空寺で蘆（葦）垣宮の跡地に所在しているとされる成福寺に入り、坐禅三昧の毎日であったとされるが、その行動と署名が一致することが分かる²¹。

なお、澤木師の跋文によれば、本書の筆録作業については極めて困難な中での記述であったことを述懐され、十分な内容であるか自信が無い様子が窺える。

また、丘師については、既に門人の岸澤惟安老師（一八六五〜一九五五）の編集に係る『霞丘老漢説戒』（鴻盟社・昭和八年）が刊行されているが、岸澤師がしばしば拝聴した丘師の説戒について、「その一時の筆記を整理」したものであるとされ、説戒の時処などは不明である（同書三八頁に奥伊豆の小さな事件のことが説かれるため、まだ修禪寺の住持の頃か）。推定される時期や内容から、本書とは近似した文脈も多いと判断出来る。

以下には、本書を通して得られる知見などをまとめておきたい。

①本書の構成

本書は七日間の説戒を、その日ごとにまとめたものであり、以下のような構成となっている。

一日目第一席 挨拶 総論
 二日目第二席 懺悔（省略） 三帰戒
 三日目第三席 三聚浄戒
 四日目第四席 十重禁戒

第一不殺生戒 第二不偷盜戒

第三不貪婬戒（前編）

五日目第五席 此時教授戒文誦誦

第三不貪婬戒（後編） 第四不妄語戒

第五不酤酒戒

戒法之大意（登壇心得）

六日目第六席 第六不說過戒 第七不自讃毀他戒

第八不慳法財戒

第九不瞋恚戒 第十不謗三宝戒（略述）

七日目第七席 受戒功德ニ付テ

以上である。洞門授戒会で戒弟に授与される十六条戒についての説戒であるが、正授戒が行われる六日目に間に合うように進められたためか、「第十不謗三宝戒」は略されてしまった。また、「懺悔」についても、他の方に任せて提唱されなかったため、懺悔のみ説示した別の役がいたことが想起される。ただし、第七席の「受戒功德ニ付テ」を示す中で、戒を受けた戒弟が、それぞれの自宅に戻った後の生活を注意しつつ、懺悔についても述べられた。

②丘師自身に係る事績

洞門における「説戒」について

丘師の出身地について、一般的には尾張国（愛知県西部）出身とされ、一部には「瑞穂村」と出ていることもあるが、本書では「熱田附近」（二二丁裏）であったと述懐されている。岸澤師の『霞丘老漢説戒』「序」では、沙弥だった頃の丘師が熱田に豆腐を買いに行った話が出ているが、その前から熱田近辺を生活圏としていた様子が分かる。なお、現在の名古屋市瑞穂区中心部の明治期の名称が瑞穂村とされるため、その地の出身であったとすれば、「熱田附近」という述懐も該当するといえよう。

十重禁戒の「第九不瞋恚戒」への説示で、丘師自身が癩癰持ちであったと述懐されている（五一丁表）。そして、それを抑えるために、母親が自ら魚肉断ちをして仏に祈ったという。瑩山禅師と類似した逸話であるといえよう。

また、自身の修行期間中の逸話について、二〇歳（一八七九年）頃に美濃妙應寺にいたこと（二五丁表）や、明治一三年（一八八〇）から飛騨にいた話（一八丁表）と、二四歳（一八八三年）の時には小田原の海蔵寺に安居していた時の話（一九丁表）を紹介している。

③周囲の洞門僧について

丘師が随身として仕えた西有穆山禅師（一八二一〜一九一〇）に係る行実を二点示している。一つは、如来寺（現在の静岡県駿東郡長泉町に所在）に五〇歳くらいの頃、戒師として来訪された際の『血脈』に関わる話（四〇丁裏）と、「第九不瞋恚戒」における「家内安全の陀羅尼」に関する逸話（五二丁表）を紹介され

ている。

また、西有師門^下としては兄弟弟子的だったが、実質的には丘師に参随していた岸澤師についても、大分県の邪馬溪や羅漢寺に同伴させたことなどを示している（三六丁裏）。

④本書における戒思想の特徴

まず、本書は、懇切丁寧な平話として示しておられる。

その上で、思想的な特徴について、『霞丘老漢説戒』では全編通して『教授戒文』を基本に提唱しているが、本書の場合には五日目第五席に『教授戒文』が読誦されるまでは提唱に引用されず、それ以降は各戒の解説を締め括るように引用されている。丘師は大正元年に、江戸期の学僧・万仞道坦禅師の編集に係る『仏祖正伝禅戒鈔』を改訂して開板しているが、それが説戒に影響している、岸澤師は『霞丘老漢説戒』「序」で指摘している。ところで、通常の授戒会では、六日目の夕刻以降に、「正授道場」

を行う前に「教授道場」を行い、そこで『教授戒文』が読誦されるべきものだが、今回の説戒では、五日目に『教授戒文』読誦が行われている。これは、丘師が提唱に用いるために読誦されたものであり、教授道場ではなかったと見るべきなのだろう。

授戒会の戒弟に何度も就き、『血脈』を重ねて受けることは、完全に肯定されている（二丁裏）。一方で、一度授戒会に就いた戒弟が、満散を迎えて帰宅した後の生活法について、「受戒功德ニ付テ」で言及された際には、「懺悔・三帰戒」を繰り返し唱えることを促している。その際の懺悔は「懺悔文」読誦であり、三

帰戒は「僧那法（着鎧法）」であるとしている。「僧那」はサンスクリット語の *sannaha* の音写で、意識すれば「被甲・鎧」となる。つまり、帰依の心の堅固なる様子を示す言葉であり、丘師は戒弟に強く三宝帰依を行うように求めていることが分かる。この箇所²²の提唱を通して、「第十不謗三宝戒」の補完をしたと見ることも出来よう。

また、五日目の「戒法之大意（登檀心得）」に因む提唱（四二丁表以降）で、「頓誓漸修」を示している。これは、特に戒の護持が困難な立場・職種の人においても、護持できる可能性を開いたもので、既に四日目の「不殺生戒」への説示で「随方戒」（二三丁表）を説くことで、持戒の方法に限定性を適用される可能性を示されたが、それを更に深めたものといえる。なお、岸澤師筆録の『霞丘老漢説戒』にも、戒の限定的な護持には触れられるが、「随方戒」「頓誓漸修」といった語句は用いられていない。

「頓誓漸修」の意味は、「頓誓」が授戒会における正授戒で戒師の前に、戒弟自ら「能く持つ」と唱えて、堅固に護持しようと誓いを立てることであり、その一時の誓いを通して、「漸修」へと展開し、当人に可能な限りの護持を目指すことである。つまり、自らが戒を守る時間・空間・状況などに制限を加えることをいう。ただし、これらは場合によっては戒弟自身の自俣に制限を加えられる可能性をも許すことで、「戒」の本旨が失われる危険性を含むものであるが、丘師は「慈悲」を基準に護持することを説く。ある種の規範性を持たせたともいえよう。なお、「頓誓漸修」の

典拠は、青丘太賢『梵網經古述記』巻下である。⁽²³⁾

また、提唱の末尾には、授戒し、その後の生活で「三宝ニ御恩感謝」(五五丁表)することを説く際に、道元禪師の『正法眼蔵』「行持(下)」巻から「日日ノ生命ヲ等閑ニ費ヤサラムト行持スル也」⁽²⁴⁾と引用して、日々の生活を大切に送るよう訓誡されたが、授戒した結果について『修証義』「第五章行持報恩」を意識されたものであろう。

⑤本書に見える人権的問題

繰り返しになるが、本書の提唱は平話である。そこで、戒弟の理解を促すために、丘師は多くの説話を引用されたが、そのために因果論も実体的な様相を呈し、現代的な観点では差別的・脅迫的と思われる言動となってしまうこともあった。以下に列挙し、本論附録を御覧になる方への注意喚起としておきたい。

※「悪しき業論」関連

「第一席」の総論を説示される中で、前世・前生の行為の結果、現世において様々な苦悩を受けているという様子を示される。「五丁表」八丁表」までの範囲となるが、既に曹洞宗では「悪しき業論」⁽²⁵⁾として否定された観念である。

更に、現実における具体的な行為が、現実には報いるという実体的な因果論が散見される。特に「三時業」の観念でいえば「順現法受業」の指摘が見られ、「業論」としては脅迫的言動になり得るため、注意喚起しておきたい。本書では、亡き人の位牌を粗末に扱った場合(二二丁裏「二二丁表」と廃仏毀釈の際に仏像など

を焼いた事例(二二丁表裏)などを示している。また、殺生をすればそれだけ寿命が縮むといった指摘(二七丁裏)も脅迫的に受け取られる可能性がある。同じく「順次生受業」に当たると思われるが、「殺生ヲスレバ地獄ニ落ル」(二四丁裏)としつつ、その事例に美濃妙應寺の開山由来などを引用している(二五丁表「二六丁裏」)。「順後次受業」に当たると思うが、悪しき行いによって三悪道を輪廻するといった指摘(二六丁裏)が見られる。

※特定の事象への差別的言動

天理教への信仰を引き合いに出しつつ信者を批判する言動が見られる(一〇丁表)。天理教やキリスト教(耶蘇教)への対抗意識からか、仏法の方が優るといったような言動が見られる(一〇丁裏)。廃仏毀釈を進めた神道の事例として熱田神宮を批判している(二二丁裏)。

男は男、女は女といった言動(二九丁表)が見られ、性的多様性が許容される現代では、差別的だと採られる可能性がある。

「不妄語戒」の説示について、「身分ノ底イ者」(三三丁表)がこれを犯すといった差別的言動が見られる。

「不妄語戒」の説示において、国王の言動により国が減ぶという言動を用い、具体的な事例として「朝鮮ヤ支那」(三四丁表)としているが、これらは民族差別を含む言動である。

「不説過戒」の説示において、社会において他者批判を行う者として新聞記者を挙げ、その非難を行っている(四四丁裏「四五丁表」)が、職業差別に該当する可能性がある。

※差別語

「狂」を頻繁に用いている。なお、意味としては、精神的に異常を発していることを指す場合もあれば、仏道の道理に暗いことを指す場合もある。ただし、本論ではその文脈を判別せずに、関連する用語を列挙することで注意喚起しておきたい。「狂^{いが}ンタ」(二〇丁表)・「氣狂ノ羊」(一三三丁裏)・「氣チガフ」(三七七丁裏)・「狂氣」(三八丁表・三八丁裏)・「自分ノ心ヲ狂ハセヌ」(三八丁表)・「狂フテ」(三九丁表)・「クルワナイ」(四三三丁裏)・「クルウテ」(四五丁裏)である。

他にも、「学ノ無イ人々」(二〇丁裏)・「支那」(八丁裏・一二丁裏・二二丁裏)・「盲目ノ婆々」(二八丁表)・「鬼ノ様ナ人」(二四丁表)・「施餓鬼」(二六丁表)・「馬鹿」(二八丁表・二九丁表・四四丁表)などの差別語が見られる。文脈を丁寧に見ていくと、差別をするために用いたわけではない場合も見られるが、用語として不適切と見なし、注意喚起するものである。

七、結論

本論では、洞門における「説戒」について、成立経緯や行法、あるいは主張されていた内容を確認した。しかし、残る課題は、何故このようなスタイルになったのかの理由を、説明出来なかったことである。

そもそも、「説戒」を行う理由については、面山師が指摘した通り、人々が受戒するに及んで、その内容を正しく理解して貰う

ことで、円滑な授戒を行うことを目的としていたはずである。しかし、それが行き過ぎたために、脅迫や差別と考えるような言動に繋がる場合もあった。民衆に最も近いところでの説教だけに、きれいな事だけでは済まされないことは、他の説教の事例をもつてしても分かっているが、今回翻刻した『丘宗潭老師「説戒」』についても、本文の扱いには呉々も御注意願いたい。「頓誓漸修」など、実際の実践的な場面では、有効と思える内容も見られただけに、非常に残念ではある。

現代の説戒では、人権の問題に配慮するなどして、内容も「善因善果」の方はよく示すとしても、「悪因悪果」の方は控え気味である。しかし、それがために、訓誡という点では、やや響かないこともあると思う。現代に見合った方法で、訓誡的内容が適切に示される方法を模索する必要があるといえよう。

註記

- (1) 『大正蔵』巻四〇・三四頁b
- (2) 『曹全』「史伝(下)」二七頁上段
- (3) 『曹全』「宗源(下)」四五四頁上段
- (4) 尾崎正善「翻刻・禅林寺本『瑩山清規』」、『宗学研究紀要』七・一九九四年
- (5) 『浄土宗全書』一七巻・一一二頁下段
- (6) 『全集』巻六・二〇八頁
- (7) 『全集』巻六・二〇八頁

- (8) 『得度或問』、『曹全』「禪戒」一九四頁上段
- (9) 『得度或問辨儀章』第一、『統曹全』「禪戒」一六八頁上〜下段
- (10) 『統浄土宗全書』第九卷・一四一頁上段
- (11) 『開戒会焼香侍者指揮』、『統曹全』「清規」四七三頁上段
- (12) 『開戒会焼香侍者指揮』、『統曹全』「清規」四七六頁上段
- (13) 『開戒会焼香侍者指揮』、『統曹全』「清規」四七六頁上〜下段
- (14) 『永平丈室夜話菩薩戒儀』「受戒師範」項、『曹全』「禪戒」二二二頁下段
- (15) 『授戒会作法』、『昭和修訂曹洞宗行持軌範』二八五頁
- (16) 『授戒会侍者暨直壇指南』、『曹全』「清規」七九五頁下段〜七九六頁上段
- (17) 『明治八年布達第二六号』、『曹洞宗両本山布達全書』「明治五〜一一年分」五一丁表
- (18) 『若州永福和尚説戒』卷上、『曹全』「禪戒」一四二頁下段
- (19) 『梵網經』、『大正蔵』卷二四・一〇〇八頁b〜c
- (20) 『戒会落草談』、『曹全』「禪戒」六一三頁上段
- (21) 澤木師の行実については、駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室編『澤木興道墨蹟展』(二〇一四年)パンフレットなどを参照した。
- (22) 『霞丘老漢説戒』五一〜五三頁、他。
- (23) 『大正蔵』卷四〇・七〇〇頁bに見える。なお、『古述記』では、いわゆる「分受戒」についての指摘であり、厳密には丘師の用法と異なっているが、持戒の部分的省略を指すという点で共通している。
- (24) 『全集』巻一・一八四頁からの取意。
- (25) 『悪しき業論』については、曹洞宗人権擁護推進本部編のブックレット「宗教と差別7」「悪しき業論」克服のために』(昭和六二年)を参照されたい。

洞門における「説戒」について

参考文献

- ・『曹洞宗全書』『統曹洞宗全書』はともに、曹洞宗宗務庁刊。引用や参照時には、『曹全』『統曹全』と略記し、巻数と頁数・段数のみで示した。なお、原漢文の場合には、訓読して引用しているが、一々は指摘していない。
- ・道元禅師の著作は春秋社『道元禅師全集』(全七巻)を参照し、引用時には巻数・頁数のみで略記した。
- ・『大正新修大蔵経』を引用・参照した。その際、巻数・頁数・段数のみで引用箇所を略記した。
- ・『統浄土宗全書』浄土宗書保存会
- ・『曹洞宗両本山布達全書』曹洞宗両大本山東京出張所・明治一一年・曹洞宗宗務庁編『昭和修訂曹洞宗行持軌範』昭和六三年

附録『丘宗潭老師「説戒」』翻刻資料

【凡例】

- ・本資料は、筆者所持・澤木興道筆録『丘宗潭老師「説戒」』全編を翻刻したものである。
- ・翻刻時の行数・字数などは原典に従った。
- ・字体は概ね原典に従ったが、類似した字体で表現した場合もある。
- ・原典は筆録者である澤木興道本人によって修訂されており、修訂の墨書・朱書は全て反映させたが、墨・朱の指摘はしなかった。
- ・また、筆録時の誤記が散見され、気付いた限りは（ ）で指摘した。
- ・現代の人権重視の観点からは、明らかな差別と考える文脈や用語が多数見られるが、当時の資料の再現を企図し、そのまま翻刻した。更なる差別に繋がらないよう、取り扱いには異々もご注意いただくことを希望する。また、詳細は本論中の注意を参照されたい。

【表紙】

戒師 丘宗潭老師

説戒

大正三年四月一日ヨリ七日間

於駿河国安倍郡長田村安養寺

(印)

荅棹清

風明月下

不知身

在水晶

宮

大正三年秋 鉄元稚子題

□ (鉄元)

□ (興道)

【一才】

説戒 第一席

戒師 宗潭老師

戒侍 興道筆記

何レモ能ク御受戒ニ御出ニ成リマシタ大分遠方カラ御

越ニ成タ方モ有ルソウダガ、今日ハ天氣ガ好テ誠ニ結構

デアリマシタ、大キナ御寺デモ澤山ノ人ダカラ随分不自

由デモ有ウガ御心棒下サイ、七日ト云ヘバ長ヒ様ダガ人

間一生五十年ト云フガ八十年生キテモ充分ハハ思ハヌ

ノダカラ、マア、御受戒七日モ成ル丈ケ長生キスルガヨヒ

ヲクノ人ガ死トモ無イ思フガ夫レヨリ早ク生レテ来タ

イト思フガヨイ、夫レハ人間ニ生レ此南閩倍州ニ生レルノ

【一ウ】

ハ猶更ラ有難ヒノデ仲々沢山ノ国ノ中デ日本ニ生レル

ノハ又タ／＼難中ノ難デアリマス、然ルニ生レテ日本国ノ

人トナルハ誠ニ幸ヒ中ノ幸ヒデアル、夫レデ人間ニ又タ早

ク生レテ来ル様ニセネバナラヌ、ソコデ人間ノ事ハワケ

ガワカラヌカラ死ダノリハドウデモ好イト云フハ間チガ

(辛坊の誤記)

ヒデ、其ノワケノワカラヌ処ヲ心配セネバナラヌ、其ノワケワカラズノ暗ノ夜ヲ大膽ニモ放テ置クノハドウ云々
 デシヨウナ、ワケノワカラヌ事ヲ其ノ俚ニシテ置テハ駄目デシヨウ、人間ノ一生ハ氣車ニ乗ル様ナモノデ、何処ノ驛デ休ムヤラワカラム、御経ノ中ニモ生ノ從來スル処ヲ

(汽の誤記)

【2オ】

知ラズ死ノ終ル処ヲ知ラズ、ト又タ涅槃聖ノ中ニ夫ヲ喻ヘテ末世ノ凡夫ガ大道ニ「マゴツイテ」東西南北スルアリ、人ノ問フアルモ何ツコヨリ来ルトモ何処ニ到ルトモ知ラナイ、ト御互ガ又復如是人間一生何ノ事トモ不知故ニ佛ガ此等凡夫ノ為メニ生ノ始メ死ノ終リ皈スル処ヲ教ヘテヤリタイ為メニ佛出現セリトアリ、佛ハ過去現在未來ノ事ヲヨク／＼教テ現在ノ都テヲ御教授セラル、ノデアル皆様モ御受戒ニ御就キニ成タノハ其ノ事ヲ諦メ其ノ事ヲ教説ヲ聞テ、決定シテ置クノデアル、此ノ中ニハ幾度モ御受戒ニ付ケタ人モアルダロウ、私力方々デ戒師ヲ

【2ウ】

勤メル中ニハ四十九返御受戒ニ就タト云ノカ一番沢山付タ人デアツタ其ノ人ハ私ノ血脉丈ケデモ十五保持テ居ルト云フタ、何シ返デモ度ヒ重ナル程ヨロシイ今日ハ夫レ／＼遠方カラ御越シデ御疲レダロウカラ簡短ニ御受戒ノ事ヲ御話シテ置コウ、此ノ御受戒ハ佛法ノ中デ最モ大切な事デ又皆様ニ取テモ一番大切な事デア

洞門における「説戒」について

ル、日本デハ奈良朝ノ称武天皇ノ時カラ傳ツテ居ル

(聖の誤記)

受戒ハ今世後世ヲ安隱ナラシメルモノデアル、人間ガ一生安樂ニ暮ス事ノ出来ヌハ何故カト云ヘバ此ノ持戒ノ徳ガ無イカラデアル、此ノ世デ難義苦勞スルモノハ受戒

(穂の誤記)

【3オ】

ノ徳ヲ積ヌカラデ未來三惡道ニ落チルノデ、近頃ノ人ハ地獄や極楽ハ無イト云フガ、其ノ様ナ結構ナ人ハ日本中ニハ、メツタニ有リマセヌ地獄導や餓鬼導ハ誰レガ造タカトスレバ別ニ製造ガ有ルノデ無イ皆ナ御互ガ自ラ造タ地獄餓ニ落ルノデアル、其ノ道理ガ、ワカラムカラ人ガ皆

(道の誤記)

(餓の下に鬼の脱字)

ナ迷フ、ソレデ昔ノ人ノ歌ニ

火ノ車造ル大工ハ無ケレドモ

已ガ造リテ已ガ乘リ行ト

ト云ハレタ何デモ自分ノ心カラ造テ其ノ報ヒヲ受ケテ居ルノデ夫レニ付テ此ノ戒法ノ徳ヲ重ネルノガ大切デア

【3ウ】

リマス 昔シ聖徳太子様ガ此ノ戒ニ依テ人ノ徳ヲ養ヒ戒ニ依テ身ヲ修メルト云フ事ガ太子様ノ釈氏憲法ト云モノニ其ノ事ガ説テ、云ク

三曰戒諸佛立極之大門也故法身遮那華藏先說應化釈迦鹿野先說是以衆生受戒入于僧破戒出僧在戒是僧退戒非僧心依戒理德依戒成無戒破戒沙門未化自何教人乎是費国

遊民王者放徒へ已上へ以上ハ興道私ニ引載ス説戒ニハ前ノ言丈ケアルノ

ミ後人見テアヤシムナカレ

二月十五日

其ノ根本ハ佛様ガ御涅槃ノタベニ一切ノ者ハ戒法ヲ守

ルガ大切デアル、凡夫ガ珠宝ヲ守ル如ク戒法ヲ大切ニセ

ヨト仰セラレタ夫レニ元トズイテ居ルノデアル、トカク、

【4オ】

戒法ガ無ヒト人間ニ生レルヲガ出来ヌ又天上ニモ勿論極

樂ニモ生レラレヌ戒法ノ徳ハ人間ガ金錢ヲ大切ニスル

如クセバナラヌ、御釋迦様御在世ノ中ニ辺鄙ノ処カラ

佛様ノ御膝元ヘ説法ヲ聽聞ニ參ル途中、幾晩モく宿泊シ

テ道中シタ処ガ其ノ途中人家モ無キ山中デ水ガ飲ミタ

ク咸テ飲マネバ死ヌ程苦ク咸タ処ガ水ノ中ニ澤山虫ガ

居ルノデ飲メバ佛様ノ御誡メニ虫ノ居ル水ヲ呑ムナト

仰セラレル教ニソムク、処ガ兩人ガ一人ハ喻ヘ教ヘニソ

ムヒテモ飲メバ命ガアル、サスレバ佛ノ教ニ値ヘルト云

ヒ一人ハドウシテモ呑マヌト云テ争フタガ一人ハ呑ミ

【4ウ】

一人ハ其假死デシモウタ、呑ムダ人ハ佛様ノ御許ニ着イ

タ処ガ死ムタ人ハ天人ト成テ先キニ佛様ニ御膝元デ説

法聽聞シテ居ル、其ノ中佛ニ具ニ其ヲ申上タ処ガ佛ガ

仰セラル、ニハ汝ハ痴人也、水ヲ飲マズニ死ダ人ハ汝ヨ

リ先キニ佛ノ御元トニ達シ飲ムダ人ハ十日後ニ着シタ

ト云フノデアル、佛様ハ我佛身トハ汝ノ目ニ見ヘル丈ケ

(感の誤記)

デハ無イゾヨ法是レ佛身デアルゾト法句聖ニアル、皆様

ハ受戒デ御血脉ヲ頂イタラ之レハ佛様ノ御身軀ヲ受ケ

ルノデアル仲々大切ナヲデアルカラ七日ノ御勤メヲ充

分ナサルガヨロシイ

【5オ】

○阿含經ト云御經ノ中ニ暗キヨリ暗キニ入ルト暗キヨリ

明キニ出ルト、明キヨリ暗キニ入ルト、明ヨリ明ニ移ルト

ノ四通リノ人ノヲガ説テアル、此ノ中沢山ノ人ハ皆ナ此

四通リノ中ノ人デアリマス皆様ハ此ノ中ドノ人ダナ、

一二明イ処トハ人間ノ身ハ佛ニモ神ニモ成レル猫ヤ獵

ガ神ヤ様ニナレルモノデナイ、然ラハ此ノ身軀ハ明イ結

構ナ身デアル皆様ハドチラカ、次ニ暗イ処ト云ト地獄ノ

ヲダ夫レト各々胸ニ手ヲ置テ見レバ好クワカル極樂カ

ラ迎ヒガ来テモ行ク氣ノ無ヒ者ハ行カヌ地獄ヘモ皆々

勝手ニ行クノデアル、ソレデ此ノ明ヒ身ヲ暗イ処ヘ落サ

【5ウ】

ヌ様ニセネバナラヌ又次ニ暗ヨリ明ハ暗イ地獄カラ人間

ニ生レヲ来タヲデアリマス次ノ暗キヨリ暗キトハ地獄

カラ地獄ヘハ寒地獄カラハ八熱地獄ト、アチラコチラニ苦

ムヲデアリ、又明ヨリ明ニ出ルトハ此ノ人間ガ受戒ヲ持

テ佛様ニ成ルモノヲ云フノデアル、ソレテ今マ戒ヲ受

ケルノハ明ヒ身ガ明ヒ処ヘ更ニ極樂ト云処ヘ生レル種

蒔キデアル、此ノ受戒ハ明イ処ヘ出ル法ヲ勤メルノデア

ル夫レガ阿含至ニハ又タ七通りノ別ガアル、夫レハ同じ人間デモ達者ナ人ト弱ヒ者トアル、イツモ御異者様ト申ヨシノ人ガアルシ生レテカラ異者ノ厄介ニナラヌト云

【6オ】

人モアル達者ナ人ハ前生ニ殺生ヲ慎ムダ人デアルシ弱ヒ人ハ殺生ヲ犯シタ人デアル又短命ナ人ト長命ノ人トハ長命ノ人ハ慈悲ノ深カツタ人デ若カ死スル人ハ無慈悲ナ人デアツタ 次ニ富貴ナ者ト貧乏ナ者ガアル私ガ先年大坂へ行テ鴻ノ池ノ話ヲソコノ和尚ニ聞タガ鴻ノ池ノ娘サンガ番頭ニ云フノミ盜ダトカ金ガ無イトカ云フヲガ新聞ニ書キテアルガドウ云フダチ尋ネタト云フ実ニ面白イモノデ御嬢様デハ一円ヤ五十ガ無イト云テ困ルト云ハ之レハ何故カト云フト「シワンボウ」ノ

【6ウ】

報イデ金持ニ成ルノハ恵ミ施シタ徳ガ金持ニ成タノデアル、之レガ第三番目デアリマス 次ニオ四番ニ子ガ沢山アル人ト少シモ無イトアル、之レハドウ云フ理由カト云フト、小供ヲ澤山持テ居ル人ハ放生ト云フテ物ノ命ヲ助ケル、東京デハ葬式等ニハ「ニガシ鳥」ト致シマス、随分喰フヲガ出来ナイデ死ヌト云フ様ナ人ヲ助ケテヤツタ人ガ小兒ノ沢山アル人ニ生レル次ニ人ニ馬鹿ニセラレルト恭マワレルトガアル、之レハ何故カト云フト、敬バレル人ハ前生デ目上ノ人ヲ敬ツタ

リ佛様ヤ神様ヲ拝ミ我慢高慢ヲセズニ恭敬^{下上}拜礼ノ徳デ

【7オ】

トカク頭ヲ上ノ方ヘソリカヘル様ナヲヲシタ人ハ此世テ馬鹿ニセラル、シ又タ謙讓ナ人ハ人ニ敬マハレル、此ノ此受戒ニ附テ七日間南無三世諸佛ト礼拝スルノト御説教聞クノガ仕事ダカラ誠ニ結構ナヲダガ餘リ人ガ多ヒデ立テ御拝ヲスレバ困難ダカラ座タ俣デ充分頭ヲ下ゲテ御拝ヲスル其ノキニ、御前様方ノ我慢ガ皆ナ折レテシマウテ居ルノダ折レル音ガボキ／＼スル也

此レニ付テ話ガアル、方々ノ御寺ニ「ビンズル」尊者ト云ノガアル、アノ人ハ于顛王ト云フ王様ノ家来ガ出家シタノデアルガ、アル時尊者ガ阿育王ニソウ礼拝ナサライデモ、ヨ

【7ウ】

ロシイト云フタラ、阿育王ガ吾ガ礼拝シタトテ下ルト云フデナイ上ルト云フデアルト尊者ニ申上ゲタラ、尊者ガ、ソレハ如何ナル理由デト問ハレタラ、王ガ云ハレルニハ一度礼拝スル心ニ王ノ徳ガ上ルノミデ下ルヲナシト阿育王経ニ出テ居ル此ノ道理デ一度御拝ヲスルノハ此身ガダン／＼ト徳ノアガルノデアルカラ其ノ積デ礼拝ヲスルガヨロシイ

第六番ニ此ノ名^誉ト云フモ大ヘン^ホ挙ラレル人ト^ホ譽メラレヌ人トアル、之レハ名^誉ノ高イ人ヲ口^ハヲ守タ人ハ好名聞ヲ得ルトアリ人ヲ悪口シタ人ハ此^ハ吾デ人ニ難クセバ

(譽の誤記)

【8オ】

カリ付ケラレルノデアル、

コウ考ヘルト皆ナ各々ノ心カラ造リ出タノデアルカラ

此ノ身ヲ助ケヨウト思フタラ戒法ヲ守テ謹マネバナラ

ヌ戒法ヲ守ルヲハ吾ノ中ノ金錢ヲ大事ニスル様ニスレ

ハ各々其ノ分是丈ケニ徳ガツクノデアリマス

【8ウ】

説戒 第二席

懺悔ノヲハ外カノ方ニ依頼シテアルカラ私ハ三皈依

ノヲヲ、オ話し致シマス、

南無ト云フヲハ頼ムト云フヲダ、国ガ異カラ言葉ガチガ

フ、天竺デハ南無ト云ヒ、支那デハ、皈依ト云フ、日本デハ資

ケテ下サイト頼ムヲ、ソレデ皈依佛無上尊王ノ上モナイ

佛様ニ頼ムヲ、又皈依法离塵尊ハ法華圣ヤ花嚴圣ノ様ナ

御経ノヲデ其ノ清浄ナル徳デ助ケテ下サイト頼ム、次ニ

皈依僧和合■尊ト云フヲハ高祖承陽大師ヤ又他宗ノ

御開山様方及ビ佛々御在世ノ十六羅漢様ヤ地藏様觀音様

【9オ】

ナンド又タ血脉ノ中ニハ七十九人ノ和合僧ガ書キテア

ル、其ノ方々ニ頼ムノデアル、何デモ物ハ和合デナケ子バ

ナラス、和合ハ五人六人ノ人ガ一処ニ成ルノヲ和合ト云

フ、開山様方ニ皆ナ和合ノ徳ヲ以テ御助ケ下サイト云フ

ヲデアル、ソレ故ニ皆ナ此ノ唱ヘルヲ記憶セネバナラ

ヌ 南無皈依仏 南無皈依法 南無皈依僧 皈依佛無

上尊 皈依法离塵尊 皈依僧和合尊 皈依佛竟 皈依

法竟 皈依僧竟 ト云フ此ノ意ト云フハニタ心ヲ持ナ

イデ、昔カラ貞婦両夫ニマミヘズ、忠臣二君ニ事ヘズト云

通りノヲデ、今ハ佛様ト法ト僧ト此ノ三ニ皈依シテニタ心

【9ウ】

ハ持チマセヌト云フ様ナヲデアリマス、何レモマア最初

ハ此レヲ唱ヘル、若シ忘レタラ檀那寺ノ和尚ニ尋ネル、デ

之レヲ三皈依ト云テ此レハ三宝ニ皈依シテ心ガワリガ

セヌト云フデアリマス

此レハ佛様ノ方カラ救フト思召テモ、アナタ方ガ直ニ心ヲ換

リガスル、ソレデドウモナラス、ソレモ無理ハ無い、何故カ

ト云ヘバ、タツタ一人ノ娘ガ病氣スル其ノ時ニ天理教ニデ

モ拜ムデ、モラウタラドウカト人ニ進メラレルト胸底デ

グラツイテクル、災難ノ中ニツケコムテ進メラレテ天理

教ニ成テ手ヲ振ル羊ニナル、ソウスルト天理王ノ手ヲ振

【10オ】

ル方ガ面白クナツテクル ソレカラ皈 宗スルノモ近所憐リ

ノ手前ガ悪いカラマア其ノ俤一生我慢シテ手ヲ振テ終

ル、天理様デモ病氣ハナホリヤセス、又タ御先祖ハ皆ナ佛

法デ御果テニ成タ、ソノ上ニ 手ヲ振ルヲナンドヤラカシテ居ルト 佛様ハ日ニ三度涙ヲコボシ

テオナキナサル、之レニ付テハ深キ意味ガアル日本デハ

(教の誤記)

(隣の誤記)

聖徳太子様ガ十七憲法ノ第二条ニ

篤敬三宝三寶者佛法僧也則四生之終皈万国之極宗（云云）
ト説テアル三宝デ無ケレバ凡夫ノ狂シタ心ハ直ラナイ
ト云フテアル、之レハ推古天皇様ノ御世ノマデ其ノ時佛法
ヲ取り調ベテ之レヲ無クテハナラヌト云フノデ憲法ノ

【10ウ】

第二ニ御示シナサレタノダカラニタ心ロヲ持タナイ様
ニシテモライタイ、近頃ノ人ハ佛法ニ付テ色々悪ル口チヤ
ヒコツヲ云フテ佛法ヲ捨テタガルガ、ドウモイカヌ新イ
物ニバカラ眼ヲチラツカス此処ニ居ル人ハ皆ナ古イガ
新イノヨリハ人ガ好カヌ、古イ方ガ、ヨヒノデアルガ、ドウ
モ人情トシテ止ムヲ待ヌガ、私等モ此ノ文明ノ世ニ生レ
テ佛法ガ實際悪ルケレバ何ニモ一返坊主ニ成テモ止ツ
チマツテモヨイケレト天理ヤ耶蘇ヨリハ佛法ノ方ガ非
常ニ尊イノデ天理教ノ○佛法カラスンデ近頃コシラヘ
タノデアルガ学問ノ無イ人々ガコシラヘタノデ夫レヲ学

【11オ】

問ノ無イ人ハソコニ迷フノデ、私ハ十七ノ時カラ佛法ノ
学問ヲシカ、ツテ此年五十五ダガ夫レ丈ケ学問シテモ
未ダ尽キヌ、ソコデ此ノ佛法ヲ一句○偈ヲ求メル為メニハ
此ノ身ヲ投ジテ求メラレタ、ソレニ付テコウ云フガアル
アノ葬式ノキナンドニ書イテモラウ諸行無常ノ四句ノ偈
文ハ佛様ガ因位ノキニ○法ヲ求メル為メニ山へ御入り

洞門における「説戒」について

ナサレタ所ガ諸行無常是生滅法ト云フ声ガシタ、夫レデ考
ヘテ御覧ナサルトマダ下ノ句ガ無ケネバ意味ガ足ラム
ソレ故ニ声ノシタタ方ニ行テ尋ネアリクト、大キナ夜光ガ
居タソコテ雪山童子ガ今ニ句ノ文ヲ称ヘタノハ汝カト

【11ウ】

仰セラレルト如何ニモオレダト云、ソコデ雪山童子ガド
ウカ其ノ次ヲ聞カシテクレト御頼ミニナルト夜又ノ云
フニハ腹ガヘツテ云ハレヌト云フ、童子ガ汝ハ何ヲ喰ヒ
物ニシテ居ルト御尋ネニ成ルト、夜又ガオレハ人間ノ生
肉ヲ喰ヒ物ニシテ居ルト云フ、ソコデ然ラバ、シバラクノ
空腹ヲコラヘテ次ノ偈文ヲ聞カシテクレ、其ノ後ハ私ノ
軀ダヲ喰ツテクレト仰セラレタ、スルト夜又ガ生滅タ已寂
滅為楽ト下ノ二句ヲ称ヘタ、ソコデ雪山童子ハ指ヲ喰切テ
其ノ血デ姿ウツクシイ岩ニ四句ヲ書キ印ルシ後世ノ
者ヤ又自分ガ来生デ此ノ偈文ヲ読ムデ利益ヲ蒙ル様ニ

【12オ】

冷法久住ノ為メニセラレ、ソコデサノ約束通り此身ヲ喰
テクレト云フテ夜又ノ口へ御入りナサレタ処ガ夜○
デナクシテ佛様ガ童子ノ心口変リガ無イカタメサレ
タノデアツタ、コレハ佛様ノ話シデオボヘヌクキガ彼ノ
日蓮上人ハ南無妙法蓮華經ノ七字ノ法ヲ覺リ、之レヲ弘
メルニハ仲々大變デ首ヲ切ラレテモカマワント云フ決
心ダ全クニ心ガ無イカラ役人ガ首ヲ切ラウト思テモ切

（令の誤記）

レナンダコウ云フ有リ法ノ上ニハ及テモ折レテシマ
ウ此ノ佛法ハ三祇百大劫生死往來八千返シテ佛様が征
リナサレタ妙法ダゼ

【12ウ】

日蓮ハ命ガケデ広メ法然上人ハ流罪ニ遇フテモニタ心ハ
ナイ、之レ位イノ物ガ佛法ジヤ吾宗ノ承陽大師様ハ日本
デナ幾年修行ナサレ其ノ後支那ヘ五年御修行ナサレテ
此佛法ヲ御悟リニ成タ、然ルニ三日ヤ五日デ一寸トデ行
ク物デナイ、ソコデ佛様ノ事ダガアノ自我憫ネー此ノ中
ニ自我憫ヲ知テ居ル人が居タ、点ヲ付ケルト我レ佛ヲ得テ
ヨリ無量百千万億デアルト御尺迦様が此ノ娑婆ヘ御出
マシナサレタノ●ハ数は限リモ無イノデ皆ナ様が知テノ
通り四月八日ニ御生レナサレ二月^{十五日}ニ御入涅槃ナサ
レタ之レハドウ云フ御尺迦様カト云フト一体御尺迦

【13オ】

様ニ生キ死ハ無イ方デアル、誰レモ皆ナ死ヌカラ致シ方
ハ無イガ佛様ニハ生キ死ニハ無キ、其ノ結構ナ身ニ御
成リナサレタノト、何ツカト云ヘバ無量百千万億載阿僧
祇劫ノ昔デソレカラ人ノ世話ヲシテ教化シテ居ルコトガ
永年間デアル佛様ハ生タリタリシテ見セテ衆生済
度遊バスノガ仕事デアラセラレル、又タワカラズ屋ハ佛
様が難行苦行ノ御修行ト聞テハ佛様人間デ呉レノモ
同ジコトデ無イカト云フガ、豊太閤モワカラズヤ程コワイ

(葉は衍字か)

者ハナイト云タ、神ノ面モ見タコト無イモノガ佛ハ二月十
五日ニ死ンダデナイカト云フテモ皆ナワカラズヤノ云

【13ウ】

コトデ佛様ハ十九出家八十入滅ヲ示サレタガ之レハ皆ナ
生死ソシテ衆生ヲ導ク仕事(化儀)デアル死デ見セタリ生
レテ見セタリスル●情ノコワイ(強情)者ニハ死ンデ見セ
ネバ性気ニナラヌカラデアル、之レニ付テネ、私ノ知テ居
ル人が大事ノ娘サンヲ嫁入サセル羊ニ成テ充分仕事シ
テ何月幾日嫁入ト日決定メテカラ風引キガ本デ死ンダ
母親ガ気狂ノ羊ニナツテ私ガ行ツタラ其ノ途々発心
シマシタト云フテ夫カラ大変信仰スル様ニ成タ、御涅槃
象デモ沢山ナモノガナイテ居ルガ夫レガ皆御涅槃ニ遇
テ発心スルノダ、ソレデ佛様ハ生キ死ヲシテ見セテ衆生済

【14オ】

度ヲナサレルノデ、之レハ佛ノ法財デアリマス親心ハ子
故ニ迷フト云フガ、全ク佛様ハ衆生ヲ迷フ故ニ佛様が衆生
ノ病ヲ身ニ持チ生死遊バスノデアル、此ノ間モ静岡新聞
ニ貧乏人が正月小児ニ餅ヲ搗テ喰スコトガ出来ヒシ小児
ノ顔ヲ見レバ愛ニ引カレテヤルセナク餅米五升ヌスン
タ処ガ知レテ警察ヘ引揚ゲタ処ガ実ニ監獄ヘ入レルニ
シノビズ(云云)ト云ガ有タ佛様ハ妻子モ王位モ一切捨テ
、一切衆生教化ノ仕事ヲナサレタクウシテ多クノ者ノ
迷ハヌ様ニ教ヘテ下サレ夫レデモ根性ノクサツタモノ

ハ氣ガ付カヌカラ死ンデ見セラレタノデアルダカラ佛

【14ウ】

ノ御恩ハ忘レテハナラヌ、自我偈ノシマイノ方ニ毎自作
是念以何令衆生得入無上道速成就佛身ドウカシテ何ト
シタラ此ノ衆生ヲ早く成佛サセルヲガ出来ルカト、此レ
ガ佛様ノ御心配^レデコ、ニ於テ御尺迦様ノ御見ハワカ
ルダロウ 南無皈依佛ト云ヘバマチガヒナク助カルヲ
ヲ佛様ハ漁師デ衆生ガ魚デ魚ガ皈依佛ノ鈎ヲ一ト口チ吞ノ
バ自分ハ理屈モワケモワカラネド疑ヒ入レズ三皈依ノ鈎
ヲグツト吞ミサヘスレバ御尺迦様ガ鈎リ上ゲテ下サル
ノデ其ノ積リデ三皈依ヲ称ヘテ費ヒタイ

今人ヨリ佛身ニ至ル迄デ餘ノ邪魔外道等ニ皈依セザレ

【15オ】

ト仰セツレテアルガ、外ノ鈎ヲ飲デハダメダ

モ一ツ言フヲガアル、ソレハ臨終ノ^レデ今ハマー老人ガ

先キヘ死ヌモノト相場ヲキメテオイテ、凡ソ人間ガ死ヌ

ト云フ^レキノ^レヲ御説キナサレテ眼蔵ノ道心ノ卷ニコウ
此ノ鬼文ニアラス取意ナレ氏私ニ文ヲ拳タルノミ

云フテアル 云々

コノ生ヲステ、イマタノチノ生ニウマレサランソノ
アイタモツ子ニコエモマス三宝ヲトナヘタテマツラ
ントオモウヘシ七日ヲヘヌレハ中有ニテ死シテマタ
中有ノ身ヲウケテ七日アリイカニヒサシトイヘトモ
七日ヲハスキスコノトキナコトヲミキクモサワリナ
(ナの下にこの脱字)

洞門における「説戒」について

【15ウ】

キコト天眼ノコトシカ、ラントキ心ヲハケマシテ三
宝ヲトナヘタテマツリ南無皈依佛南無皈依法南無皈
皈依僧トトナヘタテマツルコトワスレスヒマナクト

ナヘタテマツルヘシ(云々)(乃至)マタコノ生ノヲハルト

キハフタツノマナコタチマチニクラクナルヘシ、ソノ

トキヲスデニ生ノヲハリトシリテハケミテ南無皈依

佛トトヘタテマツルヘシ(云云)ト

両目ニ暗ノ来ラムニハ之レコソ、此ノ吾ノ御暇乞ヒト覚悟

セネバナラヌ臨終ニ目ガ見ヘヌ様ニナルト腹ノ中ガ誠

ニ能ク見ヘル、一代五十年六十年ノ間働テ置タ善悪ガ浄

【16オ】

玻璃ノ鏡ニ写ル、其ノ中ニ心配ヲシ始メル其ノ中ニ向フ

ニ火ガ見ヘタリ又タ水ガ見ヘタリ又タ冷シト思フタリ

暖ト思フタリスル魂ガ生レルヲ四通ノ愛ニ引カレル

ト説テアル 此ノ中眼ノ暗ム中ニコソ一心ニ無南皈依^{下上}

佛(ト三皈依ヲ唱ヘネバナラヌ唱ヘ乍ラ息ヲ引キ取

ルノダ、又後生迄モ中有迄モタユマズ唱ヘヨト云フテ
(ヨは衍字か)

アル、ソレデ此ノ三皈依ハ今生モ最モ大切ナノデ

アル今日ハ之レデ置ク

【16ウ】

説戒 第三席

扱テ今日ハ三聚淨戒ト云フヲ話シマス之レハ善イヲヲ

シテ悪イコトヲ止メルコトデアル何モムツカシイコトデハ無
イガ夫レガ仲々大変ナノデ、チヨ○シタ^{ツト}悪イコト位イト思ガ
ソノ悪イコトモ八万千通りモ有ル、善ヒコト云ヘバ分ツ
タ様ニ思フガ仲々ワカラヌ

佛様ハ三祇百大劫ノ間ダ善ヲ修行セラレタ、

又タ其ノ意ヲ淨シク持ツト云コトニモ色々アル、私シノ様
ニ淨シク持ツ、又タ私シ以上ニモ淨ク持ツ、之シナコトハ何

【17オ】

ンデモ無イ羊ナモノダガ夫レガ仲々ナンデモ無ナデナ
ヒ早合点ヲシテハナラヌ、夫レデ昨日ノ三皈戒ノ話シヲ
マダ残ツテ居テハ戒法ガワカリ兼ネル

今ノ若ヒ者ガ佛様ハ木デ彫ムダモノダト云フガ甚ダ口チ
ノ悪イ話ダ或ル人ガ日蓮宗ノ御寺ヘ行テ南無妙法蓮華
聖ヲ小供ノ書ヒタ羊ナモノヲ声ヲカラシテ拝ムハ何ト
出コトダト云フタ話ヲ聞タ、若イモノガ母親ニ、ナマイキナ
コト云フニチガヒナイ、又母親ハ小兒ヲ育テルニ何ト云
テ佛様ノコトヲ教ヘルカネ、コンナコトハ年ヨリハ善クワキ
マエテ置イテ家内中ニ教ヘテヤツテモライタイ

【17ウ】

眞実ノ佛様ハ目ニモ見エズ手ニモ触レルコトハ出来ヌカ
ラ画像ヤ木像ヲ、御檀ニマツ、テ拝ムコトデアル、拝メバ画
ヤ木ヲ拝ムデ無ク眞実ノ佛様ヲ拝ム様ニナルコトデアル
皆様ノ中デ先ニ死ヌダ娘ヤ夫ノ写真ヲ佛檀ニカザツテ

アルガ、ドウダ写真ハ物ハ云ハナイケレト其ノ写真ガ親
ナレバ親ノ顔ヲ拝ムト寸分相進ガナイ様ナ心ガ起ル、又
夫ナレバ夫ヲ拝ムトチットモカワラヌ氣ニ成ル、ソレデ画
ニ書タ佛様ヲ拝ムノハ其ノ中ニ眞実ノ佛様ヲ拝ムト寸
分チガヒガ無イ羊ニナル、木像画像ハ眞実ノ佛様デハナ
ケレト先德方ガ大慈大悲ヲ以テ像ヲ写シテ末世ノ今日

【18オ】

迄ニ眞実佛様ヲ拝ム心ヲ起サセル為メデ、チヨト親ナン
ドノ写真ヲ眺メテ親ノコト等ヲ思ヒ出スコトガ生前トカワ
リガナイ氣ニナルコトデアル、木佛画像モ亦然リデコウ云
フ道理自分モ兼知シテ又タ若イ者等ニモ聞カシテ置ク
ガヨロシイ、之レモ付テ話ガアル、私ガ實際見タコトダ

(驛の誤記)

明治十三年ニ私ガ飛彈ノ国ヘキツタ、ガ一ノ宮ト云処ガ
アルガ、ソコニ国デ第一ノ宮様ガ祭アル依テ土地ノ名
前ニ成テ居ル、其処ニ盲目ノ婆々デ非常ナ信心者ガ有タ
イツモ念佛申シテ居タ、南無阿弥陀佛ト一ツテバリデ
アツタ、夫レヲ或ル若イ者ガ「ナグツテ」ヤロウト思テ鼻紙

【18ウ】

ト御名号ト換ヘテ置タ徒ラ者ガ有タト見ヘ人ガ見ニ行
クト鼻紙ヲ壁ニ張り付ケテ朝夕念佛ヲ申シテ居ル、夫レ
デ若ヒ者ガ笑フテナブテ居タ処ガイット無ク念佛ノ力
デ不思議ニモ婆々ノ眼ガ開テ眞実阿弥陀様ノ御相好御
光明ヲ放チ玉フ婆ガ鼻紙ニ現ハレタ、婆様ハ岳シサノ餘

リ若イ者ニ告ゲタ処、徒ラシタ若イ者ガ大ニ断リ云フタ
ト云フガアル、デ鼻紙カラ光明ガカミヤキ婆様ノ目ガ開
テ実ニ恐レ入テ若ヒ者等モ大変信心スル様ニ成タ

之レヲ私ガ行タ中ニ寺ノ和尚案内セラレテ拝ミニイツ
タ其ノ時分ハ未ダ私ト雲水デ四十人モツテダツテ拝ム

【19オ】

ダガ鼻紙デモ拝メバ御婆ガ現ハレル皆ナ様聞キチガヘ
テハイケマセム ソレデマシテ佛像画像ヲ拝ムダナラ
必ズ御利益ガアルニ間違ヒ無イ

私ガマダ二十四ノ時ニ小田原ノ向フニ早川ト云扁ノ海

藏寺ト云寺ニ三年程学問シテ居タフガアル、其ノ隣寺

ニ眞^言○宗ノ眞福寺ト云寺ニ御観音様ガアル此ノ観音様ハ

昔シ海カラ上ツタト云フノデ平常ハ御秘佛ニシテアルガ

其ノ中六十年目ノ開帳デアツテ誠ニ沢山ナ参詣人デ、其

ノ近クニ与吉ト云フ廿四五ノ倅ガアツタ処ガ若イ時ダ

カラ小田原通ヒヲヤツテ梅毒デ足ガ立タヌ羊ニ成ツタ

【19ウ】

両親モ困ツテ居タガ此年此石観音ノ御開帳ガ百ケ日ダ

カラ此ノ与吉ガ改悔シテ若シ百日ノ御開帳ヲ因縁トシ

テ信心シタラ御利益ガアロウモシレヌト思テ、門ノ中ヘ

小サイ小屋ヲ造テ与吉ハ鐘鼓ヲ打テ南無大悲観世音ト

唱ヘテ居タ、私モ百日ノ間ダカラ幾ベンモ参ツガ参ル毎

ニ与吉ヲ慰問シタ処ガ九十九日目ノ夜中ニ本堂ノ方カ

洞門における「説戒」について

ラ大声デ與吉ノト云フ声ガシタ処ガ驚テ立タ処ガ立テ
タ歩ケル夢デナイ、実ニ喜ンデ早速御寺ノ和尚様ヲ起シ
テ申シ上ゲタ、和尚モ驚テ御本尊ノ御利益ヲ一時頃与吉ノ
礼ヲ申上ゲテ色々スル中ニ夜ガ明ケタ、夜ガ明ケルト与

【20オ】

吉ガ皆ノ人ニ見セタ、私ハネイ海藏寺ノ門口ヲ掃除シテ

居タラ参詣人ガ与吉ノ足ガ立チマシタ観音様ノ御利益

デト云フノデ箒ヲ放テ居テ見ニイツタ処ガ与吉大変喜

ンデ足ヲタ、キテ見セタ色々与吉カラ話ヲ聞テ来タ与

吉ガ御礼ニ奉納スル額面ニ画ノ書タノヲ持テ来テ私ニ

縁起ヲ書テクレト云フタカラ其傍ヘ与吉ノ利生一代記

ヲ書キテヤツタフガアツタ

石デ造タ佛サン、海カラ上ツタ、カキガラノ付タ様サンデモ

御利益ガアル只ダノ信心ノアリナシニ依ルノデアリマ

ス、木デモ石デモ画デモ何デモ一切ノ佛像ニ向テ信心ヲ

【20ウ】

コメネバナラヌ、之レ住持ノ三宝デアル、

之レ迄デニ鼻紙ニ阿弥陀サンガ現ハレタ話ト、石ノ観音

様ノ御利益デキザクノ与吉ノ足ノ立タ話トヲ聞カセタ

之レカラハ修禪寺ノ弘法様ノ御話ヲ致サウ、修禪寺ハ高

野山ヨリ以前ニ建タ寺デ、大師ガ十八ノ御時ニアノ辺デ

修行ヲ遊バシタラ悪魔ガ退ゲタ故ニ修禪寺ヲ降魔道場

ト云フ、冬ニナルト私ハ下田ノ方ノ小浦ト云フ処ノ寺

へ行タ、其ノ寺ノ檀中ニ、伊三ト云人ノ娘が大変ナ信心デ十六カラ東京ノ或ル上流ノ家へ見習ニ行ツタ処ガ、ロクマクニ掛テ皈ツタ処、肺ケツカクニ成タ、東京中ノ医者ニ見

【21オ】

捨ラレ死ヌナラ母ノ膝元デ死タイト云フヲデアツタ、モウ最后ト云フノデ、娘ガ云フニ、モウ之レデ全快ハセヌノダカラ最后ノ御祈祷ガシテモライタヒト云フタノデ私ノ処ヘ頼ムデ来タカラ私ガ手紙ヲ書テ修禪寺ヘ御祈祷ヲスル羊ニ云フテヨコシタ、処ガ修禪寺カラ廿里モ隔テ居ルノニ大般若ノ声ガ聞コヘル響子音ガ聞ユルノデ

(誓の誤記)

皆々身ガ清メテ御佛壇ニ御灯ヲ上ゲテ読ミシタ夫レガ三朝共ニ其通りデ有ツタ三朝目ニ母ガ私ノ処ヘ来テ私ニ礼ヲ云ヒニ参タノデ色々ノ話ヲ聞タガ何時死ムデモ病人ハ大安心デ居ルトノヲデアツタガ其翌日手ヲ合シテ

【21ウ】

安心シテ息ヲ引キ取ツタ、家内中大ニ喜ムデ信心ヲスルガ夫レガマダ昨年(大正二年ノ)一月デアル、夫レダカラ画ヤ木ノ佛ハ利益ガアルノナイノト云ワハズニ又嫌信心セネバナラヌ、之レ位イ間チガヒノ無ヒ話シヲ三ツモシタノダカラ何デモ信心ヲセネバナラヌ

又昔シ支那ニハ母ノ位牌ヲ龕末シテ罰ノ当タ話ガアル之レハ名前ヲ書キ付ケタモノダカラ性ノアルモノデ無キト云フノデ、妻ガ位牌ニ性ガアルナラヤイトヲスエテ

見ヨト云フタ処ガ夫ガ止メルノモ聞キ入レズ邪見ナ妻ガヤイトヲスヘタ、処ガ位牌ハ熱イトモ何トモ云ハヌガ

【22オ】

慈雲尊者ノ法語ノ中ニ梵網經ノ父母三宝ノ名字ヲ聞カスヲ夫レテ此ノ様ナ話ハ外デハ無イ近頃邪見ナ人ガ在テ御位牌ヲ川ヘ流シタリ石埤ヲ踏ミ石ニシタリ佛壇ヲ焼イタリスル邪見ナ人ガ多ヒ之レ等ノ邪見ヲ起スモ皆眞実ノ道理ヲ恐レヌカラデアアル、之レニ付テモ

犬猫カ鼠ノ類ハ佛像各卷ニ大小便ンカケテモツ体ナト云フモ当ラヌ彼等ノ境界ニハ一向

(毀の下に釈の脱字)

三宝ハナイ物シヤ(云云)ガ御宮ノ内ニ佛法ノ物ガアルト引ズリ出シテ焼イタリト思ヒ合スベシ又タ●寺ニ神様ノ物ガアルト持チ出シタリシタヲガア

【22ウ】

ル、私ガ生レタ処ハ尾張ノ埴田付近デアアルガ埴田ノ宮様ニ染殘金泥ノ法華聖ガ在タ、又タ佛像モ坊モ在タ処ガ大薬師様ヲ引ズリ出シ割テ火ニ投ジ羊トシタ処ガ斧ヲ持タ俣デ死ンダリ又タ氣チガキニ成タリシタ、又法華聖ヲ足ニ掛ケ火ニクベタガ文字ノ処丈ケ焼ケナイ其中ノ人ハ皆埴病デ死ムダ、其ノ焼ケ餘リガ今尚ホ名古屋屋辺ニ少々餘テ宝物ニ成テ居ル其ノ時ノ大宮司ガ「オイはぎ」ニ出タヲガアル夫レガ私ノ隣寺ノ和尚ガ通ル処ヲをいは

ぎニ出^タノデ、トウく捕ハレテ見レハ大宮司デアルカラ
一周・問座敷ロウニ入レテ居キタラ切腹シテ死ムダ

(週の誤記)

【23オ】

此レ皆ナ拙僧ガ見タ話ダカラ何デモ佛様ヤ位牌ヲ粗末ニ
シテハナラヌ 昔カラ、ユ・ワシノ頭モ信心カラ夫レデ南
無皈依佛法僧スルノデアル

(イの誤記)

説戒 第四席

第一不殺生戒

殺生戒ハ慈悲ジヤ道德ノ進歩シタ中ハ人間ヲ殺サヌノミ
デナイ、鳥獸等ノ殺生モセヌ、進歩シタ道德ノ上カラ云フ
ト一切ノ生物ノ命ヲ救フト云心ガ起ルノデアル、佛様ハ
出来ヌトヲセヨトハ仰セラレヌ、戒法ニハ随方戒ト云フ

【23ウ】

トガアル人ト人トノ間ダ丈ケデモ守レバ不殺生ヲ守ル
ノデアルガ夫レ丈位イノトハ法律デ制スルカラ佛ノ御
教ヘヨカルニ及バヌト云フカモ知レマセヌガ、ソウデナ
イ夫レハ手デハ法律ガコワクテ殺サイデモ腹ノ中ノト
ハ法律力行キ届カヌ、処ガ腹ノ中ガ最も大切ナノデ形ニ
顯ハレヌ精神上ノ殺生ヲ犯シテ居ル人ガ沢山アル夫レ
ヲ固ク教ヘルノガ戒法デアル成ル丈ケ人トタトノ間ダニ
無理非道ノ無キ様ニ心掛ケルノデアル、ケレト新聞ナ
ドニハ無理非道ヤ殺生ノ記事ガ沢山出テクル又タ近頃

ノ人ハ●實際殺氣ガ満チテ居ル心得エネバナラヌ

【24オ】

皆ノ衆ハ人ト人トノ間ダニ殺生ヲスル様ナ鬼ノ様ナ人
デハ無ケレト實際ハ妙ナ処カラ如何ナル心モ起ルモノ
ダカラ二度ト起ラヌ様ニ今日限りニ封ジ込メテ置カネ
バナラヌ、何時起ルカワカラヌノガ人ノ心デアルソレヲ
決定ノ置クノデアリマス

佛様ガ八人ノ惡ヒ師匠ト云フト御説ナサレタ其中ニ
オ一番ニ殺生ヲスル者ヲ師匠トスルナト仰セラレタ殺
生ヲスル者ハ命ガ短カイ又小兒ガ無イ○又カハ病氣勝チ
デアル尺尊ハ因地ノ時カラ夫レヨクく師匠トセヌ云
云トアル、之レ等ノトヲ考ヘルト仲々殺生ハ出来ヌ又タ

【24ウ】

殺生ヲスレバ地獄ヘ落ル、地獄ト云ヘバ、出タラメヲ云フ
様ニ思フ者モアルガ、ソウデナイ實際地獄ガアルダカラ
致シ方ガナイ、又タ地獄ト云ヘバ一モ二モ無ク青鬼赤鬼
ヤ釜ヤ火ノ車ノアルモノデナイト思ウガコレモソウデ
ナイ、夫レニ付テ支那ニ葉山禪師ト云人ガ在タ或ル大
学者ガ、エライケンマクテ、佛教デ地獄ト云フガ實際火ノ
車ヤ針ノ山ガアルカト議論ヲシ掛ケタ、スルト葉山禪師
ガ申サレルニ汝ガ如キ者ガチヨザイナト仰セラレタラ
大変怒ツタ、ソコデ禪師ガ夫レ其ノ面ガ地獄ヲ造ルノダト
云ハレタ処ガ学者ガ手ヲ打テ毟ムダト云話ガアル

【25オ】

自分デ造テ自分デ乗ルコレ位間チガヒノ無ヒコハアル
マイ、乗リゾコナイノ無イ火車デチヨウド御蚕ガ自ラ糸ヲ
出シテ其ノ中へ隠居スルト同様、各々自分ノ身カラ造
テ其ノ中ニハイルノデアルソレヲヨクノ決定シテ置ク
教ヘガ佛法ダ、殺生スル者ハ絶命デ最後ハ地獄ダ、夫レヲ
ドウヲ知ルモノハ○モラヌアクセク思フテモ丸デ河向ノ火事ノ
様ニ思フニ居ルノデ誠ニナサケナイコデアル

私ガ廿位ノ時ニ今壽ノ妙應寺ト云寺ニ修行ヲシテ居タ

美濃国

コガアル、其ノ妙應寺ト云フハ昔シ妙應信女ト云婆々ガ

地獄ヘ落テ夫レガ縁起デ建立シタノデアル

【25ウ】

ソノ妙應婆様ハ天下無頼ノ根性ノ悪イ婆様テ有タガ昔
ノ代官ノオフロデアツタ、其老母ガ死デ中陰中ノコデ
アツタ大徹ト云フ大徳ガ行脚シテ其ノ家ヘ一夜ノ宿ヲカ
リニキツタ扁ガ法事中ダト云テ宿メテクレヌコデ止
ムヲ不得辻堂デ一夜ヲ明レタ処ガ辻堂ノニ夜ナカニナ
ルト火ガ現ハレテソレカラ婆々ガ現ハレタ鬼ガ出テ来タ
夫レヲ殺シタリ又タ活カシタリ○妙應ノト呼フデアラユル苦メニ遇テ居
ルマノアタリ等活地獄ヲ見タ大徹和尚ハ中坐禪ヲシテ居
タガ今ノ時ナラ三時頃ニモナツタト思フ頃ニ消ヘテシ
モウタ、スルト其ノ跡ノ草ガ焼ケテ居タノミデ何ニモナ

【26オ】

イ夜ガ曉ケテ代官ノ家ヘ御小食頂戴ニ行テ佛前位牌ヲ

見ルト妙應大姉トアツタ驚テ主人ニ前夜ノ話ヲシタ処
ガ主人ガ大ニ立腹シ、タバカルノデ有ロウ實際ナレバ一
夜ニ限ルマイ見届ケタ上デ汝ヲ所罰スルト云テ其晩ニ
大徹和尚ト代官ト兩人ガ辻堂ニ通夜シタ処ガ前晩ト同
様ノ有リ様デ代官ガソレヲ見テ大徹ノ袖ニスガツテ、頼
ムタ代官ハ腹ワタエグル思ヒヲシタ夫レカラ施餓鬼
ナンドノ法會ヲ行フテ妙應大姉ヲ救フタ 其ノ歌ニ

なき人も今葉佛尔なり尔けり

名のみ御ありてあけのしも露

【26ウ】

ト 代官ハ母ヲ救フテ下サツタノヲ此上無事御恩ト心
得テ家屋敷一切ヲ施物トシテ寄進シ寺ヲ建テ妙應寺ト
云フ名ヲ付ケタ ソノコヲ名古屋ノ華道ト云画書ガ此
ノ縁起ヲ書イタノガアル、地獄バナシハ当世ノ人ハ氣
ニ入ラヌガ實際アルノダカラ致シ方ガナイ其ノ地獄ヲ
脱シテモ次ニハ畜生ニ生レル、牛馬ニナルト重荷ヲシヨ
ワサレテ使役セラレテ、アゲクハ殺サレテ肉ヲ喰レル殺
生ハ殊ニ悪イノデアル佛様ハ実ニ此ノ殺生スル人ガ、ツ
ンノ悪道ニ落テ苦ヲ受ケルノヲ見テ修行ノ手本トナサ
レタソウデアル

【27オ】

何故ニ殺生ヲスルト絶命カト云フト、ソレハ天地間ノ道

理デアル、貴方ト私ト身モ心モ別ノ様デ有ルガ此身ハ四大ト云フテドレモくモ地水火風ノ假和合デアル水地火風ヲ除テラ此身ハ皆無デアル今ノ学問デ^原素ト云フガ色々説明スルガ要約スレバ此ノ四ツデアル天地モ四大ナリ心モカラダモ皆ナ同ジデアルノニ大小美醜色々々々デアルノハ何故カト云ヘバ虫デモ魚デモ野菜デモ一切四大ノ外ニハ無イ夫レガ造リ方ニ依テ男トモ女トモ又タ別品ニデモ、ヘチマニデモ皆出来上ツタ処ガチガフノデ品物ノ原料リヨハ同ジデアル

【27ウ】

酉としや牛也うまときかれ連者

土のばけたる伏見人形

デ一切土ノバケモノデアル、何デ此ノ通りバケルカト云ト細々人ニ依ルノデ尾張ノ瀬戸ヘ行タ何デモ比ヤ土一ツガ手加減デ大ニ違タ物ガ出来ル 此ノ手加減トハ何カト云フト心ノ持チ方身ノ振り様デアル御互心モ身モ同ジ四大デアルガ皆、別、ニ成テ出来上ツテ居ルソコデ他ノ○情ヲ殺スノハ我身ヲ割ル様ナモノデアル、ソコデ殺生シタケソレ丈ケ壽命ガチム当リマキデアル夫レヲ知ラヌカラ殺生ガ出来タモノダ拙僧ナンゾハソレヲ

【28オ】

知ツテ居ルカラドウモ殺生ガ出来ヌ、五本ノ指デモ一本折テハ外ノ指モ思フ様ニナラヌ何デモ其ノ本ヲ知レバ

(元の誤記)

無ヤシナヲハ出来ルモノデナイ、ソレニ末バカリヲ眺テ殺生ヲ犯ス其ノ本ヲ知ルヲ戒法ト云フノデ其ノ時ニ自他ノ見ヲウスラ^薄ゲルガヨイ自他ノ見ノ止ムダノガ殺生戒ジヤ夫レガ佛様ジヤ何デモ人ト人トノ間ハ勿論ノ心ノ及ブ限り手ノ尽セル丈ケ此ノ殺生戒ヲ慎ミ持ツガヨロシイ 次ニ

第二不偷盜戒

ヌストヲスルナト、是ノ如キヲ云フト馬鹿ナヲ云フ

【28ウ】

様デ尺迦之説法ノ羊ニ聞ヘルガ、大底ナ人ハ見セル^悪ルキ、見ルトホシキト腹ノ中カラ音話ヤク、ソウスルト眼ガ往生スルノデ、ヘタニスルト眼ガ悪イヲスル、他人ノ物ト云フテモ能処ノ家ノヲバカリデ無イ親ノ物デモノノ物デモ夫婦ノ中デモ兄弟デモ皆ナ此戒法ノ必用ガアル何デモ自分ノ身分相應ニ福分ガアル各々自分く生レヌ已前カラ室ツテ居ル夫レ丈ケハ自分デ使フヲガ出来ル自分ノ福ハ親デモ何デモ手ガ付ケラレヌ

佛様ハ夫婦位イ仲ノヨヒ者ハ無ケレ^仁兩人並デ寝テ居テモ仲間デ夢ヲ見ルヲ出来ヌ、又タ夫ノ病氣ニ代理ハ

【29オ】

勤マラス、ト仰セラレタ又タ妻ノ代リハ夫デ出来ヌ男ハ男女ハ女各々別々女ト女トノ中ニモ代ルヲモ出来ヌ又タ親子デモ親ガ学者デモ子ガ馬鹿モアル饅頭ヲ分ケテ

ヤル様ナ又タ酒ヲ半分ヅ、呑ム様ナ調子ニハ參ラヌ何デモ其ノ道理デ親ハ貧乏デモ娘ハ自動車デ乗りアリクノモアル、馬鹿ナ説チガフ、マダ〱隔間ノ近キノヲ云フト目

ト鼻ハト御隣ダガドチラモ代理ハ出来ヌ口チノ代リハ耳デハ出来ヌ齒ノ代ガ舌デモ出来ズ足ノ代リガ手デ出来ズ、サスレバ親ノ物トテモ子ガ自由ニハナラヌ 親ノ物ヲ子ガ使ヒタホセバ兒モ同ジク貧乏セネバナラヌ、扁ガ

【29ウ】

親ノ物●兒ガ使ヘル様ナ氣ガスル、処ガ自業自得ノ道理デソレガ出来ヌ夫婦兄弟ナレド一切皆福分ガ別々デ天地間ノ道理デアル、夫レヲ迷フテ居ツト知ラナイ故ニ出来ヌ処ニ無理ヲスル夫レガ此戒ノ罪人ダ佛ハ此ノ道理ヲ悟ラセラレ一切衆生ヲシテ富貴ニ暮サセタヒトノ御思召カラ此戒ヲ御説ナサレタノデアル

鶴ノ足デ以テカモノ足ヲ補フハ出来ヌ

御経ノ中ニ或ル人ガ○二人ノ婦ヲ畜ヘテ居タ本妻ノ云フニハ黒キ毛ハ○誠ニ見ニクイカラ抜キテクレト云フソコ
若ノト老ヒタクト
デ頭ノ○毛ヲクリ〱ニ抜カレテシモウタ処ガ○妾ノ処ヘ行タ
若イ

【30オ】

処ガ○
私ト夫婦デ居テ
ガ見ニクイト云フ
ソコデ白毛ヲ抜テクリ〱ニ成タト云フ
ヨケレバ甲ガ悪ルイ兩人各々見方ガチガウ、親ノモノヲ盗ムハ黒イ毛ヲ抜ク様ナモノデアル皆ナ無理ヲスルノデアル故ニ道理トシテ一切他人ノ物ハ如何トモナシ

難ヒ○
手造リテ無理ハ出来ヌ
之レ天地ノ理デアル白毛ヲ拔タリ黒毛ヲ拔タリ互ニ毛ノ抜合ヒヲシテ居ル無理ノ仕合ヲスルノヲ犯戒ト云ヒ迷ヒト云フノデアル 次ニハ

第三不貪姪戒

男女ノ間ノ〱ガ文明風西洋カブレト共ニ大分開ケテ来タガ甚ダ之レハ面白クナイ男女ノ道ガ乱レルト天下ガ乱レル男女ノ間ニハ大ニ道ヲ守ラネバナラヌ餘程慎マネバナラヌ、ソレデ時間無イカラ明日此〱ヲ話シマシヨウ

第五日午後

第三不貪姪戒（此時教授戒文誦誦セラル）

夫レデ大分難キスルカラ細キ話ハワヤツイテトモ出
テ
来ヌデ大躰ヲ話シテ置ノデアル、デ各自ニヨク〱思惟セネバナラヌ、第三ニハ男女ノ道ヲ清浄ニセネバナラヌ天下ノ乱レルノモ皆ナ此ノ男女ノ道カラ国ヲ失ツタ王モアル此ノ事ニ付テ佛様ハ婦人ニ七通りアル〱ヲ説

【31オ】

ニ成タガ此ノ事ハ今日話シスル時間ガナイ、又タ三トルトノ晩ニ話シヲスル〱ニシヨウ
此男女ノ道ハ男モ女モ皆ナ氣ヲ付ケネバナラヌ、佛様ハ男女共ニ七通りノ心得ヲ御説ニ成タ、女ガ此頃男ノ上ニ
男ヲ持ツ

女ヲ遊（婦シヤ）○トカ何トカ云「ガ議會ニ出タソウダガ、然ルニ男
丈ハ幾人女ヲ持テモ好イ女丈ケハ一夫ト云フノハ甚ダ
女ハ割リガ悪イ、夫レテ男モ女モ同様ニ皆々守ラネバナ
ラヌ男女相互ニ守レバ家庭ガ善良ニ治マル夫レダカラ
男モ慎マネバナラヌ

【31ウ】

之レハ云ハナイデモヨキ様ニ思ハレルダロウガ仲々ソ
ウデナイ喩ヘ百万ノ敵ニ打チ勝ツ「ハ出来テモ此ノ女
欲男欲ニハ仲々勝テナイ、古今最モ難事デ彼々皆然リデ
アル此辺ノ「ヲ微細ニ話ス」ガ出来ヌ故ヨク「思惟セネバナ
ラヌ」ソコテ高祖様ガ三輪清淨無所希望ト仰セラレ

タ三輪ハ身口意ノ三ツデ身ト口意ト此三乍ラ即チ身
心共ニ區別ナク清淨ナノデアル只「男女等ノ假ノ形ニ迷フ
ノデアル本ト」男女俱ニ無相デアル、実相デアル區別
ヲスルハ迷タ上ノ考デ且ク因縁和合ノ假リ姿ニ依テ迷フノデア
ルガ、多ノ人ガ皆其ノ假和合ノ姿ニ迷フ其ノ假形ニ迷ハ

【32オ】

ネバ佛様モ同様デアルカラ其ノ「ヲ戒文ニ希望スル所
無シト仰セラレタ眞実ノ姿ハ男女デナイ假リヲ假リト
モ知ラズニ迷フガ夫レガワカラヌ 衆生ジヤ

昔シ一茶ト云人ガ有タ坐禪モスレバ又學問モアリ道德
モ高シ智慧モアリ若イ者ヲ教育シテ居タ処ガ其門弟ノ
中ノ男女ガ、オカシイ中ニナツタ処ガ親等ガ心配シテド

洞門における「説戒」について

ウシテモ都合ヨク参ラヌニ兩人承知セヌ故一茶先生ニ
説諭ヲ願ヒニ来タ処ガ両ノ者ハ仲々聞キ入レヌトウ「
一週間教順訓シテヤツト男女共ニ得心シタ 其時ニ

人間ハ夢ト答ヘヨ 合点カ

【32ウ】

ト一茶先生ガ一句説ダ、誠ニ夢ダ好イタトカ、イヤダトカ
何ダカ都合点カ、夫レヲヨク「合点セヌト駄目ダイヤ憎
ダ」○愛ダト云テ親ヤ親類ニモ心配掛ケタガ皆心ヲシヅメテ
考ヘテ御覽若イ時ハ若イト思フテ色々ナ「ヲヤル其中
二年ヲ重テ老テシマウ、若イ時ハ夢ダト云「ニ氣ガ付カ
ヌカラ男女ノ道ガ乱ル何モムツカシイヲモウガ高ガ夢
ダ其ノ夢ガ仲々サメヌ夫コガ仲々難儀デアルガ捨テ置
ク「ハ出来ヌ三輪清ニヤラネバナラヌ男ハ男女ハ女ノ（清の下に淨の脱字）
道ヲ守ラニヤナラヌ殊ニ若イ人ニハ必用デアル

第四不妄語戒

【33オ】

此レカラ第四番目ニウソヲ云「ナト云フ戒法此ノ口チヲ
輕ンジテハナラヌ、ウソモ方便ダナンテ云フ「ハナラヌ
ウソヲ云ヘバ口チノ徳ヲ損スル之レ位イノ「ハ分ル様ナ
モノ、仲々此ノ「ガワカラムテ

此ノ辺デハドウカ知ラヌガウソバカリ云フ人ヲ千一ト
云フ千二一ツシカホンマノ「ヲ云ハヌト云ノダ全クウ
ソヲ云ヘバ口チノ徳ヲ損スル

佛様ハ御経ノ中ニ妄語ヲ犯ス者ハ身分ノ底イ者タト仰セラレタ、身分ノヒクイ者ハウソヲ云フ様ニ出来テ居ル夫レハ口チニ德ノ無イ者身ノ德ノ無イ者ガ婢賤ナ身分ニ

【33ウ】

成テ居ル身分ノヒクキ者ハ人ガ、アイテニセヌ、アナタ方ガウソヲ云ヘバ大變デアル処ガ下女下男ガ妄語シテモ罪ガ浅キ高ガ下女ノ云フコト云フテ人ガ取り上ゲヌソレデ妄語ヲスレバ反対ニ妄語ヲスレバソレ丈自分ノ身分ヲ引き下ゲルノデアル親タルモノ夫タル者妻タル者ウソヲ云ヘバ一切ノ身ニ過ガカ、ル、小僧ト私トデモソウダ小僧ガウソヲ云フテモ、アマリ大シタコハナイ私ガ一寸デモウソヲ云ヘバ大變デアル大人ガウソヲ云ヘハ其家ニハ災・難ガ掛ル村デハ村長ガ妄語スレバ村ニ災難ガ掛ル村ノ内デモ車夫ヤ紙クツ拾ヒガ妄語ヲシテモ

【34オ】

村ノ災難ニハナラヌ又タ郡デハ郡長国デハ帝王日本ノ国ハ妄語ヲセヌガ朝鮮ヤ支那ハ国王ガ始終妄語スルモノダカラ国ガ滅ビテシモウタ、ソコデ此ノ寺ニ御受戒ニ附イテ御座ル衆ハ妄語ヲシテモ良イ人ハ一人モ居ラヌ災難ハ皆ナ此ノ口チカラ出ルノデ此ノ口チヲ眞直ニスレバ瓢^單車カラ駒ガ出ル様ナアンバイニ口チカラ佛様ガ出ル一言一言ニ御尺迦様ガ御一鉢ヅ、御出マシナレバ反拘スル者ガ無キ

(災の誤記)

印度ニ央掘摩羅ト云フ盗人ガ有タ邪見ナ悪イ宗教ノ教ヲ聞テ千人ノ首ヲ数珠ニシテ首ビニ掛ケルト天国ニ生

【34ウ】

レルト教ヘラレテ毎日〳〵人ノ首ヲ取タ処ガ九百九十九人ノ首ヲ取テ第千人目ニハ満願ハ親ノ首デナケレバ願ガ成就セヌ依テ今カラ親ヲ殺スト云キニ有ル人ガ佛様ニ申シ上ゲタ処ガ佛様ガ今殺スト云フキニ央掘摩羅ノ処ヘ御越シニ成タ、彼レハ今将ニ刀ニ手ヲ掛ケ殺ソウトスル処デアルガ佛様ガ央掘摩羅ト名ヲ御呼ビニ成ルト彼レハ思ハズ刀ヲ地ニ投ジタト御経ニアル何故カト云フト佛様ハ無量永劫ガ間ダ此ノ眞語実語ノ口チノ德ガ積ツテ居ル其ノ德ニ依テ一言一句デモ善人ハ善ヲ増シ惡人^{ニハ}ガ惡ヲ止メシムル德ガ竈テ居ル一体口チ上ノ話ハコレ式デ

【35オ】

ハ無イ佛様ノ戒法ハマダ〳〵進デ高イ道ガアル 戒文ニ法輪本轉無剩無欠甘露一潤得眞得実也 ト
法華聖デモ一切藏聖モ皆又御念佛デモ陀羅尼デモ悉皆此ノ口チノ中ニアル処ガ此レガワカラヌ何故カト云フト平常此ノ口チデウソヲ云フテ居ルカラデアル口チノ德ガ円満ダト朝カラ晩迄ノ言葉ガ皆御聖ヤ陀羅尼ニ成テアルノデアルガソレヲ自ラ御聖ニソムク様ニヒテ居ル音声ヲ発スル之レガ皆実相デアル弘法大師モ声事・実相ト云フテ居ラレルソレヲ自ラ妄語デ汚シテ居ル何デモ

(字の誤記)

口チノ徳ハ染汚シテハナラヌ

【35ウ】

第五不酤酒戒

婦人ガ酒ヲ吞メバ道ヲクズス貞ヲ破ブル基トナル男ガ

酒ヲ飲メバ男ノ道ヲ乱ス理屈ヲ付テ酒ニ飲マレサヘセネ

バヨイト云フガ酔ハヌ酒ハナイ、一パイくガ本デ大變ナ

コニナル、基教デハ酒ヲ飲マヌト云ガ佛教デモ酒ヲ飲ム

ハ悪イデ成丈酒ハ飲マセヌ様ニセネバナラヌ、酒ヲ吞マ

サムト云テモ時ニ依テソウモマイラヌガソレニ付テコ

ウ云フ話ガアル、箱根ノ向カフニ「ミクリヤ」ト云処ニ庄屋殿

ガ有タ其ノ人ガ一代ノ間ダ妻ノ云フ通りニシタ妻ハ又

タイツモ半分酒ヲ飲マス用ノ無イ時ハ一本丈ケ飲マス

【36オ】

用ノアルキハ半本ト云フ羊ナ風デアンバイデ妻ノスル

通りデ有ツタ、其人ガ最后ニ今ハ死ヌト云フ場合ニ一本

飲マセロウト云フタ処ガ少々妻ガ持テ来タ夫レヲ飲デ

シマウテ 辭世ヲ書タ

一生の我が楽しみも今日限り

さらば命も今世と尔積り

トコウ云風ナ酒ノ飲ミ方デイツモナイトコ積リナラバ

宜イガ大底●ウハ行カヌ故ニ飲メバ悪イ 一轉ノ高ク

シテ申セバ人ニ惡ル智慧ヲ付ケルガ惡ヒト云フノガ此ノ

不酤酒デ此ノ迷ノ酒ヲ飲セル之レハ男ニモ女ニモアル

【36ウ】

ガ妻ガ夫ニ惡智慧ヲカフタ話シガアル

ソレハ彼ノ豊前ノ国ニ耶馬溪ト云フ処ガアル五六年前

ニ岸澤ヲ伴レテ行キマシタガ其ノ名所ノ一ツニ羅漢寺

ト云ガアル夫レ迄ニハ谷川ヲ十何ケ通ラネバナラヌ

其ノ寺ヘ二百年ヨリ前ニ參詣道ヲ（トンネル）付ケタ人ガ

アル其ノ事業ヲ果シタ人ガ越後ノ士族デ若イ時二人ヲ

殺シテ木曾ノ山奥ヘ隠レテ居タ処日暮シ或ル人家ニ一

夜ヲ乞フタ処ガ娘ガ一人有ラトウく養子ト成タ、シカル

ニ其家ハドロボウデアル、毎日山盜ニ出ルノデ或ル峠道

中ニ身分ノ善イ婦人ヲ死シ一切ノ衣類金銀ヲサラツテ

【37オ】

飯タ処ガ其ノ妻ガ大變ナ惡人デ夫ニ向テ云フニハ此レ

丈ケノ衣類ナレバ頭ノ道具モ又頭ノ毛サ善カツタデア

ラウ一切取テクレバ錢エ成ルノニ○ト云タソコデ大ニ驚

テ、コンナ女ト長クハソヘヌト大ニ悔悟シ九州ヘ下テ出

家シ件ノ事業ヲトゲ大ニ懺悔ヲシ山ノ周違ニ○五百羅漢

ヲ建立シタ、上ヘ知レテ罪モユルサレタ（云云）

此ノ妻ノ羊ニ無明ノ毒酒ヲ夫ニ飲マシテハイカヌ

故ニ戒文ニハ

未将来莫教侵正是大明也

自身ノ智慧ノ鏡ニ曇リヲ掛ケヌ様ニセネバナラヌ智慧

【37ウ】

（殺の誤記）

（罫の誤記）

ニ曇リガ掛ルト●然二人ニ毒酒ヲ酤ルノデアル、又タ御未ノ酒モ成ル丈ケ飲マヌ羊ニスルガヨイ之レガ容易ニハ改復ガ出来ヌ困ツタモノデアル御相互ニ嫌悪ヲシテ身ヲクヅサヌ羊ニセネバナラヌ

戒法之大意（登壇心得）

戒法ト云フハ別ノコトデ無イ是ハ元ト心ノコトデ平常御互ニ皆其ノ場限りノ出来心チヨド七面鳥ノ様ナ物ダガ其ノ心口ノ変ラヌ直心之レヲ本心ト云フ此ノ正直心ハ不變デ清浄デアルソレダカラ一切ノ戒ヲ犯サヌ処ガ其ノ正眞ノ心ニ染汚ガ付クト妄語ヲ犯シ瞋ヲ起シ氣チガフ

【38オ】

ニ成ル全ク狂気セネバ戒法ハ犯セヌ管ノモノデアル心ガ狂フタ中ニ殺生ヤ偷盜ヲヤル、心サヘクヅレネバ都テノ戒法ハ犯サレナイ心ガクルヘバ自分ヲホメテ他人ヲソシル又シワンボウニモ成ル心サヘ正直デアレバ自分丈ヲ大事ニシテ他人ハドウデモヨヒト云心ハ起ラヌ故ニ戒法ハ皆様ノ本心、本性、直心、眞正ナル心ノ話ヲスルノデアル、ソレデ戒法ヲ受ケルノハ邪心ヲ除キ本ノ本心性ニ立チ皈ルト云フナノデ戒法ハ自分ノ心ヲ狂ハセヌ為メ直心ニ安住スルコトノ出来ルノガ戒法デアリマス、心ヲ一ツクルワセルト直ニ地獄ヘハイルノデアリマス何

【38ウ】

デ○極楽ヘ行クニハ心ガクルウテ居テハ行カレヌ直心即

チ佛ケ心デ無ケネバ極楽参リハ出来ヌ

ソコデ戒法ハ本来自分ノ二持ツテ居テモ御●受戒デ説戒ヲ聞カヌト出テ来ナイ、チヨウド燐寸ノ中ニ火ハアルガ摺ラネバ出ヌ皆様ハチツチノ様ナ物デ七日間コウシテ摺ルトダン／＼アツク成テ来テ終ニ本性ノ火ガ出ルソコデ大分熱ウ成タカラ今晚ハ戒法ヲ授ケル授ケル中ニ私ガ南無皈依佛ト云タラ皆ナガ一置ニ南無皈依佛ト云フ此ノキハ凡夫ノ（狂気ノ）自分ノ言葉デ無イ（直心）佛様ノ御言葉デアル又タ能持否ト云フノダガ其ノキニ皆ナ一

【39オ】

処ニ直心口コメテ能ク持ツト云フ此レヲ能ク持タネバ心口ノ狂フテ居ルノダカラ地獄ヘ落ル夫レデ皆ナ様ガシツカリト能ク持ツロ云ハネバナラヌ、ソコデ十六條戒ガ充分ニ顯ハレタラ佛様ニ成ルノデアル能ク持ツト云フキノ一念ノ直心ガ佛心デ之レガ生々々々相續スルノガ佛様デアル皆ナ様ハ此レヲ時々思ヒ出シタリ忘テタリ思出シタリ忘レタリシテ思ヒ出シタキハ佛ケ心口忘レタキハ凡夫漸々忘レルキガ少クナラネバナラヌ

ソレデ今晚ハ何デモ力ヲ一パイ能持ト云フソレハ戒法ヲ能ク持チマスと云フコトデアル誓ヒデアル一ペンニ皆ナ

【39ウ】

発願シテ漸々ニ修行スルノデアルガ此ノ誓願ハ世々生々ノタカラデ此ノ身ハ焼ケバ灰デアルガ此ノ能持ト誓タ戒

法ノ徳ハ尽未^来○際失ハヌ瓔珞經ノ中ニ心無尽故戒亦無尽ト之レガ戒法ノ徳デアル法華聖ノ壽量品ノ自我得佛来所經諸劫數無量百千万億載阿僧祇等ノ常住法身モ即チ御受戒ノ大精神ヲ自我偈ニ説キ現ハシタモノデ生レテモ死ムデモ尽キナイノデアリマス之レヲ戒牒成就ト云フノデ皆様ニムツカシイ¹ハワカラムデソウ心得レバヨロシイ御受戒ノ徳ハ一ペン受クレバ死ムデモ尽キヌモノダト覺エテ置クノデスゾ

【40オ】

ソレカラ血脈ヲ受ケルノハ皆ナ様ノ腹ノ中ヘ佛様ガハイルノデアル、説戒デモソウデ一席²ノ私ノ心ガ、アナタ

方ノ腹ノ中ヘハイルノデハイルネハワカル物デナイ丸デ無線電信ノ様ナモノジャ夫レト同ジ³デ南無皈依佛能ク持ツト云フ⁴佛様ガ皆様ノ腹ノ中ヘハイル皆ナ様ノ心ハ离レ⁵デ善カツタリ惡ルカツタリスルガ受戒ノ⁶皆様ノ心ガ又タ佛様ノ腹ノ中ヘ宿ルソレ故ニ佛様ト皆様ト一枚ニナルソウ成ツテ初メテ血脈ヲ授カル戒法ガ傳ハツタト云フノデアルガ御受戒ノ傳ハツタ形チガ無イカラ紙ニ書タモノヲ授与スル夫レガ佛ノ大御心

【40ウ】

ト吾等ト万侶和尚様ハ其ノ⁷ヲ御説キナサレタ、御血脈ヲ受戒デ授カルノハ「ツギ木」ノ様ナ物デ何デモソウデ桑デモソウデアル佛様ノ桑ノ枝ヲ皆様ニツグノデアルソウ

洞門における「説戒」について

スレバ皆様カラ佛桑ノ芽ガ出ル月舟様ハコ、ノ道理ヲ生佛混然^{トシテ}無外刹那前後自^ラ円成ト御セラレタ、ソレデ皆様

ガムツカシイ¹ヲ知ラズトモ私ノ云フ通りニシテ居レバ枝ガツガレル各々自マ、ヲスレバ、ツギ木ガ損ズル御血脈ノ有リ難ヒ²ハ、三嶋在ニ西有禪師様ガ五十位ノ時ダガ如来寺ヘ戒師様ニ来ラレタ如来寺ノ檀家ニ銀藏ト云フ人ガアツタ其ノ銀藏ガ「チヨキ」ヲ患テ永ラク臥

【41オ】

テ居タ処ガ長ノ病人デ随分龜末ニアツカッタモノト見ヘ銀藏ガ愚痴ヲ云フテ娘等夫婦ニ貴様○ニ逆^ニ退セラレタノ

(虐待か?)

ハ死デモ忘レヌゾト毎日ノ様ニ云フノデドレ丈詫^ニビテモ愚痴ヲ云フテ聞キ入レヌソレカラ銀藏ガ死ンデ葬式ノ時ニ御供物ガ血ニ染マツタ不思議ダト云フノデ換ヘタガ又タ血ニ染マル何辺モ其ノ通りデ夫婦ハ心配シテ色々ト御祈禱ヤ法華ヲ勤メタガ若夫婦ハ心配シテ病氣ト成タ何トシテモ病氣ガ全快セヌ其時ニ西有禪師ガ戒師様デ来ラレテ御願ヒニ来タ禪師様ガ仰シヤルニハ汝等ヨリ懺悔スルガヨイ、爺父ニハ、オレガ詫^ニビ云フテヤルト

【41ウ】

仰セラレ因縁脈ヲ造リ手紙ヲ書イテ授ケラレ夫婦ハ戴テ血脈ト手紙ヲ墓ノ中ヘ埋メテ皈タ所ガ御供物ガマツッ^ロニ成テ居タ皆之血脈ノ功德デアル、私ガ西有禪師様ニ此¹ヲ聞タ²キニ如何ナ³ヲ手紙ニ御書キニナリマシタト

尋ネタラ若夫婦モ懺悔シタカラモウ大ガイシテ置ケト
書イテヤツタ（云云）ト 如来寺へ先年行テ其ノコト八十
餘ノ老人ニモ聞タ 御血脈モ有リガタイガ第一ニ皆様
ノ心ガ直ラネバナラヌ

夫レカラ今晩ノ御受戒ニ能ク持ツト云フキニ云フコハ
云フガ能ク持テナイガドウスル内へ皈テモ嫁ナドニソ

【42オ】

ンコデヨウ持テルダロウト云ハレタラドウスル困ルダ
ロウ、ソノコハ持ツコハ私トテモ完全ニハ持テナイガ
持テヌコヲ能持ト云フノハ^{ウソ云フデハ無イ}頓誓漸修ト云フコダ今晩受
ケテ置テ尽未来際此ノ戒ノ完全ニ持テル様ニケイコス
ルノデアル、今日受ケテ今日カラ佛ノ通りニ持テルモ
デナイ各自ノ分相應精一パイ出来ル丈ケ持ツコト随分
戒漸修ト云フ出来ナイコトヲ、佛様ニウソコ云フノデナイ
頓誓スルノデアル 譬へバ第三不貪婬戒ヲ娼妓ニデ
モ授ケル夜分持テネバ昼丈デモ持ツ此ノコトヲ佛様ニモ
問フタ人ガアルガ出来ル丈持ツコトデアル佛様ニナレバ

【42ウ】

イザ知ラス凡夫ノ身デ充分ニ持戒ガ出来ルモノデナイ
心配スルニ及バヌ故分^{相繼}出来ル丈ケ漸修スル不殺生戒
ヲ持テバ蚕ヲカフコトガ出来ヌト云タラドウスル昼ハ殺
生スル夜丈ケハ持ツ休ム間デモ持ツ、又タ蚕丈ハ止ムヲ
得ヌガ其ノ外ノ物^{ハ一切}殺生セヌ様氣ヲ付ケル、此ノ用宗へ

行クト漁師バカリダガ殺生戒ヲ保ツト喰フコトガ出来ヌ
漁師ハ海ノ殺生ハ止ム得ズルガ山ノ殺生ハ慎ム夫レ
モドウシテ^モ出来ヌト云フ止ムヲ得ヌ人ハ一ヶ月一日丈ケ
デモ一時間デモ一分間デモ持テヨト佛ケモ仰セラレタ
之レガ漸修ノ法デアル、ソレデ心配ハイラヌカラ一心ニ

【43オ】

御受ケラレテ明日カラハ慈悲心ヲ起シテ一切ノコトヲ行
フ慈悲サヘアレバ一切ノ戒法ハ破レヌ様ニダン／＼出来
テクルノデアル已上申シタコトハ大切ナコトデアルカラ能
ク兼知シテ御誓ヒヲスルノデアル其ノ頓誓スル心ハ佛
トカワラヌ心デアルカラ戒壇ノ上へ上ルボンヤリシテ
居テハダメダ佛様ト同座スル勿タイナイコトデナイカ、ソ
レハ能持ト云フソレ^ガ●御釈迦様ト一ツ心タカラ其レヲ私
等ガ拝ムノデアル誠ニ尊イコトデアル此ノ壇上ノ心ハ佛
様ト寸毫チガワヌ佛心トハ此ノ時ダト思テ吾レ乍ラ果
報者ダト喜バネバナラヌ其ノキニ私等ガ衆生佛ヲ受ク

【43ウ】

レバ即チ諸佛ノ位ニ入ル位イ大覚ニ同ウシオハル眞トニ
之レ諸佛ノミ子也ト唱ヘテ拝ムノデアル其ノ時ノ心ヲ
一生忘レナイ様ニセラル、ガヨロシイ

第六日午后説戒

第六不説過戒

偈テモウ説戒モ終リデアルカラヨク聞カネバナリマセ

ヌ昨日ハ不殺生カラ不酤酒迄五ヶ条ノ戒法今日モ之レ
 カラ五ヶ条アリマス、昨日ハ、サワガシユウテ充分ニ話ガ
 出来ナンダガ戒法ト云モノハ心ノ「クルワナイ」時ノ心ノ
 ㊦戒法ト云フノデアル、改ハイマシメル、ト云テ心ノ乱

【44オ】

レヲ、鎮ルノガ戒法デアル、本心其ノ俛ノ心ヲ戒ト云フ、戒
 ヲ破ルナト云フ㊦ハ本心ヲ失フ㊦ハナラヌト云フ㊦デ
 小供ニ邪魔サレテ肝心ノ話ヲ聞テ置ナケレバ損ダ、人間
 ガ心ノ眞直ナキハ馬鹿ナ酒ハ飲マヌソレ故ニ酒ト云フ
 ノガ乱レタ時ノ㊦デアル殊ニ酒ト云フ㊦モ窮屈ナモノ
 デハナイガ考ヘ違ヘテハナイカヌ又タ佛教者ガ殺生戒ヲ
 持テバトテ国家ノ一大事ニ戦争ガ出来ヌワケデハナイ
 又タ佛法ノ㊦ハ御聖ガ七千巻アルガ皆ナ御互ノ心ノ㊦
 ヲ説タモノデアル

オ六番目ニハ人ノ惡ヲ発キ口チニスルモノデハナイ云㊦

【44ウ】

テ論語ニモ親ハ子ノ為ニカクシ子ハ親ノ為ニカクス、(云云)
 ト其ノ中ニ自ラ眞直ナ光明カアル、夫レヲ、ヘ理屈ヲ云フ
 者モアルガソレハイカヌ、其ノ証拠ニハ悪ル口チヲ云フキ
 ニハ大キイ声デハ云ヘマセヌガ(云云)ト云デナイカ悪イ㊦
 ヲ兼知シテ居乍ラ、シヤベルノデ之レハイカヌ㊦ジャ昔
 シノ人ハ惡口ヲ注意シテ御座ル何モノトガラ、カクレ
 タトテ罪人ヲ造ルニ限ラヌノデ私ハアル新聞記者ニコ

洞門における「説戒」について

ウ云フ話ヲ聞タ、大新聞記者ニ出世シタモノハナイ(云云)
 ト新聞記者ハ悪ル口チヲ云フノガ商賈デナイガ、イヤ今
 ノ何々大臣ハ小兒ノ時ハ乞士坊主ダツタトカ何トカ、カ

【45オ】

トカ、何モ立派ナ御嫁デモ小兒ノ時ハ寝小便コイナ、ナン
 テ人ノ㊦ヲ云ヘバ誰彼レ無シニ皆ナ幾分ハアル夫レヲ
 新聞屋ハ丸デ悪ル口チヲ商賈ノ様ナ氣ニ成テ居ル、日本デ
 モ明治已来新聞記者ニ相当ノ地位ヲ得タモノハ無イ皆
 ナ悪イ㊦ダト知り乍ラ悪ル口チヲ云ノデアル又タ悪イ㊦
 ヲスル当人モ惡ヒト知り乍ラ犯スノデアリカラ夫ヲ故
 ラニ発クト云フノハ誠ニ罪ナ仕打テアル、又タ有ルキニ
 ハ裏面カラ注意ヲシテヤルノハ、慈悲ノ餘リ出ル㊦ナラ
 レサリツカヘハ無イ

【45ウ】

天ハ高ヒガ底イト云フ徳ヲ欠テ居ル、地ト萬物ヲ載ル徳
 ハアルガ高イト云徳ガ欠ケテ居ル婦人ハ男ノ徳ハ欠ケ
 テ居ル男子ハ女ノ徳ヲ欠テ居ル宗教家ハ商法ノ徳ヲ欠
 テ居ル皆様ハ家業ノ㊦ハヨク知テ居ル宗教ノ㊦ハ欠ケ
 テ居ル若キモ老モ婆様ニモ嫁様ニモ皆ナ欠点ハアルウノ
 デ特長モ亦アル夫レヲ故ラ悪ル口チ比難スルノハ罪惡デ
 アル又心ガクルウテ居ルノデアリマス
 此レ丈ケデナイ、マダ〳〵深イ〳〵意味モアルガ今ハ之レ丈
 ケニシテ、ムツカシイ㊦ハ云ハナイ

第七不自讃毀他戒

吾ノ中ハ何デモ人ヲ謗リテ自分ヲ驕ルモノデハ無い、上

【46オ】

モ下モ限りガ無い故ニ自讃毀他ハ道ニ叶ハヌ天地ノ道理ニソムク殊ニ心得ルヲ佛法信者ノ中ニ自分ノ宗旨ヲ讃メテ他宗ヲ毀ルヲ甚ダ道ニソムクノデアル、私トテモ坐禪ノ道ヲ讃メテ、キバツテ見タイガ夫レハ道デナイ其ノ辺ノヲ謹マネハナラヌ昔シ日蓮上人ハ四ヶ格言ト云フ云ハレタガ其ノ眞似シテ今日念佛無間ヲ云テ見タ処ガ外ノ宗旨ハ迷惑ダソソナ云ヒ方ナラ私共モ云ヒ方ガアル御尺迦様カラ迦葉様ト云風ニヅウト伝ハツテ来タノデ天竺カラ来タ眞実ノ宗旨デアル外ノ宗旨ハ支那ヤ日本デ開イタ宗旨デアル、ダガ高祖兼陽大師様ノ

【46ウ】

眼藏ノ弁道話ニ教ノ殊劣ヲ討論セズ又浅深ヲエラバズ只ダ〳〵修行ノ眞偽ヲ知ルベシト仰セラレタ之レハ実ニマチガイノ無い法デ只タ〳〵信心ガ邪ンデナイカ又タ日日ノ行者ハドウカヲ知ラネバナラヌ日日ノ行ヒガ眞実デ無ケネバドレ丈高尚ナ道ヲ説テモ駄目ダ草華山川ニ引カレテ佛道ニ流入スルノモ自分ノ心ガ澄ミ清キキハ山水モ草花モ皆ナ佛道ヲ明メル手本トナル佛様ハ金杖ノ如シテト仰セラレ宗旨ガ八宗有テモ十宗有テモ皆ナ金ノ杖ノ折レタ様ナモノデアルト仰セラレタ

私ハ人ニ先祖傳^来〇ノ宗旨ヲ改フル〇^ニ及バヌト云フテ進メル

【47オ】

各宗共ニ自分〳〵ノ先祖伝来ノ宗旨ヲ守ルガヨイ何モ、ナタ方ガ宗旨換ヘスル程ノ智慧ハアリヤシナイ、夫レハ宗旨ガキラキデナクシテ御寺ノ坊主ガ氣ニ入ラヌ丈ケノデアル三河尾辺デハ南無阿弥陀佛デナケニヤ助カレヌト云フテ進メル者ガアル、シ、又タ鎌倉辺デハ南無妙法蓮華經ト云フ風デアル之レモ日蓮上人ノ心ハ又タ、ワケノアルヲダガ之ハヌキニシテ、トニカク自分ノ宗旨ヲ換ヘルニハ及バヌヲ

八家九宗どれをどれ俱皆是の色

柳葉緑 花葉紅

【47ウ】

イヤ又タ春ハ櫻ト限ルト云テ威張タラ、イヤ梅香ハナイ又上ニ桜花ノ美ハナイ一切皆之レ宗旨ナノデアルソレニ自分ノ宗旨ニヒキヲスルノデアル

宗論や互尔角のはやしやい

昨年秋呉ヘ布教ニ参リマシタ処ガ安藝門人ト云フ処ダカラ参詣人ハ皆ナ眞宗ノ者バカリデ毎日〳〵質問ニクルヤラ議論ニクルヤラ誠ニサワガシイヲデ私ガナア禪宗ノ者ハ極楽往生ガサセラレヌト云フタラ極楽ヘイツテ阿弥陀様ヲ打テヤルト云フタ、何デモ自分ノ宗旨引氣ガシタイノデ色シナヲ云フテ自分ノ宗旨ヲホメル

【48才】

此ノ様ナ_レデ佛法_ヲフ_レ込_メ我慢勝他ノ見ヲ出シテ角ヲ立
 テ合フノハ悪イ、マシテ其ノ他ノ_レデ自讃毀他シテハイカ
 ヌト云フ戒デアル、夫レヲ御聖ノ中ニ法華聖ハ妙法デア
 ル経王デアルナンド云フ_レガ法花ニハ書イテアル又タ
 浄土ノ経ニハ他ノ经文ガ末世ニハ亡ビテモ此ノ聖ハ末
 世ノ一番末迄デ残ル末代相應ノ教タト書テアル、ソウ云
 フ風デ両方ガ全ク反对ニナツテ居ル又タ観音聖ヲ誦ト
 地藏様デナケレバナラヌ様ニ書テアル、ドノ御経デモ皆
 ナ此ノ通りデアルガ、コ、ガ御釋迦如来ノ腹ノ大イ処デ

【48ウ】

殊ニ有難イノデ地藏聖ヲ説ク中ニ観音デハ助カラムト
 云_フハ少シモ云フテナイ又タ弥陀聖デハ阿弥陀様ヲ讃
 歎シテ他ノ薬師様等ヲソシツテ無イ法花ニハ自我得佛
 来ト云フテ他ノ佛ヲソシツテ無イ佛様ハコウシタモノ
 デ讃歎シテ夫レデ比較シテ他ヲソシツタ御聖ハ無イ之
 レガ不自讃毀他戒デアル经文ト云フ经文ハ此ノ不自讃
 毀他デ出来上ツテ居ル各自ノ宗旨通りデ宜シイカラ他
 ナイ他ヲソシルハ私見デモ悪ルイ

第八不慳法財戒

【49才】

第八ニハ施シヲセヨ施ヲスルノガ人間ノ道デアル施サ
 ネハ世ノ中ニ生キテ居ラレナイノデアル、誰レモ皆ナ此

洞門における「説戒」について

ノ身ハ先祖ノ施シニ依テ立チ行クノデ此ノ躰ダハ親ヨ

リ全身ヲ施サレテ居ルノデ、米ヲ持テ生テタモノモナケ
 レバ小使ヒ銭ヲ持参シテ来タモノモ無イ、赤ン坊ガ親類
 カラ御布施ヲモラフヤラ面観赤カラ赤飯ヲ蒸シテモラフヤ
 ラ其ノ外一切ハ御施物ノカタマリデ此ノ全身ガ出来テ
 居ル七ツ八ツニナレバ学校デ学問ヲ施シテモラフ財モ智
 恵モ皆ナ施シノ集マツタモノデ互ニ財法ハ施シ合ヒニ
 成テ居ルノデアル、大タイ天地間ノ道理ガソウアルノデ

【49ウ】

動物ト植物ト互ニ施シ合フノデ、タンソトチツソト互ニ
 施シ合ハナケレバ両方ガタチ行カヌ ソコデ

凡ソ人間トシテ施シヲ受ケヌト云フ_レハ出来ヌ故ニ施
 モ亦必ズセネバナラヌ、オシムモノデハナイ、又タ施ヲシ
 タ位イ氣持ノ好イ_レハ無イ実ニ喜バシイモノデアル

人力引キニ五錢ヤ三錢コギル先生ガ酒ツギ女位ニ五十

錢モ一円モヤル馬鹿者モアル、何モ人力車夫位イニハ云フ通

リ与ヘテヨイト思フ（若シオシケレバ乗ラズニ置ケバヨイ
若シ偽リテ沢山取レバ御本人ガソ
車夫）

レ丈徳ヲ損ズル迄デダ私ハ何デモコギラナイ、コンナ_レ
 位イハ心ノ持チ様デヨク出来ル

【50才】

私ノ親戚ノ者ニ少々食ヒ物ヲ持ツテ居ル者ガアルノデ
 私ガ進メテ施シヲ致サセ、年末ニ餅米ノ無イ様ナ者ニ五
 兩デモ三兩デモ施スガヨヒト云フテ聞シテカラ始メ頃

ハ○内ガブンく云フテ私ヲ不足ニ思フ様ナ向キガ有タソ
 ウダガ二年三年モ実行シテ見テモ何ニモ年末ニ不自由
 ガナイ今デハ夫レヲセネバ家中内氣持ガ悪い位デアル
 ト云フテ居ル、何モ村内ニ貧民ガ有ルト云テ郡役所ヤ縣
 廳ノ厄介ニナラナクツテモ、米ノ五表ヤ十表少ニ有ル者
 デ○何デモナイ年首ニ一パイ飲ミ過ギタト思ヘバ何ノ一
 ハ無い酒位イ飲ムタ所デ誰一人喜ブモノハナイ迷惑ス

【50ウ】

ル者コソアレ誰レモホメヤシナイ、夫レヨリハ年越米ノ
 五舛モ貧乏人ニ施シテ御覽ナサイ、影ガカラ拝ガムデ居
 ル長生キシタ所デ七十カ八十ダモノ夫レニコンナモノ
 (肉躰ノ一)ヲ可愛ガツタ所デ何ニモナラス、利害得失ヨ
 クく弁別スレバ施シセズニハ居ラレナイ筈ノモノダ
 仁徳天皇様モ三年間モ人民ニ御布施遊バシタガ 仁徳
 天皇ニハ及バズトモセメテハ各々デ出来ル丈ケハ人ニ
 施シタイト思フテ施シラスルノガ、之レガ大和魂ト云フ
 モノデアリマス

第九不瞋恚戒

【51オ】

此レカラ腹ヲ立テルナト云フデ、私ハ小児ノ性大變ナ「カ
 シンシヤク」持チテ、赤ン坊ノ時分ニデモ手足ヨビリくフル
 ウテナイタゾウデ、母親ガ私ノカンシヤクヲ大變心配シ
 テ直ル様ニト云フノデ魚肉ヲ斷ツテ佛様ニ頼ムデ下サレ

(儀の誤記)

タソウデ、夫レガ為メニ母ハ非常ニ苦勞ヲシテ、私ガセツ
 ノ時母ガ死ナレタ母ノ遺言デ彼レハ、カンシヤク持チ故
 唯ダデハスマヌ故ニ出家サセテクレト夫レテ出家スル
 ニ成タ、親ト云フモノハ夫レ位イ私ノ心ノ一カラ成リ行
 キ迄デ心配シテ下サウタ、其ノ一ヲ娣ナンドニ聞テ見ル
 ト、ドウモカンシヤクハ起サレヌ様ニ成テシマウタ

【51ウ】

カ●ンシヤクヲ起セバ、家中中デモ敵ノ様ニ成テシマウ
 故腹ヲ立テ、ハ悪い、一体腹ヲ立テルト云フハ皆ナ自分
 カラ拵ヘルノデ考ヘテ御覽向フカラ起サセルノデハナ
 イ、私ガ、カンスジヲ立テル物ダカラ向フモ又タ立テルノ
 デ、十ノ中九ツ迄ハコチラガ立テサセルノデアリマス、此
 ノ一ハ 候語ニ

ツントスネレバ、スネツテカヘス泣モ笑フモ吾レ次
 第、(マコト)ホンニオマイハ鏡ノ影ヨ

犬ガ川ノ中ニ犬ガ居ルト居テ橋ノ上デワンく云テ居ル
 処ガ腹ヲ立テルキハ大底ハカンナモノデス

【52オ】

圣中ニ万法過ナシトアル、何モ泣モ笑モ吾レ次第デマチ
 ガイノ無い話デアル、唯ダ心口ノ持チ様次第デアルカラ向
 フガ悪いノデハナイ、此ノ道理ヲ悟ラネバナリマセヌ
 此ノ不瞋恚戒ハ近クハ自分ノ身ヲ守護シ、又タ家和合ス
 ル戒法デアルカラ、ニコく笑テ暮サネバナラス

西有禪師様ハ家内安全ノ妙陀羅尼ト云テ

オンニコく腹ヲ立チマイゾヤソワカ ト仰セラレ
タヲガアル、歴史ヤ其外カ甚深ナ道理モ沢山話シタイガ
マア之レヲオク、

第十不謗三寶戒

【52ウ】

御受戒ニ付テ御座ル各々デ三宝ヲソシル方ハアルマイ
之レモ深い意味ヤ話スハ沢山アルガ、之レテ止メマシ
ヤウ

以上説戒十六條終リ

大正三年四月七日朝課罷満戒之日

受戒功德ニ付テ

扱テドナタモ御受戒ハ之レデ満足致シマシタ道ノ悪イ
ノニ御皈リニ成ルノハ氣ノ毒デアリマスガ、ドウ○シヨウ
ガアリマセヌ、今日ニ成テ御話シスルモ無イ様ナモノ
ダガ御受戒ノ功德ニ付テ少シ斗リ御話シマス

【53オ】

御尺迦様ノ御在世ニ酔婆・門ト云フガ有タグ有ルハ大変（婆の下に羅の脱字）
酒ニ酔テ佛様ノ処ヘ来テ出家サセテクレト云フタ、ソコ
デ佛様ガ阿難ニ命シテ剃髮シ戒ヲ授ケテ袈裟ヲ掛サセタ
処ガ舍利弗ヤ阿難尊者ハ此婆羅門ヲ頭ヲナグラレタ
ガアルグライデ誠ニ邪見ナ者デアルソコデ舍利弗ガ室
ニ入テ觀ジテ見ルト万年億年ノ末ニモ出家スル因縁ガ

洞門における「説戒」について

ナイ前ニモナイ故ニ佛様ニ何故是者ヲ出家ヲ御容シ

ニ成タカト問テ見ルト此ノ者ハ出家ノ因縁ガ無い今マ
酒ニ酔テ微心ヲ起シタ、一ペンコウシテ置ケバ之レガ因
縁ニ成テ後ニハ出家シ又タ解脱ノキモアル（云云）ト仰セ

【53ウ】

ラレタ、酔婆羅門ハ酒ニ酔タマギレニ得度ヲシタガ醉ガ
サメタラ頭ガ剃テアル又タ袈裟ヲ掛テ居ル、ソレデ驚テ
ゲテシマウタ、酒ノ勢ヒデ一寸ト頭ヲ剃テモ此ノ通り有
リ難ヒ因縁トナル、マシテ此ノ通り信心ヲ起シテ受戒シ
タナラバ此ノ功德ハ未来際尽キヌノデ○此ノ後チハ掃除
ガ肝心デ朝モ晩モ念ヲ入レテ掃除セネバナラヌ、私トテ
モ掃除ヲ怠タレバ塵ガタマル、然ラバドウシテ拂フカト
云ヘバ朝夕佛前デ礼拝スル、其ノ拝ミ方ハ我昔所造ヲ唱
ヘル皈依佛皈依法ナンド称ヘテ充分掃除スルノデアリマ
ス、之レカラ内ヘ皈依バ直ニ手ニモ足ニモ目ニモ塵ガ付
（家の誤記か？）

【54オ】

クノデ懺悔文三皈ノ文ヲ唱ヘルノガ清浄ニスルノデ
清浄ナノガ御受戒ノ精神デ之ノ清浄ヲ日日掃除シテ保
護セネバナラヌ其ノ清浄ナ手足ヲ●テ終日治生産業ノ
修行ヲスル、ソウシテ夜モ亦懺悔三皈ヲ唱ヘル、又タ床ニ
就クニモ懺悔三皈ヲ唱ヘルソウスレバ悪い夢ヲ見ヌ其
ノ筈デ清浄ノ佛様トカハラヌ身ニ成テ卧ル、朝モ亦其ノ
通り毎日くコウ云風ニヤツテ居レバ、イツ何時無常ノ風

ガ吹テモサシツカヘハ無イ、法然上人ハ「南無阿弥ト十声
唱ヘテマドロマム永キネムリトナリモコススレ」ト仰セ
ラレタ之レガ僧那法ト云フノデ之レハ着鎧法デ何時如

【54ウ】

何ナル非常ガ有テモ大丈夫ナ鎧ヲ著ル様ナモノデ大切
ナヲデアル、此ノ掃除法ヲ油断ナク忘レテハナリマセヌ
雑喩譬聖ノ中ニ先帝ヲ殺シテ王位ニ就タ人ガ有タ、有ル
羅漢様が定力ヲ以テ見玉フニ王ハ二週間ニ死シテ地獄
ヘ落ルヲ知レタ、依テ王ノ之ニ別テ其ノヲ申シ上ゲ
南無佛ヲ唱サセ玉ヘト進メタ、所ガ王ハ其ノ通り昼夜三
飯ヲ唱ヘテ二週間ノ後命終レタソウシテ閻魔様ノ所ヘ
別テ三飯文ヲ唱ヘタ、所ガ自分モ亦地獄ノ罪人モ皆ナ地
獄ノ苦ヲノガレテ天上界ニ生レタト云フガアル、之レ皆
ナ三飯戒ノ尊重ナ所以デアリマス飯依三宝ノ中ニ一切

【55オ】

ノ三宝ガ籠ツテ居ルノデ、之レヨリ廣大ナヲハアリマセ
ヌ、佛様が出世遊バシタ御本懷ハ三飯文ヲ称ヘ○セル^サ為メ
デアリマス善シモ惡シモ一切処一切処三飯ノ一テンバリ
デヨロシイ、如何ナル災難ガ来テモ又タドンナ幸福ガ来
テモ一チバン終リハ死ヌノデアリマス、何モ小サイ心ヲ以
テ居テハイカヌ受戒ハ今ノ身デ今世後^世○ヲ安全ニスル道
デアルカラ心ヲ清ク家業ヲ励ムガ宜シイ親ニモ君ニモ
夫ニモ妻ニモ朋友ニモ忤バセル道ノアルノガ三宝ニ御

恩感謝デアリマス 此ノ道理ヲ 高祖ハ

日日ノ生命ヲ等閑ニ費ヤサ●ラムト行持スル也

【55ウ】

ト仰セラレタ世ノ為メニ人ノ為メニ○思^トサ^ヒヤルト仲々惡
イヲハ出来ヌ心ロノ持チ様一ツテ其日ノ同シヲ仕
乍ラ清浄ガ持テル、夫レガ御恩感謝ノ道デアル
何デ○皆^モナ様ガ家ヘ飯テ御受戒ノ功德ヲ顕ハシテモラハ
ナイト外ノ人ガ受戒ノ惡ルクチヲ云ヒマス、充分心得テ
油断ナク御受戒ノ光明ヲカ、ヤカシテモライタイ

大正三年十一月廿三日夕再校畧終 蘆垣閑人

【56オ】

【跋文】

以上ハ駿河国安養寺四衆尸羅会中
予椅子下ニ筆記セシモノナルモ何ト云
七百ノ戒弟ニテ轟々喧々人影暗キ
処ニテ困難云ハム方ナシ又タ間々所
用ノ為メ他人ニ呼バレテ用ヲ終テ推
測ヲ加フルアリ是多予ノ腦裏ニ
映スル取意ニ過ギス包璧ニ非也自ラ

恐レトスル処也唯ダ 丘老漢ノ大鐵

【56ウ】

漢ニシテ在家老若ニ対スルモ如上

ノ如キ飴ノ如クニ甘キ寧々恠トスル

所ニ若シ迫ン人一人デモ戒光信

受ノ助縁トモナラムカ依テ御前事

ヲ顧ミズ改写シテ冊トナス者

也矣

于時大正三年十月卅日夜

永平遠孫興道和南

研究業績 (2019年1月～12月)

浅原正和

〈論文〉

Dental integration and modularity in pinnipeds. (共)	<i>Scientific Reports</i> 9	3月	4186 (オンライン)
Dietary transition in the <i>Nyctereutes sinensis</i> and <i>Nyctereutes procyonoides</i> lineage during the Pleistocene. (共)	<i>Acta Zoologica</i> 100	3月	216-217

〈学会発表〉

戦前日本に輸入されたカモノハシ標本：動物標本社・島津製作所・山越工作所のカモノハシたち (単)	生き物文化誌学会 第17回学術大会 (東京農業大学厚木キャンパス)	6月	口頭発表
Investigation of dental evolution using combined analysis of comparative morphology and molecular evolution. (共)	12 th International Congress of Vertebrate Morphology (ICVM-2019) (Grandior Hotel・ブラハ・チェコ)	7月	ポスター発表
化石タヌキの食性推定：臼歯形態から予測されるタヌキ (<i>Nyctereutes</i>) 属の食性の変遷 (単)	日本哺乳類学会2019年度大会 (中央大学後楽園キャンパス)	9月	ポスター発表
博物館標本を利用した比較形態学とゲノムデータを利用した分子進化の解析を併用した形態進化の研究—食肉目哺乳類の臼歯形態と食性適応— (自由集会：郡司芽久, 浅原正和, 遠藤秀紀「かたちの学校16」内にて) (単)	日本哺乳類学会2019年度大会 (中央大学後楽園キャンパス)	9月	シンポジウム企画・口頭発表
Building natural history collections as a by-product of educational activities in the university. 大学での教育活動の副産物として自然史標本のコレクションを構築する (単)	Network of Natural History Museums as a tool for promoting research, collection building, education and outreach: Case Studies from Asian Regions. (京都大学総合博物館)	9月	ポスター発表

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

名古屋に自然史博物館を (単)	中日新聞・東海三県版 (寄稿)	2月	2月1日夕刊
日本進化学会研究奨励賞受賞	日本進化学会	8月	

石川雅健

〈論文〉

教師と臨床心理士の協働による学校危機対応の実際と必要な備えの検討 (共)	心理臨床学研究 37巻1号	4月	5-15
--------------------------------------	---------------	----	------

糸井川修

〈論文〉

『人類の崇高な思想』—世界大戦の回避に向けたベルタ・フォン・ズットナーの呼びかけ 日本独文学会東海支部『ドイツ文学研究』 10月 27-40
第51号

内田康弘

〈著書〉

教育原理（共） 七猫社 8月 105-107,
148-149

〈論文〉

なぜ通信制高校は増えたのか：後期中等教育 『教育社会学研究』 第105集 12月 5-26
変容の一断面（共）

高校教育研究の展開：学校格差構造から多様 『教育社会学研究』 第105集 12月 139-168
なりアリティへ（共）

大松久規

〈論文〉

『釈禅波羅蜜次第法門』所説の禅観—『法界 『東海仏教』 第64輯 3月 63-77
次第初門』との比較—（単）

智顗前期時代の講説について—『釈禅波羅蜜 『曹洞宗総合研究センター学術大会紀要』 3月 79-84
次第法門』を中心として—（単） 第20回

『禅門口訣』に見られる禅観（単） 『印度学仏教学研究』 第68巻第1号 12月 214-218

〈学会発表〉

『禅門口訣』に見られる禅観（単） 日本印度学仏教学会第70回学術大会 9月 口頭発表
（佛教大学）

中国天台における「業」—智顗の禅観を中心 曹洞宗総合研究センター第21回学術大会 11月 口頭発表
に—（単）（曹洞宗檀信徒会館）

宝地房証真の『摩訶止観』理解（単） 「天台から比叡」国際会議 12月 口頭発表
（北京大学）

〈その他〉（翻訳・資料・その他）

凡夫を救う実践行動哲学としての『摩訶止 宗教哲学フォーラム No. 8 3月 講演
観』（単） 東西伝統思想の伝統と現在 I（上智大学）

岡島秀隆

〈論文〉

西洋哲学と『正法眼蔵』（単） 『大法輪』 第86巻第10号 10月

〈その他〉（翻訳・資料・その他）

現代と禅仏教の対話 上・下（単） 『中日新聞』 人生のページ 11月26日、
（『東京新聞』生きる） 12月3日、
12月1日、
12月8日）

川口勇作

〈論文〉

Written languaging with indirect feedback in writing revision: is feedback always effective? (共) *Language Awareness*, 28 3月 1-14

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈ワークショップ〉外国語教育研究における R を用いた統計処理入門 (単) FLEAT VII 8月

来住準一

〈著書〉

最新歯科衛生士教本用語集 ポケット版(共) 医歯薬出版 3月

小柳竜太

〈論文〉

A study of rugby punts in Japan's top level league: Case studies of winning teams (単) *Football Science* Vol. 16 1月 10-15

2017年ワールドラグビー世界的試験実施ルールの検証 (共) ラグビー科学研究 第30巻1号 3月 10-17

〈学会発表〉

ボール運動のミニ・ゲーム化が運動強度に与える影響について 競技人数の違いに着目して (共) 日本体育学会第70回大会 (慶應義塾大学) 9月 ポスター発表

A Study on Game Analysis of Tag Rugby—Focus on the features of the try scene— (共) Asia-Pacific Conference on Performance Analysis in Sports 2019 10月 ポスター発表

Effect of the Law Revision on Scrum Tactics in Rugby Union—Comparison of the top 3 teams and the bottom 3 teams in Six Nations Championship (共) Asia-Pacific Conference on Performance Analysis in Sports 2019 10月 ポスター発表

近藤 浩

〈論文〉

Hard Times における reasoning animals について (単) 『愛知学院大学教養部紀要』第66巻第2・3合併号 3月 1-11

柴田哲雄

〈著書〉

汪兆銘と胡耀邦—民主化を求めた中国指導者の悲劇 (単) 彩流社 10月 全254頁

〈論文〉

汪兆銘伝のための覚書き (単) 『愛知学院大学教養部紀要』第66巻第2・3合併号 3月 13-63

〈学会発表〉				
台頭する中国とドイツ・日本との比較（単）	中国現代史研究会東海例会 (愛知大学)	10月	口頭発表	
〈その他〉（翻訳・資料・その他）				
〈コラム〉 汪兆銘と胡耀邦を上梓	『中部経済新聞』10月4日付	10月	第8面	
〈評論〉 移民の解禁と満州国の「民族協和」 —「多民族」的ネーションの統合の核となる 理念が必要だ	『論座』（朝日新聞社） https://webronza.asahi.com/	1月	Web版	
〈評論〉 新疆ウイグル自治区を『収容所群 島』に変えた能吏—陳全国の人物像に迫る	『論座』（朝日新聞社） https://webronza.asahi.com/	6月	Web版	
〈評論〉 バルカン同盟の歴史から日韓関係を 考える	『論座』（朝日新聞社） https://webronza.asahi.com/	9月	Web版	
〈評論〉 「表現の不自由展」騒動と「風流夢 譚」事件	『論座』（朝日新聞社） https://webronza.asahi.com/	11月	Web版	

城 貞晴

〈学会発表〉				
PVT-DA 結晶の主鎖繊維軸形成条件と表面形 態（単）	第68回高分子学会年次大会 (大阪)	5月		

菅原研州

〈論文〉				
有安道人『弾僧侶妻帯論』と有安老人『対客 一話』について—付録『対客一話』翻刻資料 —（単）	『愛知学院大学教養部紀要』第66巻第2・ 3合併号	3月	114-132	
萬光道輝の研究（単）	『愛知学院大学禅研究所紀要』第47号	3月	85-111	
『永平広録』と道元禪師成仏論（単）	『曹洞宗総合研究センター学術大会紀要』 第20回	3月	1-6	
〈学会発表〉				
大内青巒居士の戒思想	東海印度学仏教学会第65回学術大会 (同朋大学)	7月	口頭発表	
金子白夢牧師の女性観	日本宗教学会第78回学術大会 (帝京科学大学)	9月	口頭発表	
近世洞門における僧侶教育について	日本仏教教育学会第29回学術大会 (大正大学)	10月	口頭発表	
道元禪師の初期思想の形成について	曹洞宗総合研究センター第21回学術大会 (曹洞宗檀信徒会館)	11月	口頭発表	
永平道元における師弟関係の諸相	比較思想学会東海地区令和元年度第2回研 究例会 (愛知学院大学)	12月	口頭発表	
〈その他〉（翻訳・資料・その他）				
〈投稿〉 高祖降誕会について	『禅の友』832号	1月		
〈講演〉 禅・実践《今に生きる》	愛知県安城市生涯学習講座「三河創年塾」	2月		

〈投稿〉面山瑞方禅師の遺偈について	永福面山和尚鑽仰会『永福会報』平成31年度	3月
〈講演〉曹洞宗の尊宿喪儀法について	曹洞宗熊本県宗務所青年会平成31年度合同研修会	4月
〈投稿〉《徹底比較》曹洞宗と臨済宗	『大法輪』第86巻第5号	5月
〈講演〉東海道と仏教について	愛知県知立市生涯学習講座	6月
〈講演〉石川素童禅師の授戒会	鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム「石川素童禅師のご生涯とご功績一百回御遠忌にちなんで」	6月
〈講演〉「仏祖正伝菩薩戒」を学ぶ（二）	曹洞宗群馬県宗務所現職研修会	6月
〈講演〉道元禅師を慕う瑩山禅師について	曹洞宗有道会東北地区大会研修会	7月
〈講演〉曹洞宗の授戒会作法について	曹洞宗北アメリカ国際布教総監部現職研修会	9月
〈講演〉曹洞宗侶に求められるネットリテラシー	曹洞宗秋田県宗務所現職研修会	9月
〈講演〉曹洞宗の「授戒会」について	大本山永平寺名古屋別院「法話の会」	9月
〈投稿〉『正法眼蔵』現代語訳本ガイド	『大法輪』第86巻第10号	10月
〈投稿〉總持寺中興石川禅師の遺徳を偲ぶ②	『中外日報』第28523号	10月
〈講演〉大本山總持寺独住第4世中興・石川素童禅師の御生涯	曹洞宗總和会東北地区大会研修会	10月
〈講演〉『学道用心集』で説かれた教えについて	曹洞宗布教師養成所特別講義	10月
〈講演〉名古屋の仏教について	やっとかめ文化祭2019「まちなか寺子屋」	11月
〈投稿〉釈尊成道会について	『禅の友』844号	12月

杉浦克哉

〈論文〉 A Generative Analysis of Reduced Relative Clauses in English（単）	JELS 36	3月	288-294
過去分詞縮約関係節に関する一考察（単）	コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論 2	11月	146-164
〈学会発表〉 英語史における動名詞・分詞の構造変化について（単）	語学研究所研究発表（愛知学院大学）	11月	口頭発表
〈その他〉（翻訳・資料・その他） 〈書評〉Jun Abe: <i>A Movement Theory of Anaphora</i> （単）	IVY 52	11月	51-56

塚本早織

〈論文〉

Faces tell everything in a just and biologically determined world: Lay theories behind face reading (共)	<i>Social Psychological and Personality Science</i> , 10 (1)	1 月	62-72
---	--	-----	-------

〈学会発表〉

寛容さを予測する文化社会的要因と認知的完結欲求 (共)	日本社会心理学会第60回大会 (立正大学)	11 月	ポスター発表
Evidence for a general tendency to make extreme face-based judgments across traits (共)	International Convention of Psychological Science, Paris, France.	3 月	poster session

富田啓介

〈論文〉

東谷山周辺における過去400年の環境史：資料および聞き取りから (単)	東谷山湿地研究会編『名古屋市東谷山湿地ボーリング調査報告書』	1 月	58-71
都市化の中のため池：尾張丘陵138池を取り巻く土地利用の約40年間の変化 (単)	『ため池の自然』第60号	12 月	17-20

〈学会発表〉

鉱質土壌湿原が形成される環境の多様性と共通性 (単)	第66回日本生態学会大会 (神戸国際会議場)	3 月	ポスター発表
天然記念物の湿原とその保全 (共)	第11回日本湿地学会大会 (習志野市谷津干潟自然観察センター)	9 月	口頭発表
東海地方の湧水湿地を取り巻く社会環境 (単)	第11回日本湿地学会大会 (習志野市谷津干潟自然観察センター)	9 月	口頭発表

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈調査報告書〉『東海地方の湧水湿地 1643箇所 の踏査から見えるもの』(共)	豊田市自然観察の森	9 月	
〈講演〉日本の湧水湿地の中の八竜湿地～立地環境の視点から～	水源の森と八竜湿地勉強会 (金城学院大学)	2 月	
〈講座〉自然を感じ、知ることの大切さ：東海地方の里地・里山を例に	2019年度東海シニア自然大学入学式講演 (名古屋港湾会館)	4 月	
〈講演〉板山高根湿地はどんな湿地？～知多の湧水湿地とその保全～	阿久比町湿地講演会 (阿久比町中央公民館)	6 月	
〈講座〉湧水湿地を蘇らせるには：考え方と実践例	宝が池連続学習会2019 (京都市宝ヶ池公園)	6 月	
〈講座〉矢並湿地の成り立ちと概要	豊田市史講座 (豊田市史編纂室)	6 月	
〈講演〉人が森を変えてきた!? 里地・里山としての知多半島	知多市立中央図書館郷土講座 (知多市立中央図書館)	9 月	
〈講演〉東海地方における湧水湿地インベントリの作成～1643か所の分布と環境の多様性～	2019年湿地保全講演会 (豊田市自然観察の森)	9 月	

〈講演〉日本の湧水湿地、知多半島の湧水湿地	2019年半田市文化財よもやま話 (半田市立図書館)	10月
〈講演〉湧水湿地の成り立ちと大切さを知ろう！	あいち自然再生カレッジ2019 (豊田市自然観察の森)	11月
〈サイエンスカフェ〉里山の湿地 湧水湿地の知られざる世界	第40回生物多様性カフェ (なごや生物多様性センター)	12月

中村 綾

〈その他〉(翻訳・資料・その他)			
〈講演〉「江戸時代の翻案作品と類書の利用」	東洋文化研究会 (新日本法規出版(株) 本社別館・名古屋支社)	7月	口頭発表

西谷茉莉子

〈著書〉 『比較文化から観るグローバリゼーション』 (共) 丸山良雄 他編	英光社	9月	77-91
〈学会発表〉 John Montague の初期作品を読む： <i>Forms of Exile</i> (1958) と <i>Poisoned Lands</i> (1961) を中心に (単)	日本アイルランド協会 文学研究会例会 (青山学院大学)	2月	口頭発表
John Montague in the 1950s: His Apprenticeship and the Legacy of Yeats	Irish Literature in the British Context, Kyoto Humanities Conference (京都大学)	3月	シンポジウム、口頭発表
ジョン・モンタギューがアルスター詩の伝統創造に必要としたものー“Global Regionalist”としての試み	2019年度 第27回アイルランド研究年次大会 (沖縄工業高等専門学校)	12月	シンポジウム、口頭発表
〈その他〉(翻訳・資料・その他)			
〈会報〉ジョン・モンタギューの初期作品を読む： <i>Forms of Exile</i> (1958) と <i>Poisoned Lands</i> (1961) を中心に	『日本アイルランド協会会報』第103号	6月	1

野田大志

〈著書〉 『認知言語学を紡ぐ』(共)	くろしお出版	10月	137-158
『多義動詞分析の新展開と日本語教育への応用』(共)	開拓社	11月	68-84
〈論文〉 多義動詞の語義認定と構文的意味をめぐって (単)	『日本認知言語学会論文集』第19巻	4月	531-536
〈その他〉(翻訳・資料・その他)			
〈書評〉表現研究関連文献紹介：『認知言語学とは何か？ーあの先生に聞いてみよう』(単)	『表現研究』第110号	10月	75

〈辞書〉「おさめる」(単)	『基本動詞ハンドブック』(国立国語研究所) https://verbhandbook.ninjal.ac.jp/	3月	Web版
〈辞書〉「おさまる」(単)	『基本動詞ハンドブック』(国立国語研究所) https://verbhandbook.ninjal.ac.jp/	3月	Web版

藤田淳志

〈学会発表〉 「ミュージカル作品の寿命—— <i>The Book of Mormon</i> と <i>Avenue Q</i> 」	アメリカ演劇学会 第9回大会 シンポジウム「21世紀ミュージカルにおける生 (life)」(クロスウェーブ梅田)	8月	
--	---	----	--

溝口 明

〈論文〉 Functional characterization of insect-specific RabX6 of <i>Bombyx mori</i> . (共)	<i>Histochemistry and Cell Biology</i> , 151	2月	187–198
<i>Bombyxin</i> (<i>Bombyx</i> insulin-like peptide) increases the respiration rate through facilitation of carbohydrate catabolism in <i>Bombyx mori</i> . (共)	<i>Frontiers in Endocrinology</i> , 10	3月	150 open access
An insulin-like growth factor-like peptide promotes ovarian development in the silkworm <i>Bombyx mori</i> . (共)	<i>Scientific Reports</i> , 5	12月	18446 open access

山口拓史

〈著書〉 ハンディ教育六法2019年版 (共)	北樹出版	4月	261–366
〈論文〉 大学アーカイブズの「波動」(単)	日本教育学会『教育学研究』86巻1号	3月	41–51
教職科目におけるテキスト指定に関する考察——「反転学習」効果を高めるために——(単)	『愛知学院大学教職支援センター年報』1号	6月	29–42
教職課程を履修する大学3年生の進路希望に関する一考察—教育実習ガイダンス進路希望アンケートを手掛かりに—(共)	『愛知学院大学教職支援センター年報』1号	6月	43–52
〈学会発表〉 教職課程履修学生の進路希望に関する一考察(共)	第22回日本高等教育学会(金沢大学)	6月	口頭発表

山口 均

〈学会発表〉 わたしが・棄てた・女—『夜の森』とエリオット (単)	日本 T. S. エリオット協会第32回大会(椋山女学園大学)	11月	口頭発表
〈その他〉(翻訳・資料・その他) 〈書評〉『荒地』への道—熊谷治子『音楽と絵画で読む T. S. エリオット』(単)	<i>T. S. Eliot Review</i> , No. 30	11月	64–76

山名賢治

〈著書〉

You can realize that “Science” is useful!
Chemical Magic Demonstrations (共) 愛知教育大学出版 3 月
ISBN 978-4-903389-78-3

〈論文〉

Synthesis of polycyclic phosphonates via an
intramolecular Diels-Alder reaction of
2-benzoylbenzaldehyde and alkenyl phosphites
(共) *Heterocyclic communications*, 5 月 73–77
25

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈講演〉科学的な考え方を学びながら楽しむ 名古屋市西生涯学習センター 7 月
化学(科学) 実験教室 後援：日本理科教育学会、日本化学会、愛
知県教育委員会

吉村正宏

〈著書〉

Catalytic, Enantioselective, Transfer
Hydrogenation (共) *Organic Reactions*; Wiley: New York; Vol. 100 12月 329–382

〈その他〉(翻訳・資料・その他)

〈辞書〉「 RhC_4P_2 、 $\text{RuC}_6\text{N}_2\text{Cl}$ 、 RuO_4P_2 」(共) 『錯体化合物辞典』朝倉書店 9 月 673, 710,
727

『教養部紀要』第67巻総目次

第1・2合併号（通巻第196号）令和2年1月発行

論文

- 田中泰賢：『雨月物語』（上田秋成）と『ナイン・ストーリーズ』（サリンジャー）……………（1）
Hiroyoshi TANAKA : *Ugetsu-monogatari* by Akinari Ueda and *Nine Stories* by J. D. Salinger
- Heather DOIRON : Working with Silence in the Second Language Classroom ……………（19）
- 文嬉眞・金美淑：日本の大学における教養科目としての「韓国語学習」
——「中級クラス」受講者のアンケート調査結果をもとに——……………（25）
- Hijin MOON and Misook KIM : Korean Language Learning as a Liberal Arts Subject in Japanese University
—Based on the Questionnaire Results of “Intermediate Class Students”—
- 南部忠明・河野敏宏：来迎院如来蔵所蔵の『相好文字抄』について……………（60）
Tadaaki NAMBU and Toshihiro KÔNO : “Sôgômozisyô” 『相好文字抄』 in the Possession of
the “Raigôin Nyoraizô” 来迎院如来蔵

第3号（通巻第197号）令和2年3月発行

論文

- 藤田淳志：演劇が持つことばの力——ブロードウェイとブッシュ、オバマ、トランプ——……………（1）
Atsushi FUJITA : Power of Words in American Theater: Broadway and Bush, Obama, and Trump
- 菅原研州：洞門における「説戒」について——附録『丘宗潭老師「説戒」』翻刻資料——……………（72）
Kenshû SUGAWARA : On the Precepts of the Sotozen Sect Material of the Reprint of the Document Oka-Sotan’s Precepts
- 南部忠明・河野敏宏：来迎院如来蔵所蔵の『相好集』について……………（30）
Tadaaki NAMBU and Toshihiro KÔNO : “Sôgôsyû” 『相好集』 in the Possession of
the “Raigôin Nyoraizô” 来迎院如来蔵

執 筆 者 紹 介

藤 田 淳 志 (本学准教授…………… 英 語)
FUJITA Atsushi

菅 原 研 州 (本学准教授…………… 宗 教 学)
SUGAWARA Kenshū

南 部 忠 明 (東海高等学校教諭…日 本 語 学)
NAMBU Tadaaki

河 野 敏 宏 (本学教授…………… 文 学)
KONO Toshihiro

教 養 教 育 研 究 会 委 員

(会長) 河 野 敏 宏 (副会長)※有 馬 義 康

(会計) 野 田 大 志

※青 山 健 太 有 馬 義 康 梅 田 豊

北 村 伊 都 子 柴 田 哲 雄 ※杉 浦 克 哉

※塚 本 早 織 虎 澤 慶 太 中 村 綾

野 田 大 志 福 山 悟 山 口 均

※本号編集委員

編 集 後 記

『教養部紀要』第67巻第3号をお届けいたします。皆様のご協力のおかげで、本号には論文3編を掲載することができました。著者の先生方には、ご専門領域の貴重な論文を本号に寄稿して下さったことについて、心よりお礼を申し上げます。また、この場をお借りして、学期末のご多忙の折、編集業務に携わって下さった編集委員の先生方にも深く感謝申し上げます。

慣例にしたがって、本号巻末には教養部所属の先生方の2019年研究業績リストを掲載いたしました。期限内の提出にご協力いただき、御礼申し上げます。

今後も『教養部紀要』が先生方の幅広い分野でのご研究を発表する場となり、ますます充実したものになることを祈念いたします。(塚本記)

令和2年3月19日 印刷
令和2年3月27日 発行

(非売品)

愛知学院大学論叢

編集責任者

教養部紀要第67巻

河野敏宏

第3号(通巻第197号)

発行者 愛知学院大学
教養教育研究会

〒470-0195

愛知県日進市岩崎町阿良池12

電話 〈0561〉(73) 1111(代表)

印刷所 株式会社あるむ

電話 〈052〉(332) 0861

THE JOURNAL OF AICHI GAKUIN UNIVERSITY

Humanities & Sciences

Vol.67 No.3
(Whole Number 197)

C O N T E N T S

Articles

Atsushi FUJITA : Power of Words in American Theater: Broadway and Bush, Obama, and Trump (1)

Kenshū SUGAWARA : On the Precepts of the Sotozen Sect Material of the Reprint
of the Document Oka-Sotan's Precepts (72)

Tadaaki NAMBU and Toshihiro KÔNO : “Sôgôsyû” 『相好集』 in the Possession of
the “Raigôin Nyoraizô” 来迎院如来蔵 (30)

Achievements (2019) (73)

Vol. 67 The Total Contents (83)

Published
by

Aichi Gakuin University
Nagoya, Japan
2020